

近畿大学 薬学部 活動報告集 (令和 5 年度)

Activity Reports of Faculty of Pharmacy,
Kindai University
No.17, 2023

近畿大学 薬学部

Faculty of Pharmacy, Kindai University

令和 6 年 7 月

近畿大学薬学部活動報告書 令和 5 年度版 発刊に寄せて

薬学部長 仲西 功

近畿大学薬学部は、近畿大学の建学の精神である未来志向の「実学教育と人格の陶冶」に則り、教育目標として、6年制の医療薬学科では「薬に関する高度な知識と臨床技能を備え、優れたコミュニケーション能力ならびに問題解決能力を備えた薬剤師として活躍できる人材を養成する」を、また、4年制の創薬科学科では「医薬品の創製・発見や開発・適用などの分野で人類の福祉と健康に貢献できる創造性にあふれた有能な薬学研究者、薬学技術者を社会に輩出する」を掲げております。これらの教育目標を達成するため、社会とりわけ医療や薬学を取り巻く環境変化をふまえ、教育カリキュラムを常に見直しています。令和 5 年度は、令和 6 年度から適用される改訂薬学教育モデル・コア・カリキュラムに対応した新カリキュラムを作成しました。令和 6 年 4 月以降の入学生にはこの新カリキュラムが適用されますが、広い教養と幅広い専門知識、そしてコミュニケーション能力に優れた、社会の期待に応えることのできる人材の養成教育を実施していく方針に変わりはありません。また、「実学教育」を建学の精神のひとつとする大学として、引きつづき研究を通して得られた数多くの成果を継続して社会に発信し、それらの一部は実用化することにより社会に貢献していきます。

薬学および薬剤師を取り巻く環境が大きく変化するなか、時代の変化に速やかに対応しつつ、今後もさらなる教育カリキュラムや研究体制の改善に向けての努力が必要と考えております。

本活動報告書は、近畿大学薬学部の令和 5 年度の教育・研究活動をまとめたものです。本活動報告書をご高覧いただき、皆様からのご批判、ご意見などをいただきましたら幸いです。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

目次

| | |
|-------------------|-----|
| 令和5年度 近畿大学薬学部行事一覧 | 1 |
| Topics | |
| 1. 教員の受賞など | 2 |
| 2. 学会等における学生の受賞 | 4 |
| 3. 研究成果 | 7 |
| 4. 産学連携 | 8 |
| 5. メディア | 10 |
| 6. 就職・進路状況 | 11 |
| 7. その他 | 13 |
| 研究室・部門・研究所 報告 | 19 |
| 医療薬学科 | |
| 化学療法学研究室 | 20 |
| 公衆衛生学研究室 | 25 |
| 生化学研究室 | 29 |
| 製剤学研究室 | 32 |
| 生物薬剤学研究室 | 39 |
| 病態分子解析学研究室 | 42 |
| 病態薬理学研究室 | 44 |
| 薬物治療学研究室 | 48 |
| 有機薬化学研究室 | 51 |
| 臨床薬学部門 | |
| 社会薬学分野 | 55 |
| 医療薬剤学分野 | 59 |
| 医薬品情報学分野 | 63 |
| 教育専門部門 | 67 |
| 創薬科学科 | |
| 医薬品化学研究室 | 72 |
| 創薬分子設計学研究室 | 75 |
| 分子医療・ゲノム創薬学研究室 | 78 |
| 薬品分析学研究室 | 81 |
| 薬用資源学研究室 | 84 |
| 薬学総合研究所 | |
| 機能性植物工学研究室 | 88 |
| 食品薬学研究室 | 91 |
| 先端バイオ医薬研究室 | 101 |
| 教養・基礎教育部門 | 107 |

令和5年度 近畿大学薬学部行事一覧

- 4/1 オリエンテーション (4/1・4/3・4/4)
- 4/6 薬学部 履修ガイダンス(4/6・4/15)
- 4/5 大学院 履修ガイダンス
- 4/6 前期授業開始
- 7/1 医療薬学科 卒論発表会 (～7/8)
- 7/1 大学院 学内推薦入試
- 8/1 研究室配属説明 紹介動画視聴期間 (～9/8)
- 7/27 前期定期試験 (～8/4)
- 8/4 CBT体験受験
- 9/8 卒業式 (9月卒業生対象)
- 9/9 大学院入試 (学内選考・一般選考)
- 9/14 後期授業開始
- 10/14 前期留学生試験
- 11/18 薬学部 推薦入試 (～11/19)
- 12/9 OSCE試験
- 12/23 CBT本試験
- 令和6年 1/26 後期定期試験 (～2/5)
- 1/27 一般前期 (A日程) 入試 (～1/28)
- 2/9 博士論文公聴会(～2/10)
- 2/6 大学院 修士論文発表会
- 2/8 創薬科学科 卒論発表会
- 2/11 一般前期 (B日程) 入試 (～2/14)
- 2/14 第70回 臨床検査技師国家試験
- 2/17 後期留学生入試
- 2/17 第109回 薬剤師国家試験 (～2/18)
- 2/17 大学院入試 (一般選考)
- 3/2 大学院 臨床薬学シンポジウム
- 3/8 一般後期入試 (～3/9)
- 3/19 大学院 学位授与式 (3月期)
- 3/23 卒業式

TOPICS

1. 教員の受賞など

1-1. 「世界で最も影響力のある研究者トップ2%」に本学（薬学部）研究者がランクイン

スタンフォード大学とエルゼビア社が2023年10月4日に更新・発表した世界のトップ2%の科学者を特定する包括的なリスト「標準化された引用指標に基づく科学者データベース(更新版)」に、本学から「生涯」(career-long)の区分に2名、「単年」(single recent year)の区分に3名がランクインしました。

このリストは、影響力の大きい科学論文を執筆した世界中の科学者を対象として作成されたものです。文献データベース(Scopus)に基づき、総被引用回数(自己引用を除く)、h-index、単著論文数、個別引用論文数、共著調整指数、総被引用回数と個別引用論文数の比率などによって研究者の論文への貢献度を重視した標準化された情報を算出し、ランキングがされています。様々な複合指標を基にした多角的な解析がされているため、世界で最も影響力のある科学者のランキングの一つとされています。

career-long(生涯)の区分

川畑 篤史 (薬学部 医療薬学科/薬学研究科/薬学総合研究所 教授)

森川 敏生 (薬学総合研究所 薬学研究科/アンチエイジングセンター 教授)

※公表データ順

single recent year(単年)の区分

川畑 篤史 (薬学部 医療薬学科/薬学研究科/薬学総合研究所 教授)

森川 敏生 (薬学総合研究所 薬学研究科/アンチエイジングセンター 教授)

長井 紀章 (薬学部 医療薬学科/薬学研究科 教授)

※公表データ順

1-2. 薬学総合研究所の森川敏生教授が、令和5年度「成長型中小企業等研究開発支援事業」(Go-Tech事業)(経済産業省)に採択

研究開発研究名：免疫強化作用を訴求した3種の機能性米セラミド食品原料の研究開発および事業化

事業管理機関：公益財団法人名古屋産業振興公社

主たる中小企業等：オリザ油化株式会社

連携している大学等：国立大学法人北海道大学、国立大学法人埼玉大学、国立大学法人佐賀大学、学校法人近畿大学

1-3. 有機薬化学研究室の石川文洋准教授らの論文が Chem. Comm.の表紙に掲載

Biosynthetic diversification of non-ribosomal peptides through activity-based protein profiling of adenylation domains.

Fumihiro Ishikawa, Natsumi Tsukumo, Erika Morishita, Shumpei Asamizu, Saaya Kusuhara, Shinsuke Marumoto, Katsuki Takashima, Hiroyasu Onaka, Genzoh Tanabe
Chem. Commun., 2023, 59, 9473-9476.



Showcasing research from the Pharmaceutical Organic Chemistry laboratory, Faculty of Pharmacy, Kitasato University, Shizuoka, Japan

Biosynthetic diversification of non-ribosomal peptides through activity-based protein profiling of adenylation domains

Activity-based protein profiling for analyzing the adenylation domains of non-ribosomal peptide synthetase (NRPS) has been established. The competitive ADP-ATP is produced by the NRPS substrate analogue, when coupled with unrecycled ribosyl transferase, the antibiotic gramicyclin 2 was strategically discovered.



ROYAL SOCIETY OF CHEMISTRY

rsc.li/chemcomm

1-4. 薬学総合研究所 食品薬学研究室の森川敏生教授の論文が、Chem. Pharm. Bull.の表紙に掲載

Review

Pharmaceutical Food Science: Search for Bio-Functional Molecules Obtained from Natural Resources to Prevent and Ameliorate Lifestyle Diseases

Toshio Morikawa

Chem. Pharm. Bull., 71, 756-765 (2023).

本論文は、2022年度日本薬学会学術振興賞の受賞記念総説として掲載されたものです。

1-5. 製剤学研究室の大竹裕子講師らの研究が 29th Congress of Federation of Asian Pharmaceutical Associations 2023 (FAPA2023)(2023.10.24~28 開催)にて、Poster Present-High Distinction Award に選出

演題名：Design of a Sustainable Release Contact Lenses Device Loading Tranilast

発表者：Hiroko Otake, Toru Matsunaga, Shiori Hino, Miyu Kinugawa, Shiho Yano, Tomohisa Tadokoro, Shinichiro Kobayakawa, Noriaki Nagai

2. 学会等における学生の受賞

2-1. 化学療法学の学生が、第 143 回日本薬理学会近畿部会（2023.6.24 開催）において「優秀発表賞」を受賞

竹中 美貴（薬学部医療薬学科 6 年 化学療法学研究室）

演題：劇症肝炎におけるケモカイン受容体 CCR6 の役割



2-2. 製剤学研究室の大学院生が、第 62 回日本白内障学会総会・第 49 回水晶体研究会（2023.7.21～23 開催）において、「若手研究者トラベルアワード」を受賞

出口 粧央里（大学院薬学研究科薬学専攻博士課程 4 年 製剤学研究室）

第 49 回水晶体研究会トラベルアワード

門脇 玲太（大学院薬学研究科薬科学専攻博士前期課程 1 年 製剤学研究室）

第 62 回日本白内障学会トラベルアワード

2-3. 病態薬理学研究室の学生が、生体機能と創薬シンポジウム 2023 (2023.8.24～25 開催)において、「優秀ポスター発表賞」を受賞

関 千咲斗（薬学部創薬科学科 4 年 病態薬理学研究室）

演題名：「Oxaliplatin 誘発性末梢神経障害の発症機序解析：血小板由来 HMGB1 と補体 C5a/C5aR 系の関与について」



2-4. 本学の学生が第 30 回日本免疫毒性学会学術年会（2023.9.11～13）において、「学生・若手優秀発表賞」を受賞

酒井 貴之（近畿大学薬学部 創薬科学科 4 年 化学療法学研究室）

「ケモカイン受容体 CCR4 阻害剤はアトピー性皮膚炎マウスにおいて Th2 細胞と Th17 細胞の浸潤と増殖を抑制する」

2-5. 本学の学生が第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会（2023.10.14 開催）において、「優秀口頭発表賞・優秀ポスター発表賞」を受賞

【優秀口頭発表賞】

田中 侑希（薬学研究科薬学専攻 4 年 医薬品情報学分野）

「2 型糖尿病患者における sodium-glucose cotransporter 2 阻害薬と膵がんとの関連性 一大規模レセプトデータを用いた解析」

山田 さくら（薬学部医療薬学科 5 年 食品薬学研究室）

「ent-Kaurane 型ジテルペノイド enmein の NO 産生抑制活性における作用機序の解明および標的分子の同定」

関 千咲斗（薬学部創薬科学科 4 年 病態薬理学研究室）

「Oxaliplatin 誘起末梢神経障害への血小板由来 HMGB1 および補体 C5a/CaR 系の関与」

【優秀ポスター発表賞】

西田 晃尚（薬学研究科薬科学専攻 1 年 化学療法学研究室）

「ケモカイン CCL28 は間質細胞からの CCL11 の発現を誘導し、好酸球の腫瘍浸潤に関わる」



2-6. 本学の学生が日本生薬学会第 69 回年会（2023.9.9～10 開催）において、「優秀発表賞（口頭発表の部）」を受賞

【優秀発表賞（口頭発表の部）】

高田隆矢（薬学部医療薬学科 5 年 薬学総合研究所食品薬学研究室）

「地膚子 (Kochia scoparia, 果実) の高脂肪食飼育マウスを用いた脂質吸収抑制作用」



2-7. 本学の学生が第 144 回 日本薬理学会近畿部会（2024.3.20 開催）において「優秀発表賞」を受賞

迫 桃子（薬学部医療薬学科 5 年 病態薬理学研究室）

抗がん剤 vincristine 誘起末梢神経障害の発現におけるマクロファージおよび Schwann 細胞由来 HMGB1 と局所血液凝固系の相反する役割

2-8. 本学の学生が日本薬学会第 144 年会（2024.3.28～31 開催）において「学生優秀発表賞」を受賞

【口頭発表】

酒井 貴之（薬学部創薬科学科 4 年 化学療法学研究室）

アトピー性皮膚炎におけるケモカイン CCL28 の役割

【ポスター発表】

水野 友理（薬学部医療薬学科 5 年 公衆衛生学研究室）

人工腸液条件下におけるジルコニウムシクロケイ酸ナトリウム水和物への併用薬剤の吸着挙動

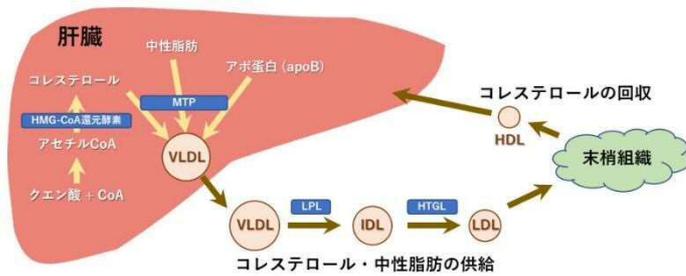
西川 勝悟（薬学部創薬科学科 4 年 食品薬学研究室）

生薬クジン（苦参, SOPHORAE RADIX）由来プレニルフラボノイドの抗アレルギー活性

3. 研究成果

3-1. ローズヒップ由来ティリロサイドによる脂質異常症予防作用の可能性が明らかに 「日本生薬学会 第69回年会」において発表 (2023.8.30-News Release)

森下仁丹株式会社（本社：大阪市、代表取締役社長 森下雄司、以下「当社」）は、近畿大学薬学総合研究所・同大アンチエイジングセンター（本部：東大阪市、学長 細井美彦）の森川敏生教授との共同研究において、当社の独自素材であるローズヒップエキスに含まれるティリロサイドに、高脂血症などの脂質異常症を予防する働きがあることを明らかにしました。この成果について、2023年9月9日（土）～10日（日）に東北医科薬科大学で開催される「日本生薬学会 第69回年会」にて発表しました。



4. 産学連携

4-1. 近畿大学×大阪府「健康キャンパス・プロジェクト」 大阪府薬務課の薬剤師が大学 1 年生に薬物乱用防止啓発の講演を実施 (2023.4.18-News Release)

近畿大学（大阪府東大阪市）と大阪府は、平成 29 年（2017 年）から共同で取り組む「健康キャンパス・プロジェクト」の一環として、令和 5 年（2023 年）4 月 24 日（月）、近畿大学東大阪キャンパスにて、近畿大学薬学部の 1 年生を対象に、「大阪府における健康づくりと薬物乱用防止啓発に関する取組みについて」と題した講演を実施しました。

4-2. 「FemBerry (フェムベリー™/ストロベリーグアバエキス)」リリース 血流改善による冷え性・むくみ改善とバリア機能促進作用を持つ国産フルーツ素材 (2023.9.22-News Release)

オリザ油化株式会社（本社：愛知県一宮市、代表取締役：村井弘道、以下「オリザ油化」）は、冷え性・むくみ改善とバリア機能促進素材としてフェムベリー™（ストロベリーグアバエキス）を食品開発展（10 月 4 日～6 日）で上市しました。

フェムベリー™の原料であるイエローストロベリーグアバは、キバンジロウ（黄蕃石榴）とも呼ばれるフトモモ科 *Psidium littorale* の果実です。熱帯性植物ですが、日本でも苗がガーデニング用に販売されています。商業規模で栽培されているのは唯一南伊豆の限定された地域のみで、生食の他、ジャムや果実酢、地ビールの原材料等に幅広く使用されています。しかし、成分や機能性に関する研究はこれまでほとんど行われてきませんでした。このたび、7 年に渡る研究を経てフェムベリー™として商品化することに成功しました。



近畿大学薬学総合研究所の森川敏生 教授と共同で、国産ストロベリーグアバの成分研究実施

4-3. 株式会社西部海苔店と近畿大学薬学部が、海苔から抽出した保湿成分「ポルフィラン」を活用した革新的な化粧品「PORPHYRNURSE+」を共同開発 地球温暖化により大きな課題を抱える海苔業界で、海苔の新たな使用価値の提案を通して業界のサステナビリティに貢献(2024.3.13-News Release)

株式会社西部海苔店（所在地：大阪府大東市 代表取締役社長：西出悟）と近畿大学薬学部（大阪府東大阪市）医療薬学科教授 多賀淳は、海苔の保湿成分「ポルフィラン」を活用した革新的な化粧品「PORPHYRNURSE+(ポルフィナース)」を共同開発しました。

この製品は、環境にも肌にも優しい点が特徴で、コロナ禍による飲食店の閉鎖問題に直面した際に、海苔業界における新たな価値創造の試みとして開発を行いました。「PORPHYRNURSE+(ポルフィナース)」は、海苔の持つ自然由来成分により、肌の保湿と健康を支えるとともに、地球環境への配慮を具現化した化粧品で、この開発は、産業界と学术界の協力による持続可能な社会づくりへの貢献という目的のもとで実現しました。未来への展望として、環境に優しい製品開発の重要性を示し、さらなる研究と製品改良を促進する基盤を築くことを目指しています。



4-4. 「京都廣川書店 AWARD 2023」の受賞者が決定

医療薬学科1年生 梅原寧子さんが「京都廣川書店 AWARD 2023」を受賞（副賞 500,000 円）し、授賞式が行われました。



5. メディア

5-1. 2023.5.22 放送 読売テレビ「情報ライブ ミヤネ屋」近畿大学薬学部 医療薬学科 教授 小竹武がコメント

市川猿之助さんの報道を受けて、向精神薬についてコメントしました。

5-2. 2023.5.25 放送 NHK「所さん！事件ですよ」近畿大学薬学部 医療薬学科 教授 川崎直人がコメント

「髪の毛がだまし取られた！？取材！毛髪最前線」のテーマにコメントしました。

5-3. 2023.7.5 放送 J:COM チャンネル「虹色ネットワーク」薬用植物園見学会の様子が放映

5-4. 2023.7.21 掲載 「薬事日報」薬学総合研究所 教授 森川敏生らの取り組みについて紹介

森川教授 と三進金属工業株式会社、M 式水耕研究所、大阪大学大学院薬学研究科、いなり天産物研究所の共同研究グループで取り組んでいる ヒロハセネガ完全水耕栽培 について紹介されました。

5-5. 2023.8.1 放送 TBS「THE TIME,」近畿大学薬学部 医療薬学科 准教授 船上仁範がコメント

怪談話を聞いた時など、「怖いと感じると寒くなる」と言うが、実際に体温が下がるのかについてコメントしました。

5-6. 2023.11.10 放送 関西テレビ「旬感 LIVE とれたてっ！」近畿大学薬学部 医療薬学科 教授大鳥徹が生出演

ジェネリック医薬品が不足していることについて、不足の原因や今後どうなっていくのかななどを専門家として生出演でコメントしました。

5-7. 2023.12.23 放送 日経 CNBC「ものづくりの挑人たち」薬学総合研究所 教授 森川敏生がコメント

オリザ油化株式会社との共同研究で明らかになったヒト型セラミドについてコメントしました。

6. 就職・進路状況

【医療薬学科】

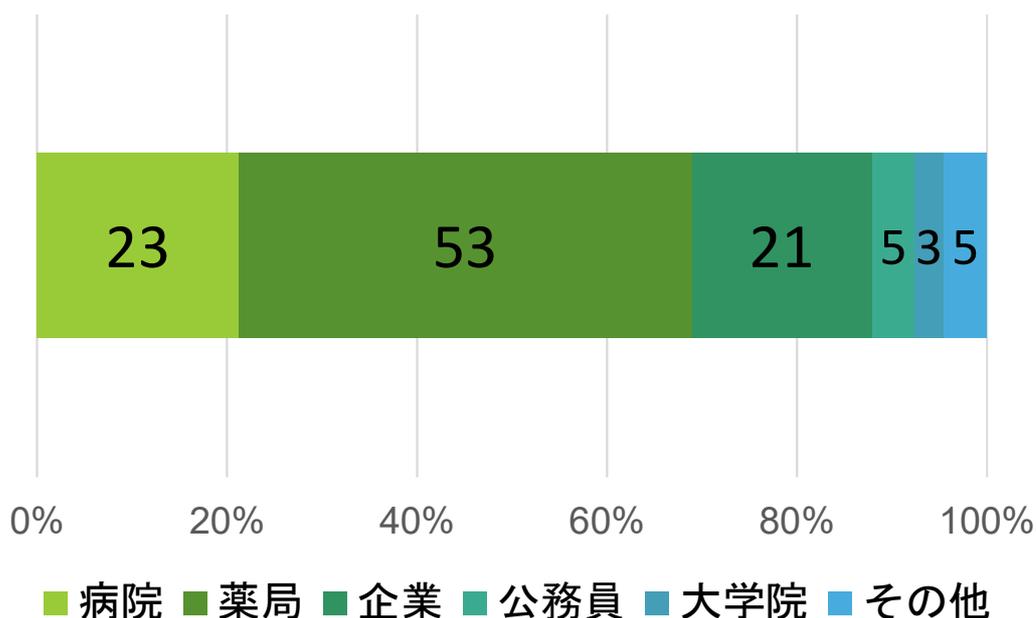
病院 (28名)：近畿大学病院、和歌山県立医科大附属病院、奈良県立医科大学附属病院、和歌山赤十字医療センター、東京医科歯科大学病院、大阪府立病院機構、奈良県立病院機構、和泉市立総合医療センター、堺市立総合医療センター、住友病院、北野病院、関西電力病院、日本赤十字社近畿ブロック血液センター、医誠会病院、大阪警察病院、府中病院、三郷中央総合病院、洛和会病院、公立豊岡病院、市立大津市民病院、霧島市医師会医療センター、八尾徳洲会病院

薬局 (63名)：アイングループ、ウエルシア、マツモトキヨシ、スギ薬局、日本調剤、クオール、メディカルー光、サンドラッグ、エバグリーン薬局、コスモス薬品、キリン堂、たんぼぼ薬局、アルカ、ココカラファイン、ファーマシー、メディカルユアーズ、プラザ薬局、船場西薬局、サエラ薬局、イオンリテール、小島薬局、ハザマ薬局、中部薬品、総合メディカル

企業 (25名)：中外製薬臨床研究、アストラゼネカ、グラクソ・スミスクライン、日本イーライリリー、沢井製薬、カイゲンファーマ、常盤薬品工業、アッビー合同会社、協和キリン、シミック、東和薬品、新日本科学 PPD、健栄製薬、マルホ、IQVIA、ピアス、ソラスト、エイツーヘルスケア、スプリングフィールド

公務員 (6名)：厚生労働省、厚生労働省麻薬取締官、大阪市、堺市、特別区（中央区）

大学院 (4名)：近畿大学

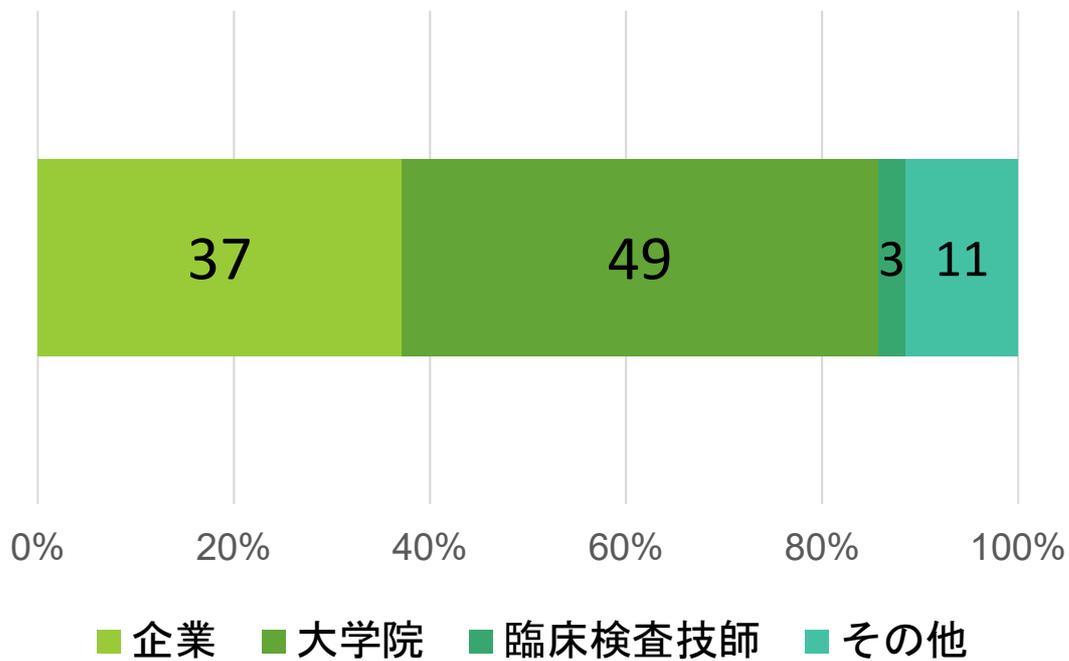


【創薬科学科】

企業 (13 名)：新日本科学 PPD、シミックヘルスケア・インスティテュート、イーピーエス、カイゲンファーマ、ミリオナ化粧品、WDB エウレカ、アース製薬、加美乃素本舗、ミルボン、大木、EBM

大学院 (17 名)：近畿大学、東京大学、京都大学、大阪大学、奈良先端科学技術大学

臨床検査技師 (1 名)：医誠会病院



7. その他

7-1. 国際交流

Graduate school of Pharmacy, Gujarat Technological University の Manju Misra 教授による招待講演（2024年3月）

日本学術振興会 二国間交流事業（代表研究者 長井紀章, 製剤学研究室）の一環として Gujarat Technological University から Manju Misra 教授が来学し、本学 大学院および学部学生へ向け最近の研究成果について講演が行われました（講演タイトル：Novel thiosugar sulfoniums, salacinol and neokotalanol, with antidiabetic activity obtained from plants of the genus *Salacia*）。また、本学 4 研究室（病態薬理学研究室, 公衆衛生学研究室, 薬物動態学研究室, 製剤学研究室）を見学し、各研究室の研究成果についてディスカッションが行われました（担当教員 坪田先生, 緒方先生, 川瀬先生, 大竹先生）。



左：Gujarat Technological University, 中央：坪田先生とのディスカッション, 右：Manju Misra 教授と長井教授

7-2. セミナー・シンポジウム等開催

1) 第17回近畿支部夏季セミナーを開催（2023年8月7-8日）

2023年8月7日（月）と8日（火）の2日間、第17回近畿支部夏季セミナーを大阪府四條畷市で開催しました（実行責任者 薬学部 山本佐知雄 講師）。本セミナーでは分析の基礎、企業研究、プロテオミクス研究、材料化学分野の最先端研究等の幅広い研究講演会を開催するとともに、若手研究者の交流の場としてポスター発表会を開催しています。研究講演会では日本分析化学会近畿支部長による特別講演をはじめ、第一線で活躍しておられる3名の若手研究者による講演、最先端の技術を紹介していただく2件の企業講演を実施いたしました。また、学生による45件のショートプレゼンテーションとポスター発表は「研究室報告以上・学会未満」という本セミナーの趣旨に合った非常に有意義なものでした。



7-3. 近畿大学×大阪府「健康キャンパス・プロジェクト」の実施

大学入学時までの「知識偏重型の受動的学習」から脱却し、自らが課題を見出す「問題発見型の能動的学習」を身につけるための取り組みとして、1年前期に基礎ゼミ(必須科目)を実施しています。基礎ゼミでは、フレッシュマンセミナーとして、大学での学び方、薬学部生として身に付けるべき倫理観など関する全体講義を実施した後、少人数グループに分かれ、自ら興味を持った討論テーマについて討論し、論理的思考力、表現力、判断力を養いつつ、グループの意見を整理して発表することにより、社会人基礎力を身に付けることを目指しました。令和5年度は、大阪府と大学が連携して取り組んでいる「健康キャンパス・プロジェクト」の一環として、「健康づくり」を討議課題としました。1グループ約10名の22グループがそれぞれのグループ

内で議論を重ねて作成したポスターを用いて、7月3日と7月10日に発表会を実施しました。発表会には大阪府健康医療部健康推進室の方も参加され、各グループの発表内容の感想とアドバイスをいただきました。また、発表会では学生が良かったと思う発表を投票しました。その結果、「グループ1：サウナでととのってみな、飛ぶぞ!」「グループ9：あつまれ!乳酸菌の森」「グループ12：睡眠マジック教えます ～授業が眠たい君へ～」の3つの発表が優秀賞を獲得しました。

この取り組みは近畿大学のNEWS RELEASEに掲載されました。

< <https://www.kindai.ac.jp/news-pr/news-release/2023/04/038628.html> >



7-4. 薬用植物園

1) 附属中学校課外学習受け入れ

4月25日(火)に附属中学校医薬コース2年生40名の生徒が来園し、講義や園内見学、薬草茶の試飲により薬用植物や漢方について学びました。

2) 学生による新入生歓迎の見学会開催

5月13日(土)に薬学部自治会や植物研究会、漢方研究会による新1回生向けの見学会が開催されました。

3) 薬用植物園見学会の開催

今年度よりキャンパス内講義室も利用し、過去最大の参加者数となりました。

1. ももの花咲くふるさとづくり

7月1日(土) 参加者 80名

2. 朝の植物園散歩

7月24日(月) 参加者 30名

3. 葉の表皮細胞、気孔を観察

7月29日(土)、31日(月) 参加者計 16名

4. 標本教室

8月6日(日) 参加者 39名

植物研究会の学生が講師を務め、読売新聞にも掲載されました。

5. サフランの魅力

9月30日(土) 参加者 108名

6. 洋ランの育て方

3月2日(土)、16日(土) 参加者計 33名



4) 東大阪市近江堂リージョンセンター（はすの広場）との協働事業

地域貢献の一環として、市民の交流の場である近江堂市民プラザにて、1月12日(金)、2月2日(金)の計2回「洋ランの育て方」講習会を行いました。

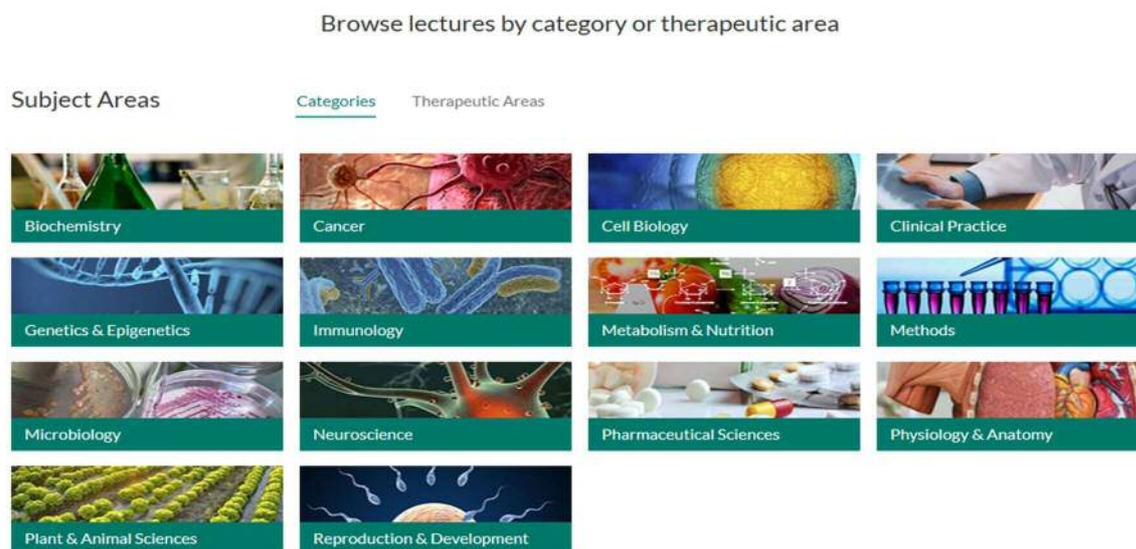
7-5. 創薬科学科学生が東大阪市ゆかりの古代桃「稲田桃」を使ったジャム作りに参加 地元ボランティアと交流 (2023.9.7-News Release)

東大阪市ゆかりの古代桃「稲田桃」を病院食に提供，薬学総合研究所食品薬学研究室（森川敏生教授）所属の創薬科学科学生がジャムを製造し，農学部生がメッセージカードを作成しました。



7-6. 薬学部教養基礎教育部門 薬学部英語教育への取り組み

- 1) Utilizing Online Contents that Specialize in Medicine and Pharmacy
薬学・医療に特化したサイエンス系ウェブコンテンツを使用した授業



Being exposed to the latest research conducted by world-renowned researchers is stimulating for students learning pharmaceutical sciences and drug discovery. Kindai University has partnered with a specialized U.K. website called Henry Stewart Talks <https://hstalks.com/biosci/> which disseminates scientists' technical expertise and research worldwide. Students can watch presentations of the latest research in various fields around the world and access their manuscripts and PowerPoints. This allows

them to become familiar with World English (English accents spoken in various countries), practice presentation skills, and improve their listening comprehension. Of course, this can be done anytime, anywhere using devices such as smartphones or tablets. Additionally, regular webinars are held, allowing students to constantly stay updated on the latest medical technologies and information.

医療薬学、創薬学の学生にとって、最先端の研究者による研究にふれることは学生にとって刺激となります。近畿大学では、Henry Stewart Talks というイギリスのサイエンス系研究者の技術、研究を世界に発信する専門ウェブ・サイトと提携しております。様々な医療・薬学分野において世界各地で行われている最新の研究のプレゼンテーションを視聴し、原稿、Power Point まで閲覧することができます。ワールド・イングリッシュ（世界各国で話される英語のアクセント）に慣れる、プレゼンテーションの仕方やヒアリングの練習になることは、もちろん、スマートフォンやタブレットなどのデバイスで、いつでもどこでも閲覧が可能です。また定期的に Webinar も開催されており学生は、常に最新の薬学・医療技術や情報を視聴することができます。

2) International Communication Program to Nurture Real-Life English Communication Skills

即戦力として使える英語を身につける**実践型**のオーラル・イングリッシュプログラム

The Japanese Ministry of Health, Labour and Welfare (MHLB) adopted a strategy to expand the Japanese pharmaceutical industry's share of the global market. Today, many Japanese pharmaceutical corporations have international alliances. In fact, it is common for the research on a drug to be carried out in Japan and have its manufacture offshored to places like India, Malaysia and the Philippines. Communications between these different bases of operation often requires proficiency in written correspondence as well as spoken English. In this context, successful language learning is not just about knowing grammar and vocabulary – it is about knowing how to communicate in real-life day-to-day situations. The Kindai University Oral English program presents students with a variety of tasks and exercises that are designed to give students the ability and the confidence to express their thoughts and ideas in English so that they can effectively communicate with others across borders.



3) プレゼンテーションを中心にした アクティブラーニング型授業

アクティブラーニング型授業とは、教員から学生への一方向な知識の伝達型を中心にした受動的学習とは異なり、学習者が積極的に能動的な学習に関与する授業の一つの形態です。近畿大学薬

学部では学部の特色に応じた医療や科学に特化した ESP 教育に力を入れており、医療、薬学、科学をテーマにした教材を用いてアクティブラーニング型授業を行っています。授業の中ではペアワークやグループワークを中心に、協同学習、問題解決学習、話し合い学習、グループ・ディスカッションなどの幅広い授業活動を取り入れながら、3年生以上の上位学年で必要な専門分野の論文を読解したり、研究成果を英語で発信するための英語の基礎力を育成しています。特に1年生の講義ではプレゼンテーション活動を取り入れた体系的なアクティブラーニング型授業を推進しています。

研究室・部門・研究所 報告

化学療法学研究室

職・氏名・学位

教授・中山 隆志・薬学博士 担当科目：放射化学・衛生化学実習(2 分担)、基礎薬科学実習(1 分担)、基礎ゼミ(1)、微生物学(2)、免疫学(2)
Takashi Nakayama

所属学会：日本薬学会、日本免疫学会、日本癌学会、日本分子生物学会、日本がん分子標的治療学会

講師・松尾 一彦・薬学博士 担当科目：放射化学・衛生化学実習(2 分担)、基礎薬科学実習(1 分担)、基礎ゼミ(1)、生物学英語(創 3 分担)、化学療法学(医 3)
Kazuhiko Matsuo

所属学会：日本薬学会、日本免疫学会、日本ワクチン学会、日本 DDS 学会、日本インターフェロン・サイトカイン学会

講師・原 雄大・博士(薬科学) 担当科目：放射化学・衛生化学実習(2 分担)、基礎薬科学実習(1 分担)、基礎ゼミ(1)、化学療法学(創 3)、実践科学英語演習(創 4 分担)
Yuta Hara

所属学会：日本薬学会、日本薬理学会、日本神経化学会、日本免疫学会、日本癌学会

現在行われている主な研究テーマ

1. 細胞遊走因子ケモカインのがん、感染症、自己免疫疾患、およびアレルギー疾患における病的役割の研究
2. 新規発がん関連遺伝子の同定とその機能解析
3. ケモカインシステムを利用した新規ワクチンシステムの確立
4. 和漢薬ライブラリーを用いたケモカインアゴニスト/アンタゴニストの探索研究
5. 新規ケモカイン受容体の探索

研究業績

[原著論文]

1. Kamei M, Matsuo K, Yoshida Y, Shimada K, Otsuki M, Fujimoto N, Ishibashi M, Quan YS, Kamiyama F, Hara Y, Takamura S, Nakayama T : Intratumoral Delivery of a Highly Active form of XCL1 Enhances Antitumor CTL Responses through Recruitment of CXCL9-expressing Conventional Type-1 Dendritic Cells

Int. J. Cancer, **154**(12), 2176-2188, 2024 年 2 月

2. Kaibori Y, Tamoto S, Okuda S, Matsuo K, Nakayama T, Nagakubo D : CCL28: A Promising Biomarker for Assessing Salivary Gland Functionality and Maintaining Healthy Oral Environments

Biology (Basel), **13**(3), 147, 2024 年 2 月

3. Vasquez Ayala A, Hsu CY, Oles RE, Matsuo K, Loomis LR, Buzun E, Carrillo Terrazas M, Gerner RR, Lu HH, Kim S, Zhang Z, Park JH, Rivaud P, Thomson M, Lu LF, Min B, Chu H : Commensal Bacteria Promote Type I Interferon Signaling to Maintain Immune Tolerance in Mice
J. Exp. Med., **221**(1), e20230063, 2024 年 1 月
4. Hara Y, Honzawa T, Kitagawa M, Sano R, Matsuo K, Nakayama T : Aggravation of Lipopolysaccharide-induced Depressive-like Behavior in CCR4-deficient Mice
J. Pharmacol. Sci., **153**(3):89-93, 2023 年 11 月
5. Sato M, Matsuo K, Susami Y, Yamashita A, Hayasaka H, Hara Y, Nishiwaki K, Oiso K, Kawada A, Otsuka A, Nakayama T : A CCR4 Antagonist Attenuates Atopic Dermatitis-like Skin Inflammation by Inhibiting the Recruitment and Expansion of Th2 Cells and Th17 Cells
Int. Immunol., **35**(9), 437-446, 2023 年 9 月
6. Dhanushkodi NR, Prakash S, Quadiri A, Zayou L, Srivastava R, Tran J, Dang V, Shaik AM, Chilukurri A, Suzer B, Vera P, Sun M, Nguyen P, Lee A, Salem A, Loi J, Singer M, Nakayama T, Vahed H, Nesburn AB, BenMohamed L : Mucosal CCL28 Chemokine Improves Protection against Genital Herpes through Mobilization of Antiviral Effector Memory CCR10⁺CD44⁺CD62L⁻CD8⁺ T Cells and Memory CCR10⁺B220⁺CD27⁺ B Cells into the Infected Vaginal Mucosa.
J. Immunol., **211**(1), 118-129, 2023 年 6 月
7. Higuchi T, Hashida Y, Matsuo K, Kitahata K, Ujihara T, Murakami I, Nakayama T, Daibata M : EBV-positive Pyothorax-associated Lymphoma Expresses CXCL9 and CXCL10 Chemokines that Attract Cytotoxic Lymphocytes via CXCR3.
Cancer Sci., **114**(6), 2622-2633, 2023 年 6 月
8. Yamasaki A, Miyake R, Hara Y, Okuno H, Imaida T, Okita K, Okazaki S, Akiyama Y, Hirotsu K, Endo Y, Masuko K, Masuko T, Tomioka Y : Dual-targeting Therapy against HER3/MET in Human Colorectal Cancers.
Cancer Med., **12**(8), 9684-9696, 2023 年 4 月

[学会・シンポジウム]

1. 西田晃尚、松尾一彦、山本真也、山崎真子、原 雄大、中山隆志: 好酸球を介したマウスメラノーマに対する腫瘍免疫活性化機構
日本薬学会第 144 年会 (横浜)、2024 年 3 月 28-31 日
2. 酒井貴之、松尾一彦、山下絢香、原 雄大、中山隆志: アトピー性皮膚炎におけるケモカイン CCL28 の役割
日本薬学会第 144 年会 (横浜)、2024 年 3 月 28-31 日
3. 豊田教幹、松尾一彦、板井悠里、小林 滯、西 優希奈、原雄大、中山隆志: 乳がん細胞株 4T1 の肺転移モデルにおいてケモカイン CCL17-CCR4 系は Th17 細胞を介した抗腫瘍免疫応答に關与する
日本薬学会第 144 年会 (横浜)、2024 年 3 月 28-31 日
4. 坂東政充、原 雄大、竹中美貴、松尾一彦、中山隆志: ケモカイン受容体 CCR6 は IL-17A 産生細胞の遊走を介して劇症肝炎病態を制御する
第 144 回日本薬理学会近畿部会 (大阪)、2024 年 3 月 20 日
5. Yuta Hara, Ritsuki Sano, Moeka Kitagawa, Tatsuma Honzawa, Kazuhiko Matsuo, Takashi Nakayama: CCR4 deficiency aggravates depressive-like behavior in a mouse model of lipopolysaccharide-induced depression
第 52 回日本免疫学会学術集会 (幕張)、2024 年 1 月 17-19 日
6. Kazuhiko Matsuo, Momo Kamei, Shiki Takamura, Osamu Yoshie, Takashi Nakayama: A highly active form of XCL1 predominantly induces central memory CD8⁺ T cells by recruiting cDC1 migration to draining lymph nodes without strong activation
第 52 回日本免疫学会学術集会 (幕張)、2024 年 1 月 17-19 日
7. 原 雄大、佐野立樹、松尾一彦、中山隆志: グリオーマにおけるケモカイン受容体 CCR4 の役割
第 97 回日本薬理学会年会 (神戸)、2023 年 12 月 14-16 日
8. 佐野立樹、原 雄大、北川萌香、本澤龍菜、松尾一彦、中山隆志: リポポリサッカライド誘発うつ様行動におけるケモカイン受容体 CCR4 の寄与
第 97 回日本薬理学会年会 (神戸)、2023 年 12 月 14-16 日
9. 奥村遼平、原 雄大、松尾一彦、中山隆志: ケモカイン受容体 CCR4 の欠損は慢性肝炎病態を軽減する
第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会 (神戸)、2023 年 10 月 14 日

10. 西田晃尚、山本真也、松尾一彦、早坂晴子、海堀祐一郎、長久保大輔、原 雄大、義江 修、中山隆志: ケモカイン CCL28 は間質細胞からの CCL11 の発現を誘導し、好酸球の腫瘍浸潤に関わる
第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会 (神戸)、2023 年 10 月 14 日
11. 松尾一彦、山本真也、西田晃尚、山崎真子、海堀祐一郎、長久保大輔、原 雄大、中山隆志: ケモカイン CCL28 は好酸球の CCL11-CCR3 系を介した遊走を促進することでマウスメラノーマに対する CD8 陽性 CTL 応答を増強する
第 82 回日本癌学会学術集会 (横浜)、2023 年 9 月 21-23 日
12. 亀井萌百、松尾一彦、吉田祐亮、島田花穂、高村史記、原 雄大、中山隆志: 腫瘍内微小環境の改善を目的とした cDC1 を標的とするがん免疫療法
第 82 回日本癌学会学術集会 (横浜)、2023 年 9 月 21-23 日
13. 大塚優里佳、本澤龍茉、松尾一彦、長尾遥佳、定千尋、名小路 美月、原 雄大、中山隆志: 食物アレルギー病態形成におけるケモカイン受容体 CCR4 の影響に関する検討
第 30 回日本免疫毒性学会学術年会 (川崎)、2023 年 9 月 11-13 日
14. 酒井貴之、佐藤雅子、松尾一彦、原 雄大、中山隆志: ケモカイン受容体 CCR4 阻害剤はアトピー性皮膚炎マウスにおいて Th2 細胞と Th17 細胞の浸潤と増殖を抑制する
第 30 回日本免疫毒性学会学術年会 (川崎)、2023 年 9 月 11-13 日
15. 名小路美月、本澤龍茉、松尾一彦、大塚優里佳、原 雄大、中山隆志: DSS 誘発大腸炎モデルにおけるケモカイン受容体 CCR4 欠損の影響
第 30 回日本免疫毒性学会学術年会 (川崎)、2023 年 9 月 11-13 日
16. 竹中美貴、原 雄大、坂東政充、松尾一彦、中山隆志: 劇症肝炎におけるケモカイン受容体 CCR6 の役割
第 143 回日本薬理学会近畿部会 (名古屋)、2023 年 6 月 24 日
17. 佐野立樹、原 雄大、松尾一彦、中山隆志: グリオーマにおける Th17 サイトカインの寄与
第 143 回日本薬理学会近畿部会 (名古屋)、2023 年 6 月 24 日
18. 奥村 遼平、原 雄大、松尾 一彦、中山 隆志: ケモカイン受容体 CCR4 を介した Th17 細胞遊走が慢性肝炎に与える影響
第 143 回日本薬理学会近畿部会 (名古屋)、2023 年 6 月 24 日

[外部助成]

1. 中山隆志(代表): ケモカイン CCL28 の好酸球を介したメラノーマ腫瘍免疫における役割
令和 5-7 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C)
2. 原 雄大(代表): ケモカイン受容体 CCR4 の Th17 細胞を介したグリオーマ腫瘍免疫における役割
令和 5-7 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C)

[報償等]

1. 酒井貴之: 日本薬学会第 144 年会 学生優秀発表賞 (口頭発表の部)
日本薬学会第 144 年会 (横浜)、2024 年 3 月 28-31 日
2. 酒井貴之: 第 30 回日本免疫毒性学会学術年会 学生・若手優秀発表賞
第 30 回日本免疫毒性学会学術年会 (川崎)、2023 年 9 月 11-13 日
3. 竹中美貴: 第 143 回日本薬理学会近畿部会 優秀発表賞
第 143 回日本薬理学会近畿部会 (名古屋)、2023 年 6 月 24 日

[教育・社会活動]

1. 原 雄大: 日本薬理学会 学術評議員
2019 年 4 月～
2. 原 雄大: 日本薬学会ファルマシアトピックス小委員
2023 年 4 月～

公衆衛生学研究室

職・氏名・学位

教授・川崎 直人・博士(薬学)

Naohito Kawasaki

担当科目：生活環境科学（医 1、創 1 分担）、薬学概論（医 1）、基礎ゼミ（医 1）、食品衛生学（医 3、創 3 分担）、環境衛生学（医 3、創 3）、保健衛生学（医 4）、総合演習 1（医 4）、実践病態と治療（医 5）、衛生化学・放射化学実習（医 3）、創薬科学実習 3（創 3）

所属学会：日本薬学会、日本水環境学会、日本公衆衛生学会、日本毒性学会、日本口腔ケア学会、日本健康体力栄養学会

准教授・緒方 文彦・博士(薬学)

Fumihiko Ogata

担当科目：生活環境科学（医 1、創 1 分担）、基礎ゼミ（医 1）、衛生化学（医 2、創 3）、食品衛生学（医 3、創 3 分担）、総合演習 2（医 6）、衛生化学・放射化学実習（医 3）、創薬科学実習 3（創 3）

所属学会：日本薬学会、日本水環境学会、日本公衆衛生学会、日本毒性学会、日本健康体力栄養学会

現在行われている主な研究テーマ

1. 環境水及び排水処理のための水処理剤の開発とその最適化
2. 医薬品による電解質の変動に関する臨床研究
3. 生活習慣の大規模調査及び疾病発生予防のための主因子分析
4. 毛髪金属分析による疾病予防に関する研究
5. 無機・有機材料による有害重金属の除去技術の開発
6. 無機物質による環境浄化とリン酸の連続回収に関する研究
7. 有価資源（レアメタル）の再資源化に関する研究
8. 有機-無機ハイブリッド分子の細胞毒性と生理活性

研究業績

[原著論文]

1. Mizuno Y, Ogata F, Uematsu Y, Kawasaki N : Effect of Concomitant Drugs on Sodium Zirconium Cyclosilicate Hydrate in Artificial Intestinal Juice
Chem. Pharm. Bull., **72**(3), 286-293, 2024 年 3 月
2. Ogata F, Nagai N, Uematsu Y, Kobayashi Y, Kitamura K, Saenjum C, Kawasaki N : Synthesis of Fine Na-type Zeolite Grains from Coal Fly Ash and the Assessment of the Adsorption Capability of Lead Ions from Aqueous Solutions
RSC Sustain., **2**, 491-498, 2024 年 1 月
3. Ogata F, Sugimura K, Nagai N, Saenjum C, Nishiwaki K, Kawasaki N : Adsorption Efficiency of Crystal Violet from Aqueous Phase onto Carbonaceous Material Prepared from Waste Cotton and Polyester
RSC Sustain., **2**, 179-186, 2023 年 12 月
4. Kadowaki R, Ogata F, Nishida M, Komatsu M, Otake H, Nakazawa Y, Kawasaki N, Nagai N : Therapeutic Effects of Hydrogel Formulations Incorporating Trolox Nanoparticles on Oral Mucositis in Hamsters
Drug Des. Devel. Ther., **17**, 3349-3361, 2023 年 11 月

5. Masuda S, Deguchi S, Ogata F, Yoshitomi J, Otake H, Kanai K, Kawasaki N, Nagai N : Nasal Absorption Enhancement of Mometasone Furoate Nanocrystal Dispersions
Int. J. Nanomedicine, **18**, 5685-5699, 2023 年 9 月
6. Mizuno Y, Uematsu Y, Nishida K, Ogata F, Kawasaki N : Potential Interaction between Sodium Polystyrene Sulfonate and Prescription Drugs in Artificial Intestinal Juice
Chem. Pharm. Bull., **71**(9), 751-755, 2023 年 9 月
7. Ogata F, Tabuchi A, Nagai N, Toda M, Otani M, Saenjum C, Kawasaki N : Application of Granulated Nickel–aluminum–zirconium Complex Hydroxide in the Flow Method for Recovery of Chromium(VI) ions
Chem. Pharm. Bull., **71**(8), 661-664, 2023 年 8 月
8. Yamashiro K, Ikemoto R, Ogata F, Tanei S, Kawasaki N : Evaluation of the Mechanism of Phosphate Removal using Oyster Shell Powder in Aqueous Environments
Chem. Pharm. Bull., **71**(8), 655-660, 2023 年 8 月
9. Kadowaki R, Ogata F, Fushiki A, Daimyo S, Deguchi S, Otake H, Nagata R, Sasaki H, Kawasaki N., Nagai N : Skin Absorption of Felbinac Solid Nanoparticles in Gel Formulation Containing l-menthol and Carboxypolymethylene
J. Pharm. Health. Care Sci., **9**, 20, 2023 年 6 月
10. Otake H, Deguchi S, Ogata F, Kawasaki N, Nagai N : Effect of Ointment Base on the Skin Wound-Healing Deficits in Streptozotocin-Induced Diabetic Rat
Biol. Pharm. Bull., **46**(5), 707-712, 2023 年 5 月

[学会・シンポジウム]

1. 緒方文彦、藏崎瑞貴、戸田徳、大谷昌司、川崎直人: Ni および Al を基材とした複合水酸化物によるモリブデン酸イオンの吸・脱着能
日本薬学会第 144 年会（横浜）、2024 年 3 月 28-31 日
2. 中村武浩、山中友希、三村唯菜、小串祥子、木村朋紀、緒方文彦、川崎直人: 水酸化セリウムによるフッ化物イオンおよびクロムイオンの除去・回収技術への応用
日本薬学会第 144 年会（横浜）、2024 年 3 月 28-31 日
3. 水野友理、緒方文彦、植松勇伍、川崎直人: 人工腸液条件下におけるジルコニウムシクロケイ酸ナトリウム水和物への併用薬剤の吸着挙動
日本薬学会第 144 年会（横浜）、2024 年 3 月 28-31 日
4. 曾我部倅大、山城海渡、緒方文彦、川崎直人: 焼成した化石サンゴを用いたリンの除去に関する基礎的研究
日本薬学会第 144 年会（横浜）、2024 年 3 月 28-31 日
5. 緒方文彦、氏田和哉、植松勇伍、川崎直人: 廃竹材を基材とした磁性保持吸着剤の創製およびメチレンブルーに対する吸着能評価
第 58 回日本水環境学会年会（福岡）、2024 年 3 月 6-8 日
6. Naohito Kawasaki, Kaito Yamashiro, Fumihiko Ogata, Shigeharu Tanei: Relationship between Ideal Body Image and Fatigue or Stress of University Students in Japan and Thailand
1st International Conference on Multidisciplinary Approaches in Medical and Health Sciences (Singapore)、2023 年 11 月 4-5 日
7. 緒方文彦、植松勇伍、川崎直人: 廃棄物であるフライアッシュの利活用を指向した鉛イオンの吸着除去
第 82 回日本公衆衛生学会総会（筑波）、2023 年 10 月 31 日～11 月 2 日
8. 三津野真緒、緒方文彦、小林悠平、大竹裕子、長井紀章、川崎直人: 細粒化カリウム型ゼオライトの創製と鉛イオン吸着能に関する基礎的検討
第 73 回日本薬学会近畿支部総会・大会（神戸）、2023 年 10 月 14 日

9. 緒方文彦、杉村和紀、川崎直人: 綿由来炭素材料の創製および Crystal violet に対する吸着能評価
フォーラム 2023 衛生薬学・環境トキシコロジー (広島)、2023 年 9 月 12-13 日
10. Charlermpong Saenjum, Fumihiko Ogata, Yugo Uematsu, Titikan Mongkolsiri, Naohito
Kawasaki: Evaluation of adsorption mechanism of mercury using mangosteen via elemental distribution
and binding energy analyses
フォーラム 2023 衛生薬学・環境トキシコロジー (広島)、2023 年 9 月 12-13 日
11. 植松勇伍、小畑伊吹、緒方文彦、川崎直人: 水環境の改善を指向したマンゴスチン果皮による
有害重金属の吸着に関する基礎検討
フォーラム 2023 衛生薬学・環境トキシコロジー (広島)、2023 年 9 月 12-13 日
12. 中村武浩、緒方文彦、川崎直人: 錯体形成を起点とした研究展開-未知の細胞機能解析と環境
汚染の浄化に資する基剤開発への新規応用
第 50 回日本毒性学会学術年会 (神奈川)、2023 年 6 月 19-21 日

[研究報告書]

1. 緒方文彦(代表): 循環型社会の構築を目指した廃棄物バイオマスによる水質浄化技術の開発
令和 5 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C)

[外部助成]

1. 川崎直人: 民間より 1 件

[報償等]

1. 水野友理: 学生優秀発表賞 (ポスター)
日本薬学会第 144 年会(横浜)、2023 年 3 月 28-31 日

[教育・社会活動]

1. 川崎直人: 日本私立薬科大学協会 教育研究問題検討委員会 委員
2022 年 4 月～
2. 川崎直人: 薬学教育協議会 衛生薬学教科担当教員会議 委員長
2022 年 4 月～
3. 川崎直人: 日本薬学会 環境・衛生部会 必携・衛生試験法編集委員会 委員長
2022 年 4 月～
4. 川崎直人: 日本薬学会 環境・衛生部会 試験法用語専門委員会 副委員長
2022 年 4 月～
5. 川崎直人: 日本薬学会 環境・衛生部会 フォーラム 委員
2022 年 4 月～
6. 川崎直人: 日本口腔ケア学会 評議員
2022 年 4 月～
7. 川崎直人: 日本薬学会 BPB Reports Editor
2021 年 4 月～
8. 川崎直人: 日本健康体力栄養学会 理事
2019 年 4 月～
9. 川崎直人: 日本薬学会 代議員
2018 年 4 月～
10. 川崎直人: 日本公衆衛生学会 理事
2017 年 10 月～

11. 川崎直人: 日本公衆衛生学会 薬剤師のあり方委員会 委員長
2017年10月～
12. 川崎直人: 日本公衆衛生学会 専門職・教育生涯学習委員会 委員
2017年10月～
13. 川崎直人: 日本公衆衛生学会 代議員
2017年7月～
14. 川崎直人: 日本毒性学会 評議員
2017年7月～
15. 川崎直人: 日本薬学会 環境・衛生部会 広報委員会 委員長
2016年4月～
16. 川崎直人: 日本薬学会 環境・衛生部会 財務委員会 委員
2016年4月～
17. 川崎直人: 日本薬学会 環境・衛生部会 水質試験法専門委員会 委員
2016年4月～
18. 川崎直人: 日本私立薬科大学協会 薬剤師国家試験問題検討委員会 委員
2016年4月～
19. 緒方文彦: 日本薬学会 学術編集委員会 委員
2023年4月～
20. 緒方文彦: 日本薬学会 ファルマシアトピックス小委員会 委員
2023年4月～
21. 緒方文彦: 日本薬学会 環境・衛生部会 必携・衛生試験法編集委員会 委員
2022年4月～
22. 緒方文彦: 日本水環境学会関西支部 理事
2022年4月～
23. 緒方文彦: 日本健康体力栄養学会 理事
2022年4月～
24. 緒方文彦: 日本公衆衛生学会 代議員
2021年7月～
25. 緒方文彦: Frontiers in Environmental Chemistry (Sorption Technologies), Associate Editor
2020年1月～
26. 緒方文彦: 日本毒性学会 生体金属部会 幹事
2018年7月～
27. 緒方文彦: 日本健康体力栄養学会 評議員
2013年4月～
28. 緒方文彦: 日本水環境学会関西支部 幹事
2013年4月～
29. 緒方文彦: 出張講義 薬学について
私立 開智高等学校 (和歌山) 2023年7月8日

生化学研究室

職・氏名・学位

教授・藤原 俊伸・博士(医学) 担当科目：基礎ゼミ(1)、基礎生化学(1)、生化学(1)、薬学概論(医1分担)、基礎薬科学実習(1分担)、免疫・分子生物学実習(医2分担)、創薬科学実習2(創2分担)

Toshinobu Fujiwara

所属学会：日本RNA学会、日本分子生物学会

講師・深尾 亜喜良・博士(理学) 担当科目：基礎ゼミ(1)、生物学入門(1併担)、基礎生物学(1併担)、実践科学英語演習(創4分担)、基礎薬科学実習(1分担)、免疫・分子生物学実習(医2分担)、創薬科学実習2(創2分担)

Akira Fukao

所属学会：日本RNA学会、日本分子生物学会

助教・友廣 拓生・博士(医学) 担当科目：基礎ゼミ(1)、生物学英語(医2)、基礎薬科学実習(1分担)、免疫・分子生物学実習(医2分担)、創薬科学実習2(創2分担)

Takumi Tomohiro

所属学会：日本RNA学会、日本分子生物学会

現在行われている主な研究テーマ

1. ほ乳類におけるタンパク質合成を制御する仕組みの研究
2. RNAウイルスが宿主のタンパク質合成機構を乗っ取る仕組みの研究
3. RNAを高分子マテリアルとしてとらえた「ものづくり」

研究業績

[原著論文]

1. Nishisaka H, Tomohiro T, Fukuzumi K, Fukao A, Funakami Y, Fujiwara T : Deciphering the Akt1-HuD Interaction in HuD-mediated Neuronal Differentiation

Biochimie **221**: 20-26 2024 年

2. Nishisaka H, Tomohiro T, Fukao A, Funakami Y, Fujiwara T : Neuronal RNA-binding Protein HuD Interacts with Translation Initiation Factor eIF3

Biological and pharmaceutical bulletin **46(2)** 158-162 2023 年

[著書]

1. 友廣拓生、藤原俊伸: 『RNAの科学』朝倉書店(印刷中)、第8章 「miRNAと翻訳因子の制御」

[学会・シンポジウム]

1. 深尾亜喜良、西阪皓理、友廣拓生、藤原俊伸: RNA結合タンパク質とリン酸化酵素による協調的な翻訳制御機構

第46回日本分子生物学会年会(神戸)、2023年12月6-8日

2. 戸島崇、友廣拓生、深尾亜喜良、船上仁範、藤原俊伸: miRNAの翻訳抑制効果を調節するRNA結合タンパク質の制御機構解析

第46回日本分子生物学会年会(神戸)、2023年12月6-8日

3. 森あゆみ、宮尾真衣、友廣拓生、深尾亜喜良、足達俊吾、夏目徹、尾野本浩司、米山光俊、鈴木亨、山本 雅、藤原俊伸: ストレス顆粒の形成を制御する G3BP タンパク質による翻訳制御
第 46 回日本分子生物学会年会 (神戸)、2023 年 12 月 6-8 日
4. 野口海輝、谷口幸翼、高橋真梨、友廣拓生、深尾亜喜良、今井大達、山下暁朗、伊藤拓宏、藤原俊伸: 低酸素ストレス下における cap 非依存的翻訳機構
第 46 回日本分子生物学会年会 (神戸)、2023 年 12 月 6-8 日
5. Ayumi Mori, Mai Miyao, Takumi Tomohiro, Akira Fukao, Shungo Adachi, Tohru Natsume, Koji Onomoto, Mitsutoshi Yoneyama, Toru Suzuki, Tadashi Yamamoto and Toshinobu Fujiwara: Translation control mediated by the stress granule-related proteins G3BP1 & G3BP2
第 10 回 CCR4-NOT 研究会、2023 年 11 月 13-15 日
6. Kaiki Noguchi, Kosuke Taniguchi, Mari Takahashi, Takumi Tomohiro, Akira Fukao, Hirotatsu Imai, Akio Yamashita, Takuhiro Ito, Toshinobu Fujiwara: Mechanisms of cap-independent translation under hypoxic stress conditions
第 10 回 CCR4-NOT 研究会、2023 年 11 月 13-15 日
7. Sijue Gong, Akinari Hirakawa, Takumi Tomohiro, Akira Fukao, Yoshinori Funakami, Toshinobu Fujiwara : Translation regulation through the competition between the neuronal RNA-binding protein HuD and KSRP
第 10 回 CCR4-NOT 研究会、2023 年 11 月 13-15 日
8. Takumi Tomohiro, Masataka Yuri, Akira Fukao, Toshinobu Fujiwara: 5' UTR-targeting miRNA induces deadenylation and translational repression in mammals
第 10 回 CCR4-NOT 研究会、2023 年 11 月 13-15 日
9. Takumi Tomohiro, Masataka Yuri, Akira Fukao, Toshinobu Fujiwara: 5' UTR-targeting miRNA can induce deadenylation and translational repression in mammals
第 24 回日本 RNA 学会年会 (沖縄)、2023 年 7 月 5-7 日
10. Hikari Nishisaka, Takumi Tomohiro, Akira Fukao, Yoshinori Funakami, Toshinobu Fujiwara: Elucidation of the regulatory mechanisms of neuronal differentiation induction by the interaction between neural Hu protein and Akt1
第 24 回日本 RNA 学会年会 (沖縄)、2023 年 7 月 5-7 日
11. Kaiki Noguchi, Kosuke Taniguchi, Mari Takahashi, Takumi Tomohiro, Akira Fukao, Hirotatsu Imai, Akio Yamashita, Takuhiro Ito, Toshinobu Fujiwara: The mechanism of cap-independent translation under hypoxic stress condition
第 24 回日本 RNA 学会年会 (沖縄)、2023 年 7 月 5-7 日
12. Tomosuke Sakaguchi, Takumi Tomohiro, Akira Fukao, Toshinobu Fujiwara: Functional role and regulatory mechanism of the human Ago2-TNRC6 interaction
第 24 回日本 RNA 学会年会 (沖縄)、2023 年 7 月 5-7 日

13. Mai Miyao, Takumi Tomohiro, Akira Fukao, Shungo Adachi, Tohru Natsume, Koji Onomoto, Mitsutoshi Yoneyama, Toru Suzuki, Tadashi Yamamoto and Toshinobu Fujiwara: Translation repression mediated by miRISC is irrelevant to stress granule formation

The 1st Kansai RNA club (大阪大学)、2023年8月18日

[研究報告書]

1. 藤原俊伸(代表): ヒトにおける microRNA マシナリーによる翻訳抑制の作動原理の解明
平成 30 年度 文部科学省科学研究費補助金 新学術領域研究(研究領域提案型)
2. 藤原俊伸(代表): RNA 結合蛋白質が細胞シグナルに応答して制御する翻訳と mRNA 分解との連携機構
平成 30 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (B)
3. 藤原俊伸(代表): 新規抗真菌薬創製を目指した RNA アプタマーの創製
平成 30 年度 文部科学省科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究

[外部助成]

1. 藤原俊伸(代表): リボソームの不均一性から生み出される細胞・組織特異的翻訳開始制御機構の解明
令和 4 年度 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (B)
2. 深尾亜喜良(代表): 第 49 回内藤記念科学奨励金・研究助成
平成 29 年度 内藤記念科学振興財団

[褒賞等]

1. 中田嵩嶺: 第 18 回長野ミーティング 優秀発表賞
2. 尾埜友佳子: 第 18 回長野ミーティング 優秀発表賞

[教育・社会活動]

1. 藤原俊伸: 日本 RNA 学会 評議員
2016 年 4 月 1 日～
2. 藤原俊伸: 名古屋市立大学薬学部 客員教授
2015 年 4 月 1 日～
3. 藤原俊伸: 日本生化学会「生化学」誌編集企画協力委員
2014 年 4 月 1 日～
4. 藤原俊伸: 大阪大学免疫学フロンティア研究センター 招聘教授
2013 年 4 月 1 日～

製剤学研究室

職・氏名・学位

教授・長井 紀章・博士(薬学) 担当科目：基礎ゼミ (1)、薬学概論 (1)、製剤学 1 (医 2)、医薬品物性・製剤学実習 (医 2 分担)、製剤学 (医 3)、製剤学 (創 3)、分析化学・製剤学実習 (創 2 分担)

Noriaki Nagai

所属学会：日本薬学会、日本薬剤学会、日本医療薬学会、日本油化学会、日本角膜学会、日本白内障学会、日本眼薬理学会、日本薬局学会、水晶体研究会、The Association for Research in Vision and Ophthalmology (ARVO)

講師・大竹 裕子・博士(薬学) 担当科目：基礎ゼミ (1)、医薬品物性・製剤学実習 (医 2 分担)、製剤工学 (創 3)、分析化学・製剤学実習 (創 2 分担)

Hiroko Otake

所属学会：日本薬学会、日本薬剤学会、日本医療薬学会、粉体工学会、日本白内障学会、水晶体研究会

現在行われている主な研究テーマ

1. 粒子径の適正化による経皮吸収製剤の開発
2. ナノテクノロジーを用いた口腔粘膜適用製剤の開発
3. 角膜障害治療製剤の開発
4. 眼圧降下と視神経賦活を同時標的とした緑内障治療製剤の開発
5. 白内障発症機序の解明とその治療製剤の開発
6. マイクロプローブ及びコンパクト HPLC を用いた新規溶出試験法の開発
7. ナノ粒子化による脳梗塞治療用注射製剤の確立
8. 薬物の肺深部送達を目的とした吸入ナノ粒子製剤の開発
9. 点鼻用ナノ粒子製剤を用いた脳デリバリー

研究業績

[原著論文]

1. Ogata F, Nagai N, Uematsu Y, Kobayashi Y, Kitamura N, Saenjum C, Kawasaki N : Synthesis of Fine Na-type Zeolite Grains from Coal Fly Ash and the Assessment of the Adsorption Capability of Lead Ions from Aqueous Solutions.
RSC Sustain., **2**, 491498, 2024 年 1 月
2. Ogata F, Sugimura K, Nagai N, Saenjum C, Nishiwaki K, Kawasaki N : Adsorption Efficiency of Crystal Violet from Aqueous Phase onto Carbonaceous Material Prepared from Waste Cotton and Polyester.
RSC Sustain., **2**, 179186, 2023 年 12 月
3. Deguchi S, Iwakami A, Tujigiwa M, Otake H, Mano Y, Yamamoto N, Nakazawa Y, Nagai N : Recovery from Indomethacin-Induced Gastrointestinal Bleeding by Treatment with Teprenone.
J. Pharm. Health Care Sci., **9**(1), 44, 2023 年 11 月
4. Kadowaki R, Ogata F, Nishida M, Komatsu M, Otake H, Nakazawa Y, Yamamoto N, Kawasaki N, Nagai N : Therapeutic Effects of Hydrogel Formulations Incorporating Trolox Nanoparticles on Oral Mucositis in Hamsters.
Drug Des. Devel. Ther., **17**, 33493361, 2023 年 11 月

5. Doki Y, Nakazawa Y, Sukegawa M, Petrova RS, Ishida Y, Endo S, Nagai N, Yamamoto N, Funakoshi-Tago M, Donaldson PJ : Piezo1 Channel Causes Lens Sclerosis via Transglutaminase 2 Activation.
Exp., Eye Res., **237**, 109719, 2023 年 11 月
6. Otaka Y, Kanai K, Tomatsu A, Sangu R, Okada D, Nagai N, Yamashita Y, Ichikawa Y, Sakai A, Tajima K : Oral 5-Aminolevulinic Acid Combined with Sodium Ferrous Citrate Prevents Blood-aqueous Barrier Breakdown after Anterior Chamber Paracentesis in Healthy Beagle Dogs.
J. Vet. Med. Sci., **85**(12), 12571260, 2023 年 10 月
7. Masuda S, Deguchi S, Ogata F, Yoshitomi J, Otake H, Kanai K, Kawasaki N, Nagai N : Nasal Absorption Enhancement of Mometasone Furoate Nanocrystal Dispersions.
Int. J. Nanomedicine., **18**, 56855699, 2023 年 10 月
8. Kawaguchi M, Matsumoto K, Yoshitomi J, Otake H, Sato K, Taga A, Sasabe T, Nobuhara K, Matsubara A, Nagai N : Poly(oxyethylene)/poly(oxypropylene) Butyl Ether Prolongs the Repellent Effect of N,N-Diethyl-3-toluamide on the Skin.
PLoS One, **18**(10), e0292447, 2023 年 10 月
9. Otaka Y, Kanai K, Okada D, Nagai N, Yamashita Y, Ichikawa Y, Tajima K : Sodium Ferrous Citrate and 5-Aminolevulinic Acid Exert a Therapeutic Effect on Endotoxin-Induced Uveitis in Rats.
Int. J. Mol. Sci., **24**(17), 13525, 2023 年 8 月
10. Ogata F, Tabuchi A, Nagai N, Toba M, Otani M, Saenjum C, Kawasaki N : Application of Granulated Nickel–Aluminum–Zirconium Complex Hydroxide in the Flow Method for Recovery of Chromium(VI) Ions.
Chem., Pharm., Bull., **71**(8), 661664, 2023 年 8 月
11. Aihara K, Nakazawa Y, Takeda S, Hatsusaka N, Onouchi T, Hiramatsu N, Nagata M, Nagai N, Funakoshi-Tago M, Yamamoto N, Sasaki H : Aquaporins Contribute to Vacuoles Formation in Nile Grass Type II Diabetic Rats.
Med. Mol. Morphol., **56**(4), 274287, 2023 年 7 月
12. Kadowaki R, Ogata F, Fushiki A, Daimyo S, Deguchi S, Otake H, Nagata M, Sasaki H, Kawasaki N, Nagai N : Skin Absorption of Felbinac Solid Nanoparticles in Gel Formulation Containing l-Menthol and Carboxypolymethylene.
J. Pharm. Health Care Sci., **9**(1), 20, 2023 年 6 月
13. 長井紀章 : 水晶体再透明化をめざした薬物療法の可能性
日本白内障学会誌, **35**, 72–74, 2023 年 6 月
14. Otaka Y, Kanai K, Mori A, Okada D, Nagai N, Yamashita Y, Ichikawa Y, Tajima K : 5-ALA/SFC Ameliorates Endotoxin-Induced Ocular Inflammation in Rats by Inhibiting the NF- κ B Signaling Pathway and Activating the HO-1/Nrf2 Signaling Pathway.
Int. J. Mol. Sci., **24**(10), 8653, 2023 年 5 月
15. Otake H, Mano Y, Deguchi S, Ogata F, Kawasaki N, Nagai N : Effect of ointment Base on the Skin Wound-Healing Deficits in Streptozotocin-Induced Diabetic Rat.
Bio. Pharm. Bull., **46**(5), 707–712, 2023 年 5 月

[その他の刊行物]

1. 門脇玲太、長井紀章 : 点眼剤は、どう吸収される? 特集 みるみるわかる眼とくすり
眼科, **66**(2), 161166, 2024 年 2 月
2. 長井紀章 : 点眼剤は、どう吸収される? 特集 みるみるわかる眼とくすり
薬局, **74**(7), 3943, 2023 年 6 月

[学会・シンポジウム]

1. 門脇玲太、久保田ちか、城山空翔、佐々木風歌、大阿久佳宏、矢嶋祐也、阿部晃也、山本直樹、長井紀章: ミノキシジルナノ粒子を核とした外用製剤処方確立とその毛包上皮幹細胞活性化作用の評価
日本薬学会第144年会(神奈川県)、31-313-pm19S、2024年3月31日
2. 長井紀章、吉富丈治、北庄司椋平、大竹裕子、遠藤雄一、小竹 武: 麻黄附子細辛湯懸濁液中における粗大・コロイド・分子分散体の同定とその小腸膜透過性の評価
日本薬学会第144年会(神奈川県)、31-313-pm19S、2023年3月31日
3. 成瀬七海、山室大介、高橋雅弘、島田東弥、鍵山菜菜子、畑山峻吏、山口創大、長井紀章、横田陽匡、長岡泰司、櫛山暁史: フェブキシソスタットナノ点眼薬によるマウスの網膜への移行性
日本薬学会第144年会(神奈川県)、31P-am-464S、2024年3月31日
4. 大竹裕子、福本 航、向井琴音、大竹裕子、長井紀章: 超微細化技術を基盤としたパクリタキセル吸入用ナノサスペンションの開発
日本薬学会第144年会(神奈川県)、30-503-pm05、2023年3月30日
5. 小畑友紀雄、大竹裕子、出口粧央里、浦嶋庸子、細見光一、長井紀章、中田雄一郎: ブリンゾラムド懸濁性点眼液の先発品および後発品間における再分散性の評価
日本薬学会第144年会(神奈川県)、30-511-am02、2024年3月30日
6. 出口粧央里、門脇玲太、浅井拓己、大竹裕子、岡本紀夫、中澤洋介、Manju Misra、長井紀章: ジヒドロピリジン系カルシウム拮抗薬ニルバジピンのナノ結晶点眼液調製と水晶体硬化に対する有用性評価
第43回日本眼薬理学会(北海道)、AW-2、2023年11月11日
7. 久保田ちか、門脇玲太、浅井拓己、大竹裕子、中澤洋介、山本直樹、長井紀章: 老視予防を目指して: 亜セレン酸ナトリウム投与に伴う水晶体の硬化とその評価法の提案
第33回日本医療薬学会年会(宮城)、5-7-O62-5、2023年11月5日
8. 松本夏奈、川口麻由、酒井琢朗、吉富丈治、笹邊達志、延原健二、松原 晶、長井紀章: DEETの忌避効果延長に資する添加物候補の模索: シクロデキストリンとPOE-POPブチルエーテルの有用性
第33回日本医療薬学会年会(宮城)、5-7-O62-3、2023年11月5日
9. 大迫華乃、下前憂梨咲、板東彩香、和久田 耀、城山空翔、出口粧央里、大竹裕子、長井紀章: フリーズドライまたは3Dプリンター手法とナノ化技術を活用したオーダーメイド用経口タブレットの作成
第33回日本医療薬学会年会(宮城)、5-7-O62-1、2023年11月5日
10. 座間亜紀子、北口剛吉、大竹裕子、長井紀章、村田久枝: 楕円形錠剤アゾセミド錠及びカルベジロール錠に対応した半錠分割機の有用性評価
第33回日本医療薬学会年会(宮城)、P0427-4-PM2、2023年11月4日
11. 大明沙季、伏木 葵、森 玲奈、大竹裕子、長井紀章: アラビアガムを安定化剤としたナノ製剤処方の提案: インドメタシン経皮製剤の皮膚透過挙動
第33回日本医療薬学会年会(宮城)、4-9-O45-5、2023年11月4日
12. 小松美莉、西田未来、和久田 耀、大竹裕子、長井紀章: レバミピドナノ粒子を含むポリビニルアルコールゲルの作成とその薬物放出挙動の評価
第33回日本医療薬学会年会(宮城)、4-9-O45-2、2023年11月4日
13. 辻極瑞希、岩上歩紗、畑見理奈、和久田 耀、城山空翔、出口粧央里、大竹裕子、長井紀章: 3Dプリンターによるオーダーメイド型経口製剤の開発を目指して: Rebamipide錠の作成とその薬物挙動の測定
第33回日本医療薬学会年会(宮城)、4-9-O45-1、2023年11月4日

14. 矢野詩歩、衣川美宇、田所朋久、小早川信一郎、松永 透、檜野 葉、長井紀章: Tranilast nanosuspension を用いた薬物徐放型コンタクトデバイスの設計と眼内薬物挙動の解析
第 33 回日本医療薬学会年会 (宮城)、4-9-O44-5、2023 年 11 月 4 日
15. 小坂太陽、渡辺彩花、板橋瑞稀、油納美和、大竹裕子、長井紀章、岡本紀夫: ドライアイ療法への応用を目指した眼瞼適用トロキシピドナノ製剤の開発
第 33 回日本医療薬学会年会 (宮城)、3-11-O30*-5、2023 年 11 月 3 日
16. 小畑友紀雄、出口粧央里、吉富丈治、浦嶋庸子、小堀宅郎、細見光一、長井紀章、中田雄一郎: 懸濁性点眼剤の点眼瓶と薬液の組み合わせが再分散性に与える影響
第 33 回日本医療薬学会年会 (宮城)、3-9-O18-5、2023 年 11 月 3 日
17. Noriaki Nagai, Yoshihiro Oaku, Yuya Yajima, Akinari Abe, Fuka Sasaki, Chika Kubota, Sorato Shiroyama, Naoki Yamamoto: Promotional Effect of Minoxidil Nanoparticles on Hair Growth in C57BL/6 Mice
2023 FAPA Congress (Taiwan)、2023 年 10 月 27 日
18. Hiroko Otake, Toru Matsunaga, Shiori Hino, Miyu Kinugawa, Shiho Yano, Tomohisa Tadokoro, Shinichiro Kobayakawa, Noriaki Nagai: Design of a Sustainable Release Contact Lenses Device loading Tranilast
2023 FAPA Congress (Taiwan)、2023 年 10 月 27 日
19. Saori Deguchi, Mayu Kawaguchi, Kana Matsumoto, Takuro Sakai, Joji Yoshitomi, Kanta Sato, Atsushi Taga, Tatsuji Sasabe, Kenji Nobuhara, Akira Matsubara, Noriaki Nagai: Effect of poly(oxyethylene)/poly(oxypropylene) butyl ether on the repellent effect of N,N-diethyl-meta-toluamide
2023 FAPA Congress (Taiwan)、2023 年 10 月 27 日
20. Reita Kadowaki, Miwa Yuno, Taiyo Kosaka, Mizuki Itahashi, Hiroko Otake, Azusa Sumi, Masaru Matsuda, Norio Iwakiri, Eiji Harata, Noriaki Nagai: Therapeutic Effect of MPC Polymer on Dry Eye Disease in an N-Acetylcysteine-Treated Rabbit Model
2023 FAPA Congress (Taiwan)、2023 年 10 月 27 日
21. 吉富丈治、出口粧央里、大竹裕子、遠藤雄一、小竹 武、長井紀章: 麻黄附子細辛湯懸濁時に生じる分散系の評価 – 主要成分含有量の分布とその小腸膜透過性 –
第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会 (兵庫)、P2-086、2023 年 10 月 14 日
22. 曾谷月香、増田柊也、矢野詩歩、田所朋久、大竹裕子、岡本紀夫、中澤洋介、Misra Manju、長井紀章: クリスタルエンジニアリングに基づくインドメタシンナノ点眼剤の開発 – 物性測定と Ocular Bioavailability の評価 –
第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会 (兵庫)、P2-069、2023 年 10 月 14 日
23. 浅井拓己、門脇玲太、出口粧央里、大竹裕子、岡本紀夫、中澤洋介、Misra Manju、長井紀章: 老視予防法の確立を目指して – ニルバジピンナノサスペンション点眼による亜セレン酸ナトリウム誘発ラット水晶体硬化の抑制 –
第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会 (兵庫)、P1-082、2023 年 10 月 14 日
24. 三津野真緒、緒方文彦、小林悠平、大竹裕子、長井紀章、川崎直人: 細粒化カリウム型ゼオライトの創製と鉛イオン吸着能に関する基礎的検討
第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会 (兵庫)、F4、2023 年 10 月 14 日
25. 沖田鋼季、山崎晶貴、富岡佳久、長井紀章、益子 高: 複数分子標的に向けた抗がん抗体療法
第 82 回日本癌学会学術総会 (神奈川)、P-3138、2023 年 9 月 23 日
26. 長井紀章: ナノサスペンションの製造と眼科用ドラッグデリバリーシステムとしての応用展開
第 30 回 DDS カンファレンス (静岡)、2023 年 9 月 8 日 (シンポジウム講演)

27. 大竹裕子、長井紀章: ナノ化技術を基盤とした経皮吸収型製剤の開発と薬物送達機構の解明
第20回次世代を担う若手のためのフィジカル・ファーマフォーラム (PPF2023) (京都)、I-02、2023年8月31日 (依頼講演)
28. 出口粧央里、門脇玲太、浅井拓己、大竹裕子、中澤洋介、長井紀章: 亜セレン酸ナトリウム投与に伴う水晶体硬度の変化と薬物点眼による抑制効果
第2回 Ocular Scientific Meeting (岐阜)、シンポジウム 1.1、2023年8月8日 (シンポジウム講演)
29. 大竹裕子、宮田佳樹、山本哲志、門脇玲太、中澤洋介、多賀 淳、長井紀章: 眼領域におけるショットガンプロテオミクス解析 ～温度変化が水晶体へ及ぼす影響～
第2回 Ocular Scientific Meeting (岐阜)、シンポジウム 1.1、2023年8月8日 (シンポジウム講演)
30. 長井紀章: 教育セミナー「様々な白内障による臨床像」
第62回日本白内障学会総会・第49回水晶体研究 (岩手)、EL-4・EL-5、2023年7月23日 (セミナー講演)
31. 大竹裕子、長井紀章: 環境温度に由来する白内障発症要因の模索: 水晶体のプロテオーム解析
第62回日本白内障学会総会・第49回水晶体研究 (岩手)、SY-3、2023年7月22日 (シンポジウム講演)
32. 出口粧央里、長井紀章: 亜セレン酸ナトリウム投与に伴う水晶体硬度変化のキネティクス解析と薬物点眼による改善作用
第62回日本白内障学会総会・第49回水晶体研究 (岩手)、JSY1-1、2023年7月21日 (シンポジウム講演)
33. 門脇玲太、浅井拓己、出口粧央里、大竹裕子、中澤洋介、山本直樹、長井紀章: ピレノキシン点眼液は亜セレン酸ナトリウム誘発水晶体物性変化を改善する
第62回日本白内障学会総会・第49回水晶体研究 (岩手)、O2-2、2022年7月21日
34. 吉富丈治、大竹裕子、小畑友紀雄、中田雄一郎、長井紀章: 押圧部の違いが点眼ボトルのスライズに及ぼす影響
日本薬剤学会 第38年会 (愛知)、P3-62、2023年5月18日
35. 門脇玲太、松永 透、小早川信一郎、檜野 菜、後藤涼花、衣川美宇、矢野詩歩、長井紀章: 超臨界流体技術を用いたトラニラスト封入カチオン型コンタクトレンズの設計とその有用性評価
日本薬剤学会 第38年会 (愛知)、1-6-17*、2023年5月16日
36. 出口粧央里、川口麻由、吉富丈治、松本夏奈、佐藤完太、多賀 淳、笹邊達志、延原健二、松原晶、長井紀章: POE-POP アルキルエーテル添加は DEET の忌避効果を延長する
日本薬剤学会 第38年会 (愛知)、1-6-13*、2023年5月16日
37. 小早川信一郎、後藤涼花、衣川美宇、矢野詩歩、曾谷月香、松永 透、檜野 菜、長井紀章: 薬物封入コンタクトレンズの開発: トラニラストナノ粒子封入に伴う徐放性能の向上
第127回日本眼科学会総会 (東京)、O4-026、2023年4月9日

[研究報告書]

1. 大竹裕子(代表): 肺がん治療への応用を目的とした吸入用抗がん剤ナノ粒子の創製
平成 31-34 年度 文部科学省科学研究費補助金 若手研究

[外部助成]

1. 長井紀章(代表): 毛乳頭への薬物直接送達型ナノゲルシステムの開発と個別化医療への展開
令和 5 年度 (第 36 回) 中富健康科学振興財団 「研究助成金」

2. **長井紀章(代表):** 眼疾患療法に向けた刺激応答型コロイドナノキャリア製剤の開発とその薬物動態の検討
令和 5-6 年度 日本学術振興会 二国間交流事業
3. **大竹裕子(代表):** 肺全域への薬物送達を可能とする超微粒子ステロイド製剤の開発と新規肺炎療法への応用
令和 5-6 年度 文部科学省科学研究費補助金 若手研究
4. **長井紀章(代表):** 薬物ナノ結晶を装填した *in situ* ゲル点眼液の開発と網膜症治療への応用
令和 3-5 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C)
5. **長井紀章(代表):** 水晶体混濁改善を目指したナノ結晶配合点眼薬の開発
2022 年参天製薬創業者記念眼科医学研究基金
6. 民間企業より受託研究および寄附研究 8 件

[特許]

出願 1 件

[報償等]

1. **大竹裕子:** FAPA2023 Poster Present-High Distinction Award 受賞
FAPA2023 2023 年 10 月 28 日
2. **門脇玲太:** 第 62 回日本白内障学会総会トラベルアワード 受賞
第 62 回日本白内障学会総会・第 49 回水晶体研究会 2023 年 7 月 22 日
3. **出口粧央里:** 第 49 回水晶体研究会トラベルアワード 受賞
第 62 回日本白内障学会総会・第 49 回水晶体研究会 2023 年 7 月 22 日

[教育・社会活動]

1. **長井紀章:** 水晶体研究会 世話人
2015 年 4 月～
2. **長井紀章:** 水晶体研究会 プログラム委員
2015 年 4 月～
3. **長井紀章:** 日本白内障学会 編集委員
2016 年 8 月～
4. **長井紀章:** 日本医療薬学会 代議員
2017 年 1 月～
5. **長井紀章:** 日本眼薬理学会 評議員
2017 年 9 月～
6. **長井紀章:** JPHCS 編集委員
2018 年 4 月～
7. **長井紀章:** 日本白内障学会 評議員
2019 年 4 月～
8. **長井紀章:** 日本白内障学会 第三者委員会 委員
2019 年 4 月～2021 年 3 月

9. 長井紀章: 薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構 実務実習指導薬剤師養成
小委員会 委員
2019年9月～2024年3月
10. 長井紀章: 近畿大学薬友会 理事
2020年4月～
11. 長井紀章: 日本白内障学会 第三者委員会 委員長
2021年4月～2022年3月
12. 長井紀章: 日本眼薬理学会 総務委員
2022年4月～
13. 長井紀章: 日本薬剤学会 代議員
2022年4月～
14. 長井紀章: 日本白内障学会 理事
2022年4月～
15. 長井紀章: 眼科創薬研究会 世話人
2023年1月～
16. 長井紀章: 日本老視学会 理事
2023年1月～
17. 長井紀章: Specialty Committee of TCM preparations (中药制剂专委会) 委員
2023年4月～
18. 長井紀章: Specialty Committee of TCM Drug Delivery System (中药新型给药系统专委会) 委員
2023年4月～
19. 長井紀章: 日本薬剤学会教育分科会 世話人
2023年5月～
20. 長井紀章: 日本眼薬理学会 理事
2023年11月～

生物薬剤学研究室

職・氏名・学位

准教授・川瀬 篤史・博士
(薬学)

Atsushi Kawase

担当科目：薬物速度論(医 3)，薬物動態学 1(医 3)，総合演習 1(医 4)，総合演習 2(医 6)，総合薬学研究 1(医 3)，総合薬学研究 2(医 4)，総合薬学研究 3(医 4～6)，病院実務実習(医 5)，薬局実務実習(医 5)，薬効薬物動態解析実習(医 3 分担)，基礎ゼミ(1)，創薬科学実習 4(創 3 分担)，卒業研究(創 3～4)

所属学会：American Society for Pharmacology and Experimental Therapeutics、日本薬学会、日本薬物動態学会、日本薬剤学会、日本毒性学会

講師・島田 紘明・博士
(薬学)

Hiroaki Shimada

担当科目：薬物動態学 2(医 3)，薬物動態学(創 3)，総合薬学研究 1(医 3)，総合薬学研究 2(医 4)，総合薬学研究 3(医 4～6)，病院実務実習(医 5 分担)，薬局実務実習(医 5)，薬効薬物動態解析実習(医 3)，基礎ゼミ(1)，創薬科学実習 4(創 3 分担)，卒業研究(創 3～4)

所属学会：日本薬学会、日本薬物動態学会、日本脂質生化学会、日本生薬学会、日本薬剤学会、日本毒性学会

現在行われている主な研究テーマ

1. 非ステロイド性抗炎症薬 (NSAIDs) 誘発性肝障害における代謝酵素およびトランスポーターの役割
 - a) NSAIDs アシルグルクロン酸抱合体の加水分解特性と特異体質性薬物毒性の関係
 - b) NSAIDs アシルグルクロン酸抱合体の蛍光標識トラッピング剤を用いた検出
 - c) グルタチオン枯渇時の NSAIDs 反応性代謝物生成と肝障害関連タンパク質の変動
2. トランスポーター周辺環境の調節による抗がん薬デリバリー効率の改善
3. 肝臓におけるエイコサノイドインバランスに起因する特異体質性薬物毒性の個人差
4. ER ストレスによる肝臓および腎臓における代謝酵素およびトランスポーター変動
5. 植物資源の生物薬剤学的研究
 - a) 苦丁茶の抗糖尿病作用メカニズムの解明
 - b) マンジェリコンの抗糖尿病作用メカニズムの解明

研究業績

[学会・シンポジウム]

1. 島田紘明、藪内優介、川瀬篤史: 肝臓におけるプロスタグランジン動態に対する OATP2A1 の寄与
日本薬学会第 144 年会 (神奈川) 2024 年 3 月
2. Hiroaki Shimada: The extent of enzymatic hydrolysis of acyl glucuronides in liver microsomes can be one of the determinants of idiosyncratic drug toxicity risk
APSTJ Global Education Seminar 2023-2nd (オンライン) 2024 年 3 月
3. Hiroaki Shimada, Yuka Takeda, Atsushi Kawase: The interaction between cytochrome P450 inhibitors and eicosanoid production in rat liver
2023 International Joint Meeting of the 23rd International Conference of Cytochrome P450 and the 38th Annual Meeting of the Japanese Society for the Study of Xenobiotics (静岡) 2023 年 10 月
4. 島田紘明、生田博之、橋本 悠、川瀬篤史: 肝ミクロソーム中におけるアシルグルクロン酸抱合体の加水分解と特異体質性薬物毒性リスク
第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会 (兵庫) 2023 年 10 月
5. 高田万桜、島田紘明、横飛暉斗、山本望乃花、川瀬篤史: アセトアミノフェン誘発性肝障害に対する 15-PGDH 阻害の影響
第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会 (兵庫) 2023 年 10 月
6. 橋本 悠、島田紘明、川瀬篤史: 安息香酸系薬物のアシルグルクロン酸抱合体のヒト肝ミクロソーム中における加水分解に与える置換基の影響
第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会 (兵庫) 2023 年 10 月
7. Woo Yunsik、高井柚希、島田紘明、川瀬篤史: マクロファージ条件培地および小型細胞外小胞による MDR1 発現変動
第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会 (兵庫) 2023 年 10 月
8. 島田紘明、横飛暉斗、山本望乃花、高田万桜、川瀬篤史、岩城正宏: アセトアミノフェン誘発性肝障害に対する PGE2 不活性化酵素 15-PGDH 阻害の影響
第 65 回日本脂質生化学 (熊本) 2023 年 6 月

[外部助成]

1. 川瀬篤史(代表): トランスポーター周辺タンパク質標的型ペプチドを用いた抗がん薬デリバリー効率の改善
令和3~5年度 独立行政法人 日本学術振興会：科学研究費助成 基盤研究 (C)
2. 島田紘明(代表): 特異体質性毒性発症にエイコサノイド体内動態の個体差が影響するか?
令和3~5年度 独立行政法人 日本学術振興会：科学研究費助成 若手研究

[教育・社会活動]

1. 川瀬篤史: トランスポーター研究会幹事
2008年～
2. 川瀬篤史: 日本毒性学会評議員
2023年～
3. 島田紘明: Frontiers in Pharmacology, Drug Metabolism and Transport, Review Editor
2021年～
4. 島田紘明: Frontiers in Pharmacology, Experimental Pharmacology and Drug Discovery, Review Editor
2021年～
5. 島田紘明: Global Education Seminar Presentation Award 2024
2024年3月

病態分子解析学研究室

職・氏名・学位

教授・多賀 淳・薬学博士
Atsushi Taga

担当科目：基礎化学(医 1 分担)、化学入門(医 1 分担)、薬学概論(医 1 オムニバス)、日本薬局方(3)、分析化学 3 (医 3 分担) 生体成分分析化学(創 3)、実践病態と治療(医 5 分担)、化粧品学(3 分担)、医薬品開発産学連携講座(創 4)、基礎ゼミ(1)、基礎薬科学実習(1 分担)、創薬インフォマティクス演習(創 2 分担)、創薬科学実習 4 (創 3 分担)

所属学会：日本薬学会、日本医療薬学会、日本糖質学会、日本癌学会、日本油化学会、日本分析化学会、クロマトグラフィー科学会

准教授・三田村 邦子・薬学博士
Kuniko Mitamura

担当科目：病態検査学(3)、臨床検査学(創 3)、基礎ゼミ(1)、基礎薬科学実習(1 分担)、創薬インフォマティクス演習(創 2 分担)、創薬科学実習 4 (創 3 分担)

所属学会：日本薬学会、日本臨床化学会、日本医用マススペクトル学会、日本分析化学会、クロマトグラフィー科学会

准教授・山本 哲志・医学博士
Tetsushi Yamamoto

担当科目：解剖組織学(1)、基礎ゼミ(1)、基礎薬科学実習(1 分担)、血液検査学(創 2)、化学英語(創 3)、創薬インフォマティクス演習(創 2 分担)、血液検査学実習(創 2)、創薬科学実習 4 (創 3 分担)

所属学会：日本薬学会、日本癌学会、日本分子生物学会、日本医用マススペクトル学会、日本分子腫瘍マーカー研究会、米国臓器学会

現在行われている主な研究テーマ

1. 由来及び高次構造の違いによるコラーゲンの機能性について
2. キャピラリー電気泳動による生体成分の新規分析法の開発と応用
3. 食品中機能性オリゴ糖の探索ならびに合成法
4. 無機結晶性材料の新規用途の開拓
5. LC/MS による乾燥ろ紙尿中抱合型ステロイドホルモン定量法の開発
6. 食品中機能性脂質成分の同定に関する研究
7. 生体試料中遊離脂肪酸の高感度測定法の開発研究
8. 天然甘味料を用いた新規大腸癌治療薬の開発
9. プロテオーム解析を用いた新規大腸癌診断マーカーの探索に関する研究
10. キャピラリー電気泳動を用いた糖鎖修飾を標的とした癌診断法の開発

研究業績

[原著論文]

1. Kawaguchi M, Matsumoto K, Yoshitomi J, Otake H, Sato K, Taga A, Sasabe T, Nobuhara K, Matsubara A, Nagai N: Poly(oxyethylene)/Poly(oxypropylene) Butyl Ether Prolongs the Repellent Effect of N,N-Diethyl-3-toluamide on the Skin
PLoS One., **18**(10), e0292447, 2023 年 10 月
2. Yamamoto T, Shiburo R, Moriyama Y, Mitamura K, Taga A : Protein Components of Maple Syrup as a Potential Resource for the Development of Novel Anti-colorectal Cancer Drugs
Oncol Rep., **50**(4), 179, 2023 年 10 月
3. Minowa K, Rodriguez-Agudo D, Suzuki M, Muto Y, Hirai S, Wang Y, Su L, Zhou H, Chen Q, Lesnefsky EJ, Mitamura K, Ikegawa S, Takei H, Nittono H, Fuchs M, Pandak WM, Kakiyama G: Insulin Dysregulation Drives Mitochondrial Cholesterol Metabolite Accumulation: Initiating Hepatic Toxicity in Nonalcoholic Fatty Liver Disease
J Lipid Res., **64**(5), 100363, 2023 年 5 月

[学会・シンポジウム]

1. 高倉英樹、小田啓祐、中尾俊雅、成田 匠、堀中真野、中尾-伊勢 由佳子、山本哲志、飯泉陽介、渡邊元樹、曾和義広、酒井敏行、武藤倫弘、森 信博: 植物由来エクソソーム様ナノ小胞の新規大腸癌予防食品としての応用へ向けた検討
日本薬学会第 144 年会 (神奈川、パシフィコ横浜)、2024 年 03 月 31 日
2. 山本哲志、吹田晴香、西澤璃咲、三田村邦子、多賀 淳: 細胞表面糖鎖修飾を標的としたキャピラリー電気泳動による血中循環腫瘍細胞検出法の検討
日本薬学会第 144 年会 (神奈川、パシフィコ横浜)、2024 年 03 月 31 日
3. 北條初奈、山本哲志、平田美信、西 博顯、牛尾吉孝、三田村邦子、多賀 淳: 蚕繭構成成分であるフィブロインを用いた紫外線保護効果の検討
日本薬学会第 144 年会 (神奈川、パシフィコ横浜)、2024 年 03 月 30 日
4. Yamamoto T, Mitamura K, Taga A: Protein components of maple syrup inhibit cell proliferation, migration and invasion of colorectal cancer cells.
第 82 回日本癌学会学術総会 (神奈川、パシフィコ横浜)、2023 年 9 月 21 日

[教育・社会活動]

1. 多賀 淳: 奈良県保健研究センター及び奈良県景観・環境総合センター調査研究評価委員
2015 年 4 月～現在
同委員長
2020 年 4 月～現在

病態薬理学研究室

職・氏名・学位

教授・川畑 篤史・博士(薬学) 担当科目：基礎ゼミ(1)、分子薬理学(医2、創2)、病態薬理学1(医2、創2)、薬理学2(医3、創3分担)、薬効薬物動態解析学実習(医3分担)、創薬科学実習3(創3分担)

Atsufumi Kawabata

所属学会：日本薬学会、日本薬理学会、日本疼痛学会、日本神経科学学会、日本神経化学学会、日本神経精神薬理学会、Society for Neuroscience (北米神経科学学会)、International Association for the Study of Pain (国際疼痛学会)

准教授・関口 富美子・博士(薬学) 担当科目：基礎ゼミ(1)、神経病態薬理学(医2、創2)、病態生理学2(医3、創3)、薬効薬物動態解析学実習(医3分担)、創薬科学実習3(創3分担)

Fumiko Sekiguchi

所属学会：日本薬学会、日本薬理学会、日本平滑筋学会、日本疼痛学会、日本神経科学学会、日本神経精神薬理学会、Society for Neuroscience (北米神経科学学会)、International Association for the Study of Pain (国際疼痛学会)

講師・坪田 真帆・博士(薬学) 担当科目：基礎ゼミ(1)、薬理学2(医3、創3分担)、薬効薬物動態解析学実習(医3分担)、創薬科学実習3(創3分担)

Maho Tsubota

所属学会：日本薬学会、日本薬理学会、日本疼痛学会、日本神経科学学会、日本神経精神薬理学会、Society for Neuroscience (北米神経科学学会)、International Association for the Study of Pain (国際疼痛学会)

現在行われている主な研究テーマ

1. 生体内硫化水素 (H₂S) の分子機能と病態への関与に関する研究
2. Ca_v3.2 T型カルシウムチャネルを標的とした創薬研究
3. 核内タンパク HMGB1 とその標的分子に関する創薬研究
4. 大麻成分および覚醒剤の耐性、依存性、毒性と医療応用に関する研究
5. 疼痛情報伝達の分子メカニズム解析と新規鎮痛薬の開発
6. 搔痒情報伝達の分子メカニズム解析と抗搔痒薬の開発

研究業績

[原著論文]

1. Iwane S, Nemoto W, Miyamoto T, Hayashi T, Tanaka M, Uchitani K, Muranaka T, Fujitani M, Koizumi Y, Hirata A, Tsubota M, Sekiguchi F, Tan-No K, Kawabata A : Clinical and Preclinical Evidence that Angiotensin-converting Enzyme Inhibitors and Angiotensin Receptor Blockers Prevent Diabetic Peripheral Neuropathy
Sci. Rep., **14** (1),1039, 2024 年 1 月
2. Kasanami Y, Yamamoto T, Miyamoto T, Matzno S, Sakakibara M, Iwaki M, Kawabata A : Characterization of Potentially Inappropriate Medications That Need Special Attention in the Elderly with Dementia by Analyzing Pharmacy Claims Data
Biol. Pharm. Bull., **46**(12), 1699-1705, 2023 年 12 月

3. Tomita S, Sekiguchi F, Tsubota M, Kawabata A : Dietary Zinc Deficiency Induces Cav3.2-dependent Nociceptive Hypersensitivity in Mice.

Biol. Pharm. Bull., **46**(9), 1343-1346, 2023 年 9 月

4. Tomita S, Sekiguchi F, Naoe K, Shikimi S, Kasanami Y, Ohigashi M, Tsubota M, Kawabata A : Ca_v3.2-dependent Hyperalgesia/Allodynia Following Intrathecal and Intraplantar Zinc Chelator Administration in Rodents.

J. Pharmacol. Sci., **152**(2), 86-89, 2023 年 6 月

[学会・シンポジウム]

1. 倉橋翔太郎、松野純男、石川佳奈、川畑篤史、高橋克之、榊原幹夫、大鳥 徹：在宅施設患者における痒みの現状とスキンケアの実態調査

日本薬学会第 145 年会（横浜）、2024 年 3 月 28-31 日

2. 山本卓資、岩根詩織、宮本朋佳、坪田真帆、関口富美子、榊原幹夫、根本 互、丹野孝一、川畑篤史：アンジオテンシン変換酵素阻害薬と AT1 受容体拮抗薬による有痛性糖尿病 性神経障害の抑制：保険薬局のレセプトデータ解析による検証

日本薬学会第 145 年会（横浜）、2024 年 3 月 28-31 日

3. 宮本朋佳、桂木聡子、木村 健、川畑篤史：パクリタキセル投与がん患者において血液凝固能低下及び抗凝固薬の併用が化学療法誘発性末梢神経障害に及ぼす影響

日本薬学会第 145 年会（横浜）、2024 年 3 月 28-31 日

4. 関口富美子、森口晴香、福島志歩、井場祐里子、畠山 司、坪田真帆、平本志於里、岡田卓哉、豊岡尚樹、田中宏和、芦田隆司、松村 到、川畑篤史：カルビドパとベンセラジドは H₂S 産生酵素 cystathionine-β-synthase を阻害することでボルテゾミブ感受性および抵抗性多発性骨髄腫細胞の生存を抑制する

日本薬学会第 145 年会（横浜）、2024 年 3 月 28-31 日

5. Kawabata, A : Distinct modulation of Ca_v3.2 function by sulfide and polysulfide.

6th International Calcium Channel Conference (Boracay Island, Phillipine)、
2024 年 2 月 25 日-3 月 1 日

6. 川畑篤史：Zinc と sulfide による Ca_v3.2 T 型 Ca²⁺チャネルの活性調節と痛み・痒み

痛み研究会 2023（岡崎）、2024 年 1 月 11-12 日

7. 坪田真帆、佐々木花菜、Shin Eunkyung、岡村悠太、堂本莉紗、関口富美子、岡田卓哉、豊岡尚樹、友野靖子、西堀正洋、川畑篤史：過敏性腸症候群モデルマウスの結腸過敏に関与する HMGB1 の由来細胞の同定と RAGE 拮抗薬 azeliragon および関節炎・腸炎治療薬 sulfasalazine を用いた予防的介入

第 97 回日本薬理学会年会（神戸）、2023 年 12 月 14-16 日

8. 畠山司、坪田真帆、井場祐里子、笠波嘉人、関口富美子、岡田卓哉、豊岡尚樹、川畑篤史：新規 pimozone 誘導体 KTtp38 は T 型カルシウムチャネル依存性の体性痛および内臓痛を抑制する

第 97 回日本薬理学会年会（神戸）、2023 年 12 月 14-16 日

9. 佐久間海地、中野遥、岩根詩織、坪田真帆、関口富美子、友野靖子、西堀正洋、川畑篤史：レプチン受容体遺伝子欠損および高脂肪食摂取による 2 型糖尿病モデルマウスの有痛性末梢神経障害への HMGB1 とアナフィラトキシン C5a の関与について

第 97 回日本薬理学会年会（神戸）、2023 年 12 月 14-16 日

10. 関口富美子、森口晴香、福島志歩、井場祐里子、坪田真帆、平本志於里、岡田卓也、豊岡尚樹、田中宏和、芦田隆司、松村到、川畑篤史：H₂S 産生酵素 cystathionine-β-synthase を阻害するカルビドパとベンセラジドはボルテゾミブ感受性および抵抗性多発性骨髄腫細胞の生存を抑制する。
第 97 回日本薬理学会年会（神戸）、2023 年 12 月 14-16 日
11. 川畑篤史：閉経によるエストロゲン減少と化学療法誘発性末梢神経障害
第 97 回日本薬理学会年会（神戸）、2023 年 12 月 14-16 日
12. 富田詩織、根本互、宮本朋佳、林友典、田中雅幸、打谷和記、小泉祐一、平田敦士、坪田真帆、関口富美子、丹野孝一、川畑篤史：レニン・アンギオテンシン系阻害薬は糖尿病性末梢神経障害の発症を抑制する：3 病院での後ろ向きコホート研究と基礎研究での検証
第 33 回日本医療薬学会年会（仙台）、2023 年 11 月 3-5 日
13. 大東麻哉、中野遥、佐久間海地、岩根詩織、坪田真帆、関口富美子、友野靖子、西堀正洋、川畑篤史：高脂肪食摂取による 2 型糖尿病モデルマウスにおける有痛性末梢神経障害の発現には HMGB1、マクロファージおよび血小板が関与する
第 73 回日本薬学会関西支部大会（神戸）、2023 年 10 月 14 日
14. 佐久間海地、中野遥、大東麻哉、岩根詩織、坪田真帆、関口富美子、友野靖子、西堀正洋、川畑篤史：遺伝性および高脂肪食摂取による 2 型糖尿病モデルマウスにおける有痛性末梢神経障害に対する thrombomodulin alfa の抑制効果：HMGB1 と補体 C5a の不活性化が関与する可能性について
第 73 回日本薬学会関西支部大会（神戸）、2023 年 10 月 14 日
15. 関千咲斗、岸本彩野、堂本莉紗、圓尾賢悟、田島和樹、松永浩明、松本亜紗菜、坪田真帆、関口富美子、友野靖子、西堀正洋、川畑篤史：Oxaliplatin 誘起末梢神経障害への血小板由来 HMGB1 および補体 C5a/CaR 系の関与
第 73 回日本薬学会関西支部大会（神戸）、2023 年 10 月 14 日
16. 川畑篤史：T 型カルシウムチャネルと硫化物：疼痛・掻痒治療標的分子としての可能性
第 42 回鎮痛薬・オピオイドペプチドシンポジウム 2023（東京）、2023 年 9 月 2-3 日
17. 川畑篤史：痛みと血液凝固系
生体機能と創薬シンポジウム 2024（徳島）、2023 年 8 月 24-25 日
18. 畠山司、坪田真帆、井場祐里子、笠波嘉人、関口富美子、岡田卓哉、豊岡尚樹、川畑篤史：T 型カルシウムチャネル阻害活性を有する新規 pimozide 誘導体 KTp38 は体性痛および内臓痛を抑制する
生体機能と創薬シンポジウム 2024（徳島）、2023 年 8 月 24-25 日
19. 金光桃佳、坪田真帆、関千咲斗、松本亜紗菜、友野靖子、西堀正洋、川畑篤史：白金製剤 cisplatin およびタキサン系製剤 paclitaxel によるマウスの化学療法誘発性末梢神経障害への血小板由来 HMGB1 の関与
生体機能と創薬シンポジウム 2024（徳島）、2023 年 8 月 24-25 日
20. 関千咲斗、岸本彩野、堂本莉紗、圓尾賢悟、田島和樹、松永浩明、松本亜紗菜、坪田真帆、関口富美子、友野靖子、西堀正洋、川畑篤史：Oxaliplatin 誘発性末梢神経障害の発症機序解析：血小板由来 HMGB1 と補体 C5a/C5aR 系の関与について
生体機能と創薬シンポジウム 2024（徳島）、2023 年 8 月 24-25 日
21. Kawabata, A : Role of HMGB1 and thrombin/thrombomodulin in somatic and visceral pain processing.
19th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology (Glasgow, UK)
2023 年 7 月 2-7 日

22. 宮本朋佳、桂木聡子、木村健、川畑篤史：パクリタキセル投与がん患者における化学療法誘発性末梢神経障害に及ぼす血液凝固活性低下と経口抗凝固薬投与の影響
第 143 回日本薬理学会近畿部会（名古屋）、2023 年 6 月 24 日
23. 岩根詩織、岸本彩野、関千咲斗、宮本朋佳、藤井良平、田中雅幸、打谷和記、坪田真帆、関口富美子、友野靖子、西堀正洋、川畑篤史：オキサリプラチン投与後に認められる化学療法誘発性末梢神経障害に対する抗血小板薬の予防効果：基礎研究知見とリアルワールドデータ解析によるヒトでの検証
第 143 回日本薬理学会近畿部会（名古屋）、2023 年 6 月 24 日
24. 坪田真帆、佐々木花菜、Shin Eunkyung、岡村悠太、堂本莉紗、関口富美子、岡田 卓哉、豊岡尚樹、川畑篤史：Butyrate 誘起結腸過敏へのマクロファージおよび腸グリア細胞由来 HMGB1 の関与と RAGE 拮抗薬 azeliragon およびリウマチ・炎症性腸疾患治療薬 sulfasalazine の効果
第 143 回日本薬理学会近畿部会（名古屋）、2023 年 6 月 24 日
25. 西村彩花、坪田真帆、山縣歩夢、友野靖子、西堀正洋、川畑篤史：過敏性腸症候群モデルマウスにおいて thrombomodulin alfa は thrombin 依存性 HMGB1 不活性化作用に加えて TAFI 活性化作用を介した補体 C5a 不活性化により結腸痛を抑制する
第 143 回日本薬理学会近畿部会（名古屋）、2023 年 6 月 24 日

[外部助成]

1. 川畑篤史（代表）：血栓止血系分子と HMGB1 の相互干渉による疼痛制御のメカニズムと臨床的意義の解明
令和 3-5 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究（C）
2. 関口富美子（代表）：シュワン細胞における血液凝固系因子の発現変化と神経障害性疼痛の関係
令和 5-7 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究（C）

[教育・社会活動]

1. 川畑篤史：日本薬理学会評議員
2023 年 4 月～2024 年 3 月
2. 川畑篤史：日本疼痛学会評議員
2023 年 4 月～2024 年 3 月
3. 関口富美子：日本薬理学会評議員
2023 年 4 月～2024 年 3 月
4. 関口富美子：日本平滑筋学会評議員
2023 年 4 月～2024 年 3 月
5. 坪田真帆：日本薬理学会評議員
2023 年 4 月～2024 年 3 月
6. 坪田真帆：日本薬学会薬理系薬学部会 若手世話人
2023 年 4 月～2024 年 3 月
7. 坪田真帆：日本薬理学会次世代の会 運営委員
2023 年 4 月～2024 年 3 月

薬物治療学研究室

職・氏名・学位

教授・西田 升三・医学博士
Shozo Nishida
担当科目：基礎ゼミ(1)、薬学概論(医 1 分担)、病理学(2)、疾患と薬物治療法 1(医 3)、疾患と薬物治療法 2(医 3)、疾患と薬物治療法 3 (医 4 分担)、薬効薬物動態解析実習(医 3)、創薬科学実習 3(創 3)

所属学会：日本薬学会、日本癌学会、日本がん分子標的治療学会

准教授・椿 正寛・博士(薬学)
Masanobu Tsubaki
担当科目：基礎ゼミ(1)、病理学(2)、疾患と薬物治療法 3 (医 4 分担)、薬効薬物動態解析実習(医 3)、創薬科学実習 3(創 3)

所属学会：日本薬学会、日本癌学会、日本がん分子標的治療学会

講師・武田 朋也・博士(薬学)
Tomoya Takeda
担当科目：基礎ゼミ(1)、基礎生物学(1)、生物学入門(1)、臨床薬学英語(医 2)、薬効薬物動態解析実習(医 3)、創薬科学実習 3(創 3)

所属学会：日本薬学会、日本癌学会、日本がん分子標的治療学会

現在行われている主な研究テーマ

1. シグナル伝達活性化による抗がん剤（分子標的薬）耐性機序の解明とその治療薬の開発
2. がん転移機序の解明と抑制剤の開発
3. がん分子標的治療薬の開発

研究業績

[原著論文]

1. Takeda T, Tsubaki M, Genno S, Tokunaga K, Tanaka R, Nishida S : HER3/Akt/mTOR Pathway is a Key Therapeutic Target for the Reduction of Triple-negative Breast Cancer Metastasis via the Inhibition of CXCR4 Expression
Int. J. Mol. Med., **52**, 80, 2023 年 9 月
2. Tsubaki M, Takeda T, Matsuda T, Kishimoto K, Tanaka R, Tsurushima K, Ishizaka T, Nishida S : Bim Downregulation by Activation of NF- κ B p65, Akt, and ERK1/2 iIs Associated with Adriamycin and Dexamethasone Resistance in Multiple Myeloma Cells
Clin. Exp. Med., **23**, 1597-1607, 2023 年 9 月
3. Tsubaki M, Takeda T, Koumoto Y, Usami T, Matsuda T, Seki S, Sakai K, Nishio K, Nishida S : Activation of ERK1/2 by MOS and TPL2 Leads to Dasatinib Resistance in Chronic Myeloid Leukaemia Cells
Cell Prolif., **56**, e13420, 2023 年 6 月
4. Tsubaki M, Takeda T, Matsuda T, Kishimoto K, Takefuji H, Taniwaki Y, Ueda M, Hoshida T, Tanabe K, Nishida S : Statins Enhances Antitumor Effect of Oxaliplatin in KRAS-Mutated Colorectal Cancer Cells and Inhibits Oxaliplatin-Induced Neuropathy
Cancer Cell Int., **23**, 73, 2023 年 4 月

[学会・シンポジウム]

1. Shozo Nishida, Masanobu Tsubaki, Tomoya Takeda, Remi Tanaka, Koudai Takimoto: Decreased Bim Expression Plays a Central Role in Anticancer Drug Resistance in Multiple Myeloma
The 82th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association (横浜)、2023年9月21日
2. Koudai Takimoto, Masanobu Tsubaki, Tomoya Takeda, Honoka Takefuji, Remi Tanaka, Shozo Nishida: Enhancement of oxaliplatin cytotoxic effect by statins in KRAS mutant colorectal cancer
The 82th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association (横浜)、2023年9月21日
3. Tomoya Takeda, Masanobu Tsubaki, Remi Tanaka, Koudai Takimoto, Shozo Nishida: Mechanism of tamoxifen acquired resistance via EMT induction by EGFR activation in breast cancer cells
The 82th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association (横浜)、2023年9月21日
4. Remi Tanaka, Masanobu Tsubaki, Tomoya Takeda, Koudai Takimoto, Shozo Nishida: Sorafenib inhibits tumor growth and metastasis in c-Kit activated malignant melanoma
The 82th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association (横浜)、2023年9月21日
5. Masanobu Tsubaki, Tomoya Takeda, Honoka Takefuji, Koudai Takimoto, Shozo Nishida: HIF-1a inhibitor induces cell death via declined BCR-ABL1 and Met in imatinib-sensitive and -resistant CML cells
The 82th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association (横浜)、2023年9月21日
6. Honoka Takefuji, Masanobu Tsubaki, Tomoya Takeda, Koudai Takimoto, Shozo Nishida: Perifosine potentiates 5-FU and oxaliplatin cytotoxicity in PIK3CA mutant colorectal cancer
The 82th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association (横浜)、2023年9月21日
7. 椿 正寛、武田朋也、竹藤帆花、滝本航大、西田升三: イマチニブ感受性および抵抗性 CML 細胞における HIF-1alpha 阻害剤による BCR-ABL1 および Met 発現抑制を介した細胞死誘導
第 27 回日本がん分子標的治療学会学術集会 (佐賀)、2023 年 6 月 21 日
8. 竹藤帆花、椿 正寛、武田朋也、滝本航大、西田升三: Perifosine は PIK3CA 変異大腸がんにおいて 5-FU 及び oxaliplatin 殺細胞作用を増強させる
第 27 回日本がん分子標的治療学会学術集会 (佐賀)、2023 年 6 月 21 日
9. 片山翔太、椿 正寛、武田朋也、竹藤帆花、滝本航大、西田升三: Dimethyl fumarate は NF-kB 阻害の阻害を介してトリプルネガティブ乳癌に対してアポトーシスを誘導する
第 27 回日本がん分子標的治療学会学術集会 (佐賀)、2023 年 6 月 21 日
10. 富田佳那、椿 正寛、武田朋也、田中滯美、滝本航大、西田升三: Hippo-YAP 経路を介した肺がんの転移機序の解明
第 27 回日本がん分子標的治療学会学術集会 (佐賀)、2023 年 6 月 21 日
11. 西田升三、椿 正寛、武田朋也、田中滯美、滝本航大: 多発性骨髄腫における抗がん剤耐性に Bim 発現低下が中心的役割を果たす
第 27 回日本がん分子標的治療学会学術集会 (佐賀)、2023 年 6 月 21 日
12. 武田朋也、椿 正寛、田中滯美、滝本航大、西田升三: EGFR 活性化による EMT 誘導を介したタモキシフェン耐性獲得機序
第 27 回日本がん分子標的治療学会学術集会 (佐賀)、2023 年 6 月 21 日
13. 田中滯美、椿 正寛、武田朋也、滝本航大、西田升三: Sorafenib による c-Kit 活性化悪性黒色腫での腫瘍増殖および転移抑制効果
第 27 回日本がん分子標的治療学会学術集会 (佐賀)、2023 年 6 月 21 日
14. 滝本航大、椿 正寛、武田朋也、竹藤帆花、田中滯美、西田升三: Statins による KRAS 変異大腸がんでのオキサリプラチン殺細胞作用増強効果
第 27 回日本がん分子標的治療学会学術集会 (佐賀)、2023 年 6 月 21 日

[外部助成]

1. 西田升三(代表): 分子標的薬耐性慢性骨髄性白血病における耐性獲得機序の解明と新規標的治療の開発
令和5年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C)
2. 武田朋也(代表): 骨微小環境に着目したトリプルネガティブ乳癌の骨転移機序の解明及び治療法の開発
令和5年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C)
3. 武田朋也(代表): 骨微小環境を標的としたトリプルネガティブ乳癌の骨転移に対する新規治療法の開発
令和5年度 一般財団法人横山臨床薬理研究助成基金 一般研究助成

[教育・社会活動]

1. 西田升三: 東大阪市立総合病院臨床研究審査委員会 委員
2013年4月1日～
2. 西田升三: NPO 法人近畿がん診療推進ネットワーク 理事
2011年4月1日～
3. 西田升三: 東大阪市立総合病院治験審査委員会 委員
2007年7月25日～
4. 西田升三: 大阪地区地域連携推進協議会 委員
2007年4月1日～
5. 西田升三: 緩和医療インテンシブコース運営委員会 委員
2007年4月1日～

有機薬化学研究室

職・氏名・学位

教授・田邊 元三・博士(薬学)
Genzoh Tanabe
担当科目：基礎ゼミ(1)、有機化学 1 (医 1)、有機化学 2 (医 2)、生物有機化学 (医創 2)、基礎薬科学実習(1 分担)、有機化学・生薬学実習 (医創 2 分担)、創薬科学実習 1 (創 2 分担)

所属学会：日本薬学会

准教授・石川 文洋・博士(理学)
Fumihiro Ishikawa
担当科目：基礎ゼミ(1)、有機化学 1 (創 1)、有機化学 2 (創 2)、グローバル創薬科学演習 (創 2 分担)、基礎薬科学実習 (1 分担)、有機化学・生薬学実習 (医創 2 分担)、創薬科学実習 1 (創 2 分担)

所属学会：日本薬学会、日本化学会、日本ペプチド学会、日本ケミカルバイオロジー学会、医薬化学部会、生体機能関連化学部会、生命化学研究会

助教・高島 克輝・博士(工学)
Katsuki Takashima
担当科目：基礎ゼミ(1)、基礎薬科学実習(1 分担)、早期体験学習 (医)、有機化学・生薬学実習 (医創 2 分担)、創薬科学実習 (創 2 分担)、生物有機化学 (創 3)

所属学会：日本薬学会、有機合成化学協会

現在行われている主な研究テーマ

1. 伝承薬の近代科学的な解析を基盤にした天然物の構造活性相関研究
2. ヒトの体の動的な仕組みや病態メカニズムの研究とその進展を基盤にした創薬研究
3. 生物学的研究・ケミカルバイオロジー研究に利用できる新しい分子ツールや方法論の確立
4. 生合成系を活用したペプチド系化合物の合成研究および生合成系の機能解析研究
5. 細菌のタンパク質分解システムに関する研究

研究業績

[原著論文]

1. Takasaki T, Hamabe Y, Touchi K, Khandakar G I, Ueda T, Okada H, Sakai K, Nishio K, Tanabe G, Sugiura R : ACA-28, an ERK MAPK Signaling Modulator, Exerts Anticancer Activity through ROS Induction in Melanoma and Pancreatic Cancer Cells.
Oxid. Med. Cell Longev., **2024**(1), 7683793, 2024 年 3 月
2. Nakano T, Kousaka N, Nakayama A, Kato Y, Takashima K, Tanabe G, Yoshimatsu M : Radical Nitrososulfonation of Propargyl Alcohols: Thiazolidine-2,4-dione-Assisted Synthesis of 5-Alykyl-4-sulfonylisoxazoles.
Org. Lett., **26**(9), 1753-1757, 2024 年 2 月
3. Takashima K, Nakamura S, Nagayama M, Marumoto S, Ishikawa F, Xie W, Nakanishi I, Muraoka O, Morikawa T, Tanabe G : Role of The Thiosugar Ring in the Inhibitory Activity of Salacinol, A Potent Natural α -Glucosidase Inhibitor.
RSC Adv., **14**(7), 4471, 2024 年 2 月
4. Ishikawa F, Konno S, Takeya H, Tanabe G : Development of A Chemical Scaffold for Inhibiting Nonribosomal Peptide Synthetases in Live Bacterial Cells.
Beilstein J. Org. Chem., **20**, 445-451, 2024 年 2 月

5. Ishikawa F, Homma M, Tanabe G, Uchihashi T : Protein Degradation in Bacteria: Focus on The ClpP Protease.
Nihon Saikingaku Zasshi., **79**(1), 1-13, 2024 年 1 月
6. Takashima K, Asai A, Ashidate M, Suzuki R, Marumoto S, Ishikawa F, Morikawa T, Tanabe G : Total Synthesis of Calanthoside, A Potential Hair Growth Stimulant: A Facile Synthetic Approach via One-Pot *S*- and *O*-Glucosidic Bond Formation.
J. Nat. Prod., **86**(12), 2672-2684, 2023 年 11 月
7. Ishikawa F, Nakamura S, Nakanishi I, Tanabe G : Recent Progress in The Reprogramming of Nonribosomal Peptide Synthetases.
J. Pept. Sci., **30**(3), e3545, 2023 年 8 月
8. Ishikawa F, Tsukumo N, Morishita E, Asamizu S, Marumoto S, Takashima K, Onaka H, Tanabe G : Biosynthetic Diversification of Non-Ribosomal Peptides through Activity-Based Protein Profiling of Adenylation Domains.
Chem. Commun., **59**(62), 9473-9476. **Highlighted as a Back cover**, 2023 年 7 月
9. Ishikawa F, Tanabe G : Chemical Labeling of Protein 4'-Phosphopantetheinylation in Surfactin-Producing Nonribosomal Peptide Synthetases.
Methods Mol. Biol. **2670**, 285, 2023 年 5 月
10. Ishikawa F, Tanabe G : Chemoproteomic Profiling of Adenylation Domain Functions in Gramicidin S-Producing Non-Ribosomal Peptide Synthetases.
Methods Mol. Biol. **2670**, 69, 2023 年 5 月

[著書]

1. 石川文洋: 非リボソームペプチドの多様性を構築するアデニル化酵素のエンジニアリング、
 PEPTIDE NEWSLETTER JAPAN No. 129
 pp 1-4、日本ペプチド学会 2023 年 7 月

[学会・シンポジウム]

1. 石川文洋: 原核生物のタンパク質品質管理機構に關与する ClpP を利用した細胞内の人為的分解制御
 酵素 2023 第 49 回研究発表会 (大阪)、2023 年 11 月
2. 石川文洋、正林直人、秋永修佑、中村真也、仲西 功、田邊元三: 原核生物のタンパク質分解酵素 ClpP の誤作動を誘起するアシルデプシペプチドの構造活性相關研究
 第 51 回構造活性相關シンポジウム(東京)、2023 年 11 月
3. 高島克輝、浅井 茜、芦立未奈、鈴木璃子、丸本真輔、石川文洋、萬瀬貴昭、森川敏生、田邊元三: ワンポット *S*, *O* グリコシド結合形成反応を用いた calanthoside の全合成と構造活性相關研究
 第 49 回反応と合成の進歩シンポジウム(岐阜)、2023 年 11 月
4. 鈴木璃子、高島克輝、丸本真輔、石川文洋、萬瀬貴昭、森川敏生、田邊元三: ワンポット *S*, *O*-グリコシド結合形成反応を鍵とした calanthoside 誘導体の合成およびその HFDPIC 増殖促進作用評価
 第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会(兵庫)、2023 年 10 月
5. 古部聖也、高島克輝、石川文洋、田邊元三: サラシノール型チオ糖スルホニウム塩構造を基盤とするガラクトシダーゼ阻害剤の合成研究
 第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会(兵庫)、2023 年 10 月
6. 石川文洋、今井嵩友、正林直人、秋永修佑、大西利奈、内田千晴、田邊元三: 原核生物の蛋白質分解系を攪乱するアシルデプシペプチドの構造活性相關研究: 代謝安定型高活性アシルデプシペプチド誘導体の創製
 第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会(兵庫)、2023 年 10 月

7. 楠原早絢、正林 直人、高島 克輝、石川 文洋、田邊 元三: 原核生物において蛋白質分解を誘起するアシルデプシペプチドの構造活性相関研究
第 52 回複素環化学討論会(仙台)、2023 年 10 月
8. 高島克輝、谷口歩、長澤遥斗、丸本真輔、石川文洋、田邊元三: チオ糖スルホニウム塩型 α -グルコシダーゼ阻害剤 neokotalanol の効率的合成法の探索研究
第 52 回複素環化学討論会(仙台)、2023 年 10 月
9. 鈴木璃子、高島克輝、芦立未奈、丸本真輔、石川文洋、萬瀬貴昭、森川敏生、田邊元三: HFDP 細胞増殖活性を有するインドールアルカロイド S,O-配糖体の合成と構造活性相関研究
第 52 回複素環化学討論会(仙台)、2023 年 10 月
10. 石川文洋、九十九菜摘、森下絵理香、浅水俊平、楠原早絢、丸本真輔、高島克輝、尾仲宏康、田邊元三: Activity-based protein profiling を基盤とする非リボソームペプチドの分子多様性の創出
第 17 回バイオ関連化学シンポジウム(千葉)、2023 年 9 月
11. 石川文洋、正林直人、秋永修佑、高島克輝、田邊元三: 原核生物において蛋白質分解を誘起するアシルデプシペプチドの構造活性相関研究
第 55 回若手ペプチド夏の勉強会(京都)、2023 年 8 月
12. 石川文洋、木下佳奈、中西由華、宮永顕正、工藤史貴、江口正、田邊元三: NRPS 生合成系における蛋白質間相互作用のエンジニアリング
第 55 回若手ペプチド夏の勉強会(京都)、2023 年 8 月

[外部助成]

1. 田邊元三(代表): 新規作用機序の抗結核薬開発を志向したスルホニウム塩型ラムノシダーゼ阻害剤の創生
2022 度日本学術振興会 基盤研究 (C) 2022 年 4 月–2025 年 3 月
2. 石川文洋(代表): 原核生物のタンパク質品質管理機構に関与する ClpP を利用した細胞内タンパク質の人為的分解制御
公益財団法人 日本応用酵素協会 2022 年度 酵素研究助成 2022 年 5 月–2023 年 9 月
3. 石川文洋(代表): 細胞内基質蛋白質ラベル化技術に基づく原核生物蛋白質分解装置 ClpP の動作原理の解明
公益財団法人 薬学研究奨励財団 研究助成 2021 年 4 月–2024 年 3 月
4. 石川文洋(代表): 蛋白質間相互作用の合理的リデザインによる NRPS 生合成系の分解および再構築
公益財団法人 発酵科学研究所 2023 年度 一般研究助成 2023 年 4 月–2025 年 3 月

[教育・社会活動]

1. 田邊元三: 薬学教育協議会 生薬学・天然物化学関連教科担当教員
2018年4月～
2. 田邊元三: 日本薬学会関西支部幹事
2019年4月～
3. 石川文洋: 同志社大学 嘱託講師
2022年4月～
4. 石川文洋: 近畿大学附属和歌山高等学校出張講義
2024年3月
5. 石川文洋: 近畿大学附属豊岡高等学校出張講義
2023年10月
6. 石川文洋: 上宮高等学校出張講義
2023年9月
7. 石川文洋: オープンキャンパス模擬講義
2023年8月

社会薬学分野

職・氏名・学位

教授・大鳥 徹・博士（薬学）
Toru Otori

担当科目：基礎ゼミ(1)、薬と経済(医 4 分担)、ファーマシューティカルケア(医 4)、フィジカルアセスメント(医 4)、実務実習事前学習(医 4)、地域医療（医 6 分担）、医療・薬事関係法規 2(医 6 分担)

所属学会：日本薬学会、日本医療薬学会、日本社会薬学会、日本医薬品情報学会、在宅薬学会、日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会、日本病院薬剤師学会、日本災害医学会

准教授・北小路 学・博士（医学）
Manabu Kitakoji

担当科目：基礎ゼミ(1)、調剤学(医 4)、フィジカルアセスメント(医 4)、実務実習事前学習(医 4)、地域医療（医 6 分担）

所属学会：日本薬学会、日本医療薬学会、日本在宅医療学会、日本社会薬学会、日本薬局学会、日本災害医学会、日本職業・災害医学会

講師・高橋 克之・博士（医学）
Katsuyuki Takahashi

担当科目：基礎ゼミ(1)、生命倫理(医 2)、医療・薬事関係法規 1(医 4 分担)、ファーマシューティカルケア(医 4 分担)、医薬連携学習(医 4)、フィジカルアセスメント(医 4)、実務実習事前学習(医 4)、医療・薬事関係法規 2(医 6 分担)

所属学会：日本臨床腫瘍学会、日本臨床腫瘍薬学会、日本医療薬学会、日本薬学会、日本社会薬学会

現在行われている主な研究テーマ

1. がん患者の薬物療法の質向上に関する臨床研究
2. 抗がん剤ペメトレキセドの経口投与可能なプロドラッグ研究
3. 分子標的製剤のカボザンチニブの有効使用のための薬物動態の研究
4. 在宅医療における薬剤師の役割に関する検討
5. 医薬品在庫による医療機関の経営分析と要因検討
6. 災害時医薬品管理システムの構築と評価に関する研究

研究業績

[原著論文]

1. 北小路学、石渡俊二、谷岡花菜、井上知美、小竹 武、大鳥徹: 大阪府北部地震発災後の薬局施設の被災状況解析と対応策

医学と生物学, 163(3), 1-7, 2023 年 9 月

2. Takahashi M, Takahashi K(Corresponding Author), Kaneda H, Kawaguchi T, Otori T, Nakamura Y : Analysis of Risk Factors for Febrile Neutropenia in Patients with Small-Cell Lung Cancer Receiving Carboplatin plus Etoposide Therapy.

Oncology, doi: 10.1159/000535822. Epub ahead of print. PMID: 38160673. 2023 年

3. Dote S, Shiwaku E, Kohno E, Fujii R, Mashimo K, Morimoto N, Yoshino M, Odaira N, Ikesue H, Hirabatake M, Takahashi K, Takahashi M, Takagi M, Nishiuma S, Ito K, Shimato A, Itakura S, Takahashi Y, Negoro Y, Shigemori M, Watanabe H, Hayasaka D, Nakao M, Tasaka M, Goto E, Kataoka N, Yokomizo A, Kobayashi A, Nakata Y, Miyake M, Hayashi Y, Yamamoto Y, Hirata T, Azuma K, Makihara K, Fukui R, Tokutome A, Yagisawa K, Honda S, Meguro Y, Suzuki S, Yamaguchi D, Miyata H, Kobayashi Y : IMBERA Investigators : Impact of Prior Bevacizumab Therapy on the Incidence of Ramucirumab-induced Proteinuria in Colorectal Cancer: a Multi-institutional Cohort Study.

Int J Clin Oncol., **28**(8), 1054-1062, 2023 年

[著書]

1. 大鳥徹：調剤と情報 2023 年 7 月増刊号 (vol.29 No.10) 第 3 章 仮説検定編 3.1.8 複数の患者の検査値 A と検査値 B の間に相関関係があるかを検定したい 直線回帰の回帰係数の t 検定 pp.178-183、じほう 2023 年 7 月
2. 高橋克之：調剤と情報 2023 年 7 月増刊号 (vol.29 No.10) 第 3 章 仮説検定編 3.2.4 比率の差のマクネマー検定、3.2.8 代表値の差の「マン・ホイットニーの U 検定」、3.2.9 代表値の差の「ウィルコクソンの符号付順位和検定」 pp.196-199, pp.214-223、じほう 2023 年 7 月
3. 高橋克之：がん薬物療法副作用管理マニュアル 第 3 版 pp.279-291、医学書院 2024 年 2 月

[学会・シンポジウム]

1. 倉橋翔太郎、石川佳奈、松野純男、川畑篤史、高橋克之、大鳥徹、榊原幹夫：在宅施設患者における痒みの現状とスキンケアの実態調査 第 17 回日本薬局学会学術総会 名古屋 (ポスター)、2023 年 7 月
2. 中西真奈、松野純男、北小路学、高橋克之、大鳥徹：終末期在宅医療への薬剤師参画に関する現状把握と課題の抽出 第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会 (ポスター)、2023 年 10 月
3. 高橋克之：社会のニーズに応える薬学教育・薬剤師育成を考える ―「医療薬学」から「臨床薬学」への進展 ― これからの薬剤師に必要な能力―薬物療法の個別最適化 第 33 回 医療薬学会年会 (公募シンポジウム)、2023 年 11 月
4. 高橋克之：臨床現場と大学の協働によるエビデンスの創出と次世代を担う後進育成 臨床マインドと研究マインドを兼ね備えた次世代を担う薬剤師の育成 日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2024 (公募シンポジウム)、2024 年 3 月

5. 倉橋翔太郎、松野純男、石川佳奈、川畑篤史、高橋克之、大鳥徹、山本卓資、榊原幹夫: 在宅施設患者における痒みとスキンケアに関する実態調査

日本薬学会 第144年会 (口頭)、2024年3月

[教育・社会活動]

1. 大鳥徹: 病院薬局実務実習、大阪府南部グループ協議会
オンライン 2023年5月18日
2. 大鳥徹: 薬学と社会教科担当者会議
昭和大学薬学部旗の台キャンパス (品川区) 2023年6月3日
3. 北小路学、高橋克之: 近畿大学薬学部模擬患者養成講習会 6月会
近畿大学東大阪キャンパス (東大阪市) 2023年6月3日・5日
4. 高橋克之: 大阪がん薬物療法研究会 世話人会
オンライン 2023年12月26日
5. 高橋克之: 第20回 大阪がん薬物療法研究会
オンライン 2024年3月5日
6. 大鳥徹: 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構大学小委員会
オンライン会議 2023年7月1日
7. 大鳥徹: 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構委員会
オンライン会議 2022年7月21日
8. 大鳥徹、北小路学、高橋克之: 近畿大学薬学部模擬患者養成講習会 7月会
近畿大学東大阪キャンパス (東大阪市) 2023年7月15日・25日
9. 大鳥徹: 病院薬局実務実習、京都市グループ7連絡会
オンライン 2023年7月27日
10. 大鳥徹: 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構委員会
オンライン会議 2023年7月28日
11. 大鳥徹: 第13回薬剤師のためのフィジカルアセスメント講習会
近畿大学東大阪キャンパス (東大阪市) 2023年8月26日
12. 大鳥徹、北小路学: 近畿大学薬学部模擬患者養成講習会 9月会
近畿大学東大阪キャンパス (東大阪市) 2023年8月29日、9月2日
13. 高橋克之: 第19回 大阪がん薬物療法研究会
オンライン 2023年9月6日
14. 高橋克之: 第120回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ (薬学教育者ワークショップ) in 近畿 タスクフォース
近畿大学東大阪キャンパス (東大阪市) 2023年10月8日・9日
15. 大鳥徹: 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構委員会
オンライン会議 2023年10月27日
16. 大鳥徹、北小路学、高橋克之: 近畿大学薬学部模擬患者・模擬医師養成講習会 11月会
近畿大学東大阪キャンパス (東大阪市) 2023年11月6日、11日

17. 高橋克之: 兵庫県「乳がんチーム医療ワークショップ」におけるファシリテーター
オンライン 2023年 11月 11日
18. 大鳥徹、北小路学、高橋克之: 近畿大学薬学部模擬患者・模擬医師養成講習会 12月会
近畿大学東大阪キャンパス（東大阪市） 2023年 12月 2日、4日
19. 高橋克之: 和歌山県薬剤師会・和歌山県病院薬剤師会連絡会
「2024年度学生受入連絡会」和歌山県実務実習連絡会
和歌山県薬剤師会館（和歌山市） 2024年 1月 14日
20. 大鳥徹: 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構委員会
オンライン会議 2024年 1月 26日
21. 北小路学: 和歌山県実務実習連絡会
オンライン 2024年 1月 29日
22. 大鳥徹: 堺市実務実習グループ協議会
オンライン 2024年 2月 13日
23. 大鳥徹: 奈良県薬剤師会実務実習連絡会
オンライン 2024年 2月 18日
24. 大鳥徹、北小路学、高橋克之: 大阪市南部地区、近畿大学病院、近畿大学奈良病院 実務実習連
絡会開催
近畿大学東大阪キャンパス（東大阪市） 2024年 2月 18日
25. 大鳥徹: 第14回薬剤師のためのフィジカルアセスメント講習会
近畿大学東大阪キャンパス（東大阪市） 2024年 2月 24日
26. 大鳥徹: 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構大学小委員会
オンライン会議 2024年 3月 12日

臨床薬学部門 医療薬剤学分野 研究室

職・氏名・学位

教授・小竹 武・博士(薬学)

Takeshi Kotake

担当科目：基礎ゼミ(1)、薬学概論(医1共担)、早期体験学習(医1共担)、実務実習事前学習(医4共担)、医薬連携学習(医4共担)、フィジカルアセスメント(医4共担)、臨床薬学実務実習(医5共担)、実践病態と治療(医5共担)、総合薬学演習2(医6共担)、臨床薬物動態学(医6)、薬効薬理処方解析(医6)

所属学会：日本薬学会、日本医療薬学会、日本病院薬剤師会、日本薬剤師会、日本臨床救急医学会、日本医薬品情報学会

准教授・石渡 俊二・博士(薬学)

Shunji Ishiwata

担当科目：基礎ゼミ(1)、早期体験学習(医1共担)、生命倫理(医2共担)、臨床薬学英語(医4)、実務実習事前学習(医4共担)、フィジカルアセスメント(医4共担)、臨床薬学実務実習(医5共担)、実践病態と治療(医5共担)、総合薬学演習2(医6共担)

所属学会：日本薬学会、日本医療薬学会、日本病院薬剤師会、日本癌学会、日本災害医学会

講師・井上 知美・博士(薬学)

Tomomi Inoue

担当科目：基礎ゼミ(1)、早期体験学習(医1共担)、生命倫理(医2共担)、実務実習事前学習(医4共担)、医療薬学総論(医4共担)、医薬連携学習(医4共担)、フィジカルアセスメント(医4共担)、臨床薬学実務実習(医5共担)、実践病態と治療(医5共担)、総合薬学演習2(医6共担)

所属学会：日本薬学会、日本医療薬学会、日本病院薬剤師会、日本薬剤師会、日本循環器学会、日本臨床救急医学会、日本災害医学会

現在行われている主な研究テーマ

1. 薬剤の安定性、同等性に関する研究
2. 高度医療(胎児不整脈)に関する研究
3. 循環器疾患の救急救命処置に関する調査および研究
4. 災害・救急時における安心・安全な社会システムの構築に関する研究
5. 薬物療法に伴う医療施設業務に関する調査および研究
6. 抗がん剤汚染防止教育システムの開発
7. 在宅医療における薬物療法に関する研究
8. 薬物療法における適正使用の選択因子の抽出に関する研究

研究業績

[原著論文]

1. 北小路学、石渡俊二、谷岡花菜、井上知美、小竹 武、大鳥徹: 大阪府北部地震発災後の薬局施設の被災状況解析と対応策

医学と生物学, 163(3), 1-7, 2023年9月

2. 橋本貴子、遠藤晋吾、井上知美、石渡俊二、藤井一美、安井友佳子、石坂敏彦、小竹 武: 供給困難回避指標のための本邦における販売中止医療用医薬品に関する実態調査
日本病院薬剤師会雑誌, 60(2), 123-128, 2024 年 2 月

[学会・シンポジウム]

1. 武田千賀子、近藤由佳、井上知美、石渡俊二、小竹 武: オーラルフレイルおよびフレイル予防の啓発が重要な薬局来局者の特定因子の抽出
第 20 回日本口腔ケア学会総会・学術大会 (東京)、2023 年 4 月 20 日
2. Takeda C, Kondo Y, Inoue T, Ishiwata S, Kotake T: Identification of Specific Factors of Pharmacy Visitors for Whom Awareness of Oral Frailty and Frailty Prevention is Important
4th Annual Meeting of the International Society of Oral Care (東京)、2023 年 4 月 20 日
3. 橋本旭飛、尾崎友紀、今中徹、近藤由佳、井上知美、石渡俊二、小竹 武: 関節リウマチにおける疼痛関連因子の解析
第 17 回日本薬局学会学術総会 (愛知)、2023 年 10 月 9 日
4. 近藤由佳、吉田哲也、船越奏良、井上知美、石渡俊二、小竹 武: 小児科領域のアセトアミノフェンにおける年齢の剤形選択および併用薬の処方決定因子解析
第 17 回日本薬局学会学術総会 (愛知)、2023 年 10 月 9 日
5. 片山祥子、岩本亨大、立花陽、荒木有希子、山下博美、坂本紀夫、星野翔太郎、原和夫、藤田夏美、井上知美、石渡俊二、小竹 武: 当薬局における解熱鎮痛剤処方頻度のコロナ禍による影響と併用薬の比較解析
第 17 回日本薬局学会学術総会 (愛知)、2023 年 10 月 9 日
6. 荒木幸子、島可奈、近藤由佳、井上知美、石渡俊二、小竹 武: 薬局事務員における医療事務基本知識の分野別理解不足抽出解析
第 17 回日本薬局学会学術総会 (愛知)、2023 年 10 月 9 日
7. 岩本亨大、片山祥子、立花陽、荒木有希子、山下博美、坂本紀夫、星野翔太郎、原和夫、浅田拓海、井上知美、石渡俊二、小竹 武: 当薬局における直接作用型経口抗凝固薬(DOAC) およびワルファリンの処方変遷と処方背景について
第 17 回日本薬局学会学術総会 (愛知)、2023 年 10 月 9 日
8. 岡本優子、西岡菜名美、吉岡雅起、井上知美、石渡俊二、小竹 武: オゾンガス曝露量検出におけるインジケータの改良
第 73 回 日本薬学会関西支部総会・大会 (兵庫)、2023 年 10 月 14 日
9. 橋本貴子、山本圭城、石坂敏彦、小竹 武: 腹膜透析患者における静注バンコマイシン投与において、TDM の用量調節により予定治療期間を完遂できた 1 症例
第 17 回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会 (愛知)、2023 年 10 月 28 日
10. 井上知美、石橋芙起、加藤理乃、中原良太、石渡俊二、小竹 武: ヒト肝ミクロソームにおける体温管理療法実施温度下でのミタゾラム代謝比較
第 33 回日本医療薬学会年会 (宮城)、2023 年 11 月 3 日
11. 中川朋代、堤 美帆、千葉貴子、大坪広美、西光優衣、森本未緒、井上知美、石渡俊二、小竹 武、早田 憲司: ヒト母乳中のフェキソフェナジン濃度の測定結果 1 例報告
第 33 回日本医療薬学会年会 (宮城)、2023 年 11 月 5 日
12. 武田千賀子、近藤由佳、井上知美、石渡俊二、小竹 武: 来局者のオーラルケアの状況およびオーラルフレイルの意識の効率的評価のためのアンケート項目の関連性解析
日本薬学会 第 144 年会 (神奈川)、2024 年 3 月 30 日

13. 工藤裕月、近藤由佳、井上知美、石渡俊二、小竹 武: 薬局はオーラルフレイル予防の担い手になりうるか。-来局者のオーラルケアおよびオーラルフレイルの状況・意識アンケート解析から-
日本薬学会 第 144 年会 (神奈川)、2024 年 3 月 30 日
14. 島可奈、荒木幸子、近藤由佳、井上知美、石渡俊二、小竹 武: 薬局医療事務員の医療事務確認試験における成績特性解析
日本薬学会 第 144 年会 (神奈川)、2024 年 3 月 30 日
15. 長井紀章、吉富丈治、北庄司椋平、大竹裕子、遠藤雄一、小竹 武: 麻黄附子細辛湯懸濁液中における粗大・コロイド・分子分散体の同定とその小腸膜透過性の評価
日本薬学会 第 144 年会 (神奈川)、2024 年 3 月 31 日
16. 山本季美江、近藤由佳、井上知美、石渡俊二、小竹 武: 電子版お薬手帳の普及と薬局環境の関連性解析
日本薬学会 第 144 年会 (神奈川)、2024 年 3 月 31 日
17. 内山あゆみ、近藤由佳、井上知美、石渡俊二、小竹 武: 電子版お薬手帳のアプリ移行および登録・利用状況の解析
日本薬学会 第 144 年会 (神奈川)、2024 年 3 月 31 日

[特許]

1. 小竹 武: 「オゾンインジケータの調製方法およびオゾンインジケータ」
日本国特許 7298830 号
2. 石渡俊二: 「オゾンインジケータの調製方法およびオゾンインジケータ」
日本国特許 7298830 号
3. 井上知美: 「オゾンインジケータの調製方法およびオゾンインジケータ」
日本国特許 7298830 号

[教育・社会活動]

1. 小竹 武: 関西広域連合登録販売者試験委員
2019 年 4 月～
2. 小竹 武: 大阪府薬剤師会薬学生実務実習受入対策委員
2014 年 4 月～
3. 小竹 武: 薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構委員
2009 年 4 月～
4. 小竹 武: 薬剤師国家試験問題検討委員会委員 (実務部会)
2012 年 4 月～
5. 小竹 武: ヒューマニティ・コミュニケーション教科担当委員
2012 年 4 月～
6. 小竹 武: 実務実習教科担当委員
2012 年 4 月～
7. 石渡俊二: 無菌注射剤調剤講習会 (無菌調剤室利用者研修会II)
近畿大学 (大阪) 2024 年 3 月 16 日
8. 石渡俊二: 大阪赤十字病院治験審査委員会 委員
2015 年 4 月～

9. 井上知美: 日本循環器学会 AHA BLS Course Director
2012年4月～
10. 井上知美: 日本循環器学会 AHA BLS Training Center Faculty
2012年7月～
11. 井上知美: 第13回薬剤師のための患者急変時対応講習会 講師
近畿大学（大阪）2023年9月2日
12. 井上知美: 第14回薬剤師のための患者急変時対応講習会 講師
近畿大学（大阪）2024年2月24日
13. 井上知美: 日本循環器学会 第22回心肺蘇生法市民公開講座 実行委員
神戸コンベンションセンター（兵庫）2024年3月10日

医薬品情報学分野

職・氏名・学位

教授・細見 光一・博士(薬学)

Kouichi Hosomi

担当科目：基礎ゼミ(1)、早期体験学習(医1 共担)、生命倫理(医2 共担)、薬学概論(医1 分担)、医薬品情報学(医3)、医療・薬事関係法規1(医4 分担)、医薬連携学習(医4 共担)、実務実習事前学習(医4 共担)、フィジカルアセスメント(医4 共担)、臨床医学概論(医4 分担)、実践病態と治療(医5 共担)、臨床薬学実務実習(医5 共担)、総合演習2(医6 共担)

所属学会：日本薬学会、日本医療薬学会、日本医薬品情報学会、日本薬剤疫学会

准教授・横山 聡・博士(薬科学)

Satoshi Yokoyama

担当科目：基礎ゼミ(1)、情報科学実習(1 分担)、早期体験学習(医1 共担)、生命倫理(医2 共担)、基礎医療薬学(医3)、医薬連携学習(医4 共担)、実務実習事前学習(医4 共担)、フィジカルアセスメント(医4 共担)、実践病態と治療(医5 共担)、臨床薬学実務実習(医5 共担)、総合演習2(医6 共担)

所属学会：日本薬学会、日本医療薬学会、日本医薬品情報学会、日本薬剤疫学会

助教・宇野 貴哉・博士(薬学)

Takaya Uno

担当科目：基礎ゼミ(1)、早期体験学習(医1 共担)、生命倫理(医2 共担)、医薬連携学習(医4 共担)、実務実習事前学習(医4 共担)、フィジカルアセスメント(医4 共担)、実践病態と治療(医5 共担)、臨床薬学実務実習(医5 共担)、総合演習2(医6 共担)

所属学会：日本薬学会、日本医療薬学会

現在行われている主な研究テーマ

1. 医療ビッグデータの解析による医薬品安全性評価研究
2. リアルワールドデータの多角的解析に関する研究
3. アンメットメディカルニーズを指向したドラッグ・リポジショニング研究
4. 医療資源最適化に関する研究
5. 医薬品適正使用に関する臨床薬学研究

研究業績

[原著論文]

1. Komatsu Y, Yodoshi M, Takegami M, Yokoyama S, Hosomi K : Association between Hemorrhage and Direct Oral Anticoagulants in Combination with Verapamil: Analysis of Japanese Adverse Drug Event Report database and electronic medical record data
Int. J. Clin. Pharmacol. Ther., **61**, 148-158, 2023 年 4 月
2. Nakagawa C, Yokoyama S, Hosomi K : Association of Statin Adherence with the Development of Nonalcoholic Fatty Liver Disease: A Nested Case-control Study using a Japanese Claims Database
Ann. Pharmacother., **57**, 637-645, 2023 年 6 月
3. 横山聡、細見光一 : レセプトデータベースを中心としたビッグデータの利活用
薬学雑誌 **143**, 497-500, 2023 年 6 月

4. Yokoyama S, Nakagawa C, Hosomi K : Association between Statin Use and Open-angle Glaucoma: A Nested Case-control Study using the Japanese Claims Database
Sci. Rep., **13**, 11677, 2023 年 7 月
5. Tanaka Y, Yokoyama S, Nakagawa C, Uno T, Hosomi K : Association between Sodium-glucose Cotransporter 2 Inhibitors and Pancreatic Cancer in the Japanese Working Age Population
Int. J. Clin. Pharmacol. Ther., **61**, 492-502, 2023 年 11 月
6. Tanaka Y, Ota R, Hirata A, Yokoyama S, Nakagawa C, Uno T, Hosomi K : Effect of Baseline Urinary Glucose Levels on the Relationship between Sodium-glucose Cotransporter 2 Inhibitors and Serum Uric Acid in Japanese Patients with Type 2 Diabetes Mellitus
Pharmazie., **78**, 238-244, 2023 年 12 月

[学会・シンポジウム]

1. 西 杏菜、中川千拓、宇野貴哉、横山 聡、細見光一： てんかん患者を対象とした、抗てんかん薬の併用療法と SJS/TEN の関連性の調査
第 6 回フレッシュャーズ・カンファランス（京都）、2023 年 6 月 11 日
2. 柏原舞由子、廣瀬 遼、中川千拓、馬淵賢幸、宇野貴哉、横山 聡、細見光一： レセプトデータベースを用いた潜在的に不適切な処方における併用薬の実態調査
第 6 回フレッシュャーズ・カンファランス（京都）、2023 年 6 月 11 日
3. 廣瀬 遼、柏原舞由子、中川千拓、馬淵賢幸、宇野貴哉、横山 聡、細見光一： 認知症高齢者における potentially inappropriate medications の関連因子の調査
第 6 回フレッシュャーズ・カンファランス（京都）、2023 年 6 月 11 日
4. 永井崇顕、角田匡基、山本健太、中川千拓、小松唯可、宇野貴哉、横山 聡、細見光一： 心房細動患者における経口抗凝固薬と大腸がんの関連性の検討
第 6 回フレッシュャーズ・カンファランス（京都）、2023 年 6 月 11 日
5. 小川千諒、中川千拓、宇野貴哉、横山 聡、細見光一： 日本の有害事象自発報告データベースを用いたプロトンポンプ阻害薬と横紋筋融解症の関連性の検討
第 6 回フレッシュャーズ・カンファランス（京都）、2023 年 6 月 11 日
6. 馬淵賢幸、廣瀬 遼、柏原舞由子、宇野貴哉、横山 聡、松元加奈、森田邦彦、細見光一： 潜在的に不適切な処方が含まれる因子の解析 —薬剤数群別による検討—
第 6 回フレッシュャーズ・カンファランス（京都）、2023 年 6 月 11 日
7. 中川千拓、横山 聡、細見光一： スタチンのアドヒアランスと非アルコール性脂肪性肝疾患の発症の関連性の検討
第 25 回日本医薬品情報学会総会・学術大会（京都）、2023 年 6 月 11 日
8. 田中侑希、横山 聡、宇野貴哉、細見光一： 2 型糖尿病患者における sodium-glucose cotransporter 2 阻害薬と膵がんとの関連性 —大規模レセプトデータを用いた解析—
第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会（兵庫）、2023 年 10 月 14 日
9. 山口亮子、中川千拓、宇野貴哉、横山 聡、細見光一： 関節リウマチ患者の生物学的製剤の処方変更とステロイド処方の関連性の調査 —保険者データベースを用いた nested case-control study—
第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会（兵庫）、2023 年 10 月 14 日
10. 山道 慎、中川千拓、宇野貴哉、横山 聡、細見光一： 神戸市ヘルスケアデータ連携システムを利用した新規介護認定と特定疾病との関連性についての検討
第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会（兵庫）、2023 年 10 月 14 日

11. 永井崇顕、角田匡基、山本健太、中川千拓、小松唯可、宇野貴哉、横山 聡、細見光一: 非弁膜症性心房細動患者における経口抗凝固薬と大腸がんに関する検討 —保険者データベースを用いたコホート内症例対照研究—
第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会 (兵庫)、2023 年 10 月 14 日
12. 中川千拓、太田涼介、平田敦士、宇野貴哉、横山 聡、細見光一: 関節リウマチ患者における、ステロイドの併用が分子標的薬の変更に与える影響の調査
第 33 回日本医療薬学会年会 (宮城)、2023 年 11 月 3 日
13. 田中侑希、太田涼介、平田敦士、横山 聡、宇野貴哉、細見光一: 2 型糖尿病患者における SGLT2 阻害薬服用前後の尿糖と尿酸値の関連
第 33 回日本医療薬学会年会 (宮城)、2023 年 11 月 3 日
14. 中川千拓、太田涼介、平田敦士、宇野貴哉、横山 聡、細見光一: TNF 阻害薬を開始した関節リウマチ患者の治療薬変更と経口ステロイド併用の関連性の検討
第 28 回日本薬剤疫学会学術総会 (京都)、2023 年 11 月 17 日
15. 宇野貴哉、細見光一、横山 聡: 有害事象自発報告データベースを用いたトルバプタン投与患者における肝障害と年齢の関連性に関する研究
日本薬学会第 144 年会 (神奈川)、2024 年 3 月 29 日
16. 細見光一、山道慎、中川千拓、伊内 智、宇野貴哉、横山 聡: 介護認定における特定疾病が社会活動に及ぼす影響 —神戸市ヘルスケアデータ連携システムの医療・介護データベースの活用—
日本薬学会第 144 年会 (神奈川)、2024 年 3 月 31 日
17. 中川千拓、横山 聡、宇野貴哉、太田涼介、平田敦士、細見光一: 関節リウマチ患者におけるメトトレキサートの継続率に及ぼす葉酸の影響
日本薬学会第 144 年会 (神奈川)、2024 年 3 月 31 日

[外部助成]

1. 細見光一(代表): データサイエンスを駆使した地域医療における服薬適正化対策への支援と検証
科学研究費助成事業—科研費—基盤研究(C) (2022-2025)
2. 横山 聡(代表): リアルワールドデータとオミックス情報の統合解析によるデータ駆動型医薬品開発
科学研究費助成事業—科研費—若手研究 (2023-2028)
3. 宇野貴哉(代表): 医療ビッグデータの解析により、心不全患者の服薬アドヒアランスの向上を目指した研究
一般社団法人—大阪薬業クラブ—令和 4 年度公益 (助成) 事業 (2022-2023)

[報償等]

1. 西杏 菜: 優秀演題発表賞
第 6 回フレッシュャーズ・カンファランス (京都)、2023 年 6 月
2. 田中侑希: 優秀口頭発表賞
第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会 (兵庫)、2023 年 10 月

[教育・社会活動]

1. 細見光一: 日本医療薬学会代議員
2019 年 3 月～
2. 細見光一、横山 聡、宇野貴哉: 近畿大学薬学部模擬患者の会 6 月会 講習会
近畿大学東大阪キャンパス (大阪) 2023 年 6 月 3 日、6 月 5 日
3. 細見光一、横山 聡、宇野貴哉: 近畿大学薬学部模擬患者の会 7 月会 講習会
近畿大学東大阪キャンパス (大阪) 2023 年 7 月 15 日、7 月 25 日

4. 細見光一、横山 聡、宇野貴哉: 近畿大学薬学部模擬患者の会 8月会 講習会
近畿大学東大阪キャンパス (大阪) 2023年8月29日
5. 細見光一、横山 聡、宇野貴哉: 近畿大学薬学部模擬患者の会 9月会 講習会
近畿大学東大阪キャンパス (大阪) 2023年9月2日
6. 細見光一、横山 聡: 第120回認定実務実習指導薬剤養成のためのワークショップ (薬学教育者
ワークショップ) in 近畿(近畿大学)_事務局
近畿大学東大阪キャンパス (大阪) 2023年10月8日
7. 細見光一、横山 聡、宇野貴哉: 近畿大学薬学部模擬患者の会 11月会 講習会
近畿大学東大阪キャンパス (大阪) 2023年11月6日、2023年11月11日
8. 横山 聡: 兵庫県薬剤師会・兵庫県病院薬剤師会実務実習連絡会
兵庫医科大学 (兵庫) 2024年1月21日
9. 宇野貴哉: 泉南地区グループ協議会
阪南市民病院 (大阪) 2024年2月3日
10. 横山 聡: 第123回認定実務実習指導薬剤養成のためのワークショップ (薬学教育者ワークショ
ップ) in 近畿(和歌山県立医科大学)
和歌山県立医科大学 (和歌山) 2024年2月11日、2024年2月12日
11. 細見光一、横山 聡、宇野貴哉: 大阪市南部地区、近畿大学病院、近畿大学奈良病院 実務実習連
絡会開催
近畿大学東大阪キャンパス (大阪) 2024年2月17日

教育専門部門

職・氏名・学位

教授・松野 純男・博士 (薬学)
Sumio Matzno
担当科目: 薬学概論 (医 1 分担)、早期体験学習(医 1 分担)、基礎ゼミ(1)、放射化学(医 2, 創 2)、薬学統計学 (創 2, 医 3)、衛生化学・放射化学実習(医 3 分担)、創薬科学実習 3 (創 3 分担)、実践病態と治療 (医 5 分担)、治験 (医 6 分担)

所属学会: 日本薬学会、日本薬理学会、日本音楽療法学会、日本薬学教育学会、日本医薬品情報学会

教授・大内 秀一・博士 (薬学)
Hidekazu Ouchi
担当科目: 早期体験学習(医 1 分担)、基礎ゼミ(1)、化学入門(医 1 分担)、基礎化学(医 1 分担)、基礎有機化学(1)、有機化学・生薬学実習(医 2)、実践病態と治療 (医 5 分担)

所属学会: 日本薬学会、日本薬学会医薬化学部会、有機合成化学協会、IDE 大学協会、日本薬学教育学会

准教授・和田 哲幸・博士 (薬学)
Tetsuyuki Wada
担当科目: 基礎ゼミ(1)、基礎生物学(1)、生物学入門(1)、人体生理学 2(医 2・創 2)、情報科学実習(1)、実践病態と治療 (医 5 分担)、早期体験学習 (医 1 分担)、衛生化学・放射化学実習(医 3 分担)

所属学会: 日本薬学会、日本薬剤師会、日本薬学教育学会、日本健康体力栄養学会、日本神経科学会、日本死の臨床研究会、日本サルコペニア・フレイル学会

准教授・船上 仁範・博士 (薬学)
Yoshinori Funakami
担当科目: 早期体験学習 (医 1 分担)、近大ゼミ (1)、教養特殊講義 B(1 分担)、基礎生物学 (1)、生物学入門 (1)、基礎薬科学実習 (1)、人体生理学 1(1)、生命倫理 (2)、免疫・分子生物学実習 (2 分担)、実践病態と治療 (医 5 分担)

所属学会: 日本薬学会、日本薬理学会、日本神経科学会、日本心身医学会

助教・八軒 浩子・博士 (薬学)
Hiroko Hachiken
担当科目: 早期体験学習(医 1 分担)、基礎ゼミ(1)、情報科学入門(1 分担)、実務実習事前学習(医 4 分担)

所属学会: 日本薬学会、日本薬剤師会、日本医療薬学会、日本医薬品情報学会、日本薬学教育学会

現在行われている主な研究テーマ

1. 薬学教育における効果的な教育ツールの開発および実践
2. 薬学教育評価における有用な統計解析手法の開発
3. ビジネスインテリジェンスツールの医療分野への応用
4. 天然由来のジアリールエーテル型化合物の合成および生物活性評価
5. ストレス関連疾患 (うつ・不安・慢性疼痛など) 発症メカニズムの解析

研究業績

[原著論文]

1. 土肥弘久、大和幹枝、伊藤俊将、水谷顕洋、廣澤伊織、松野純男、長南謙一、宮崎美子：薬局・病院実務実習を経験した5年次生へアカデミック・ディテールリングを応用した分野横断型授業の実践による症例検討に対する教育効果の検証
薬学教育, 7, DOI 10.24489/jjphe.2023-031, 2023年9月
2. Kasanami Y, Yamamoto T, Miyamoto T, Matzno S, Sakakibara M, Iwaki M, Kawabata A : Characterization of Potentially Inappropriate Medications That Need Special Attention in the Elderly with Dementia by Analyzing Pharmacy Claims Data.
Biol. Pharm. Bull. 46(12), 1699–1705, 2023年12月
3. Nishisaka H, Tomohiro T, Fukao A, Funakami Y, Fujiwara T : Neuronal RNA-Binding Protein HuD Interacts with Translation Initiation Factor eIF3.
Biol Pharm Bull., 46(2), 158-162, 2023年

[学会・シンポジウム]

1. 榎阪優希、南崎和哉、松野純男、大内秀一、和田哲幸、船上仁範、八軒浩子、大星直樹: JADERの多剤投与データを用いた医薬品特有重篤有害事象の抽出
日本薬学会第144年会（横浜）、要旨集、2024年3月31日
2. 倉橋翔太郎、松野純男、石川佳奈、川畑篤史、高橋克之、大鳥徹、山本卓資、榊原幹夫: 在宅施設患者における痒みとスキンケアに関する実態調査
日本薬学会第144年会（横浜）、要旨集、2024年3月31日
3. 大和幹枝、松野純男、土肥弘久、長南謙一: 統計学への意識改善につながる要因の探索：若手薬剤師の教育プログラム開発に向けて
日本薬学会第144年会（横浜）、要旨集、2024年3月30日
4. 土肥弘久、大和幹枝、伊藤俊将、水谷顕洋、廣澤伊織、松野純男、長南謙一、宮崎美子: 薬局・病院実務実習を経験した5年次生を対象とした分野横断型授業の実践による症例検討に対する教育的効果の検証
日本薬学会第144年会（横浜）、要旨集、2024年3月30日
5. 畑中一希、大内秀一、和田哲幸、船上仁範、八軒浩子、大星直樹、松野純男: Tweetのテキスト経時分析による感染症拡大予測の試み
第73回 日本薬学会関西支部総会・大会（神戸）、要旨集、2023年10月14日
6. 上田真理恵、大内秀一、和田哲幸、船上仁範、八軒浩子、大星直樹、松野純男: Business Intelligence (BI) ツールによる医療資源配分の最適化への試み
第73回 日本薬学会関西支部総会・大会（神戸）、要旨集、2023年10月14日
7. 中西真奈、松野純男、北小路学、高橋克之、大鳥徹: 終末期在宅医療への薬剤師参画に関する現状把握と課題の抽出
第73回 日本薬学会関西支部総会・大会（神戸）、要旨集、2023年10月14日
8. 倉橋翔太郎、石川佳奈、松野純男、高橋克之、川畑篤史、大鳥徹、榊原幹夫: 在宅施設患者における痒みの現状とスキンケアの実態調査
第17回 日本薬局学会 学術総会（名古屋）、要旨集、2023年10月8日
9. 橘英里、大内秀一、和田哲幸、船上仁範、八軒浩子、前川智弘、大星直樹、松野純男: 3Dプリンタを用いたアドレナリン受容体およびヒスタミン受容体サブタイプのリガンド結合様式の比較
第8回日本薬学教育学会大会（熊本）、要旨集、2023年8月20日

10. 南崎和哉、榎阪優希、大内秀一、和田哲幸、船上仁範、八軒浩子、大星直樹、松野純男: 機械学習を用いた医薬品副作用データベース(JADER)からの有害事象予測結果について
第25回日本医薬品情報学会総会・学術大会(京都)、要旨集、2023年6月10日
11. 伊内秋夫、片岡大士、大北篤史、瀧 一洋、和田哲幸、秋本義雄: 薬剤師はこのような事故を防げるか?～副作用情報提供と患者教育～
第62回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会 中四国支部学術大会(高知)、2023年10月28・29日
12. 伊内優里香、伊内 智、和田哲幸、瀧 一洋、大北篤志、秋本義雄: このような事故を薬剤師は防げるか～薬学生の視点で見た患者との面談のあり方～
第62回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会 中四国支部学術大会(高知)、2023年10月28・29日
13. 伊内 智、和田哲幸、伊内秋夫、伊内優里香、片岡大士、瀧 一洋、宮崎恭治、平賀秀明、秋本義雄: このような事故を薬剤師は防げるか薬学生の立場からの要望～抗てんかん薬服薬不良患者による交通事故事例から～
第56回日本薬剤師会学術大会(和歌山)、2023年9月18日
14. 伊内秋夫、瀧 一洋、片岡大士、近藤靖文、大北篤志、和田哲幸、平賀秀明、秋本義雄: このような事故を薬剤師は防げるか～面談による親族の副作用・アレルギー既往歴の情報収集～
第56回日本薬剤師会学術大会(和歌山)、2023年9月18日
15. 戸島 崇、友廣拓生、深尾亜喜良、船上仁範、藤原俊伸: miRNAの翻訳抑制効果を調節するRNA結合タンパク質の制御機構解析
第46回日本分子生物学会年会(神戸)、2023年12月6-8日
16. Sijue Gong, Akinari Hirakawa, Takumi Tomohiro, Akira Fukao, Yoshinori Funakami, Toshinobu Fujiwara: Translation regulation through the competition between the neuronal RNA-binding protein HuD and KSRP
第10回CCR4-NOT研究会、2023年11月13-15日
17. Hikari Nishisaka, Takumi Tomohiro, Akira Fukao, Yoshinori Funakami, Toshinobu Fujiwara: Elucidation of the regulatory mechanisms of neuronal differentiation induction by the interaction between neural Hu protein and Akt1
第24回日本RNA学会年会(沖縄)、2023年7月5-7日

[外部助成]

1. 松野純男(分担): 新規感染症流行時の医療リソース配置予測に関する研究
令和4～6年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)(代表: 大星直樹)
2. 松野純男(分担): 薬学におけるゲーミフィケーションを活用した教育の電子アプリ化とその評価
令和5～7年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)(代表: 青江麻衣)
3. 船上仁範(代表): 非天然型アミノ酸によるストレス誘発慢性疼痛の治療戦略に向けた基礎研究
令和5～7年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)

[教育・社会活動]

1. 松野純男: 関西医科大学大学院「多変量解析手法」講師
関西医科大学 2023年9月22日
2. 松野純男: 共和薬品工業主催「薬学部・看護専門学校、医療系学生のメンタル対策セミナー」講師
2023年9月28日
3. 松野純男: 2023年度 大阪大学薬学研究科新 Pharmatrain 教育/PRP コース「Module 4 臨床試験デザインの基礎: 統計学1・2」講師
2023年10月21日
4. 松野純男: 大阪大谷大学薬学部地域連携学術交流会『「取りっぱなし」にならないアンケートの作り方・解析法』講師
2024年1月20日
5. 松野純男: 薬学共用試験センター システム検討委員会 委員長
2018年7月～
6. 松野純男: 日本薬学教育学会機関誌『薬学教育』編集委員
2018年4月～
7. 松野純男: 薬学教育協議会教科担当教員会議 放射薬学系教科検討委員会委員
2006年4月～
8. 松野純男: 日本私立薬科大学協会 情報科学技術検討委員会 委員
2022年4月～
9. 松野純男: 医療統計推進協会 理事
2019年4月～
10. 松野純男: 文部科学省 令和5年度 大学における医療人養成の在り方に関する調査研究 e-learning コンテンツ作成 WG 委員
2023年4月～2024年3月
11. 大内秀一: 薬学教育協議会教科担当教員会議 有機化学系教科検討委員会委員
2006年4月～
12. 大内秀一: 薬学共用試験センター CBT 実施委員会 委員
2022年10月～
13. 大内秀一: 高校訪問(初芝立命館高校 他5校)での大学・学部説明
2023年6月29日
14. 大内秀一: 近畿大学出張講義 初芝立命館高等学校
2023年7月19日
15. 大内秀一: 高校訪問(住吉高校 他5校)での大学・学部説明
2023年9月5日
16. 大内秀一: 日本私立薬科大学協会 第43回教務部長会に出席
2023年11月10日
17. 和田哲幸: 和歌山県薬剤師会 第11回薬学部進学セミナー
2023年11月12日

18. 和田哲幸: 高齢者のための低栄養防止コンソーシウム大阪 代表
2017年10月～
19. 和田哲幸: 実践薬学研究会 副代表
2019年4月～
20. 和田哲幸: 柳井薬剤師会 講演「フレイルについて」
2024年3月16日
21. 和田哲幸: 徳島県小松島市 市長面談「CKD 予防ならびにフレイル対策を用いた定期健康診断
受診率アップについて」 市長と面談 今後の取り組みに協力することで合意する
2023年10月
22. 船上仁範: 連携講義 おくすり教室 (3年生)
近畿大学附属小学校 2023年11月30日
23. 船上仁範: 連携講義 薬物乱用について (5年生)
近畿大学附属小学校 2024年2月20日
24. 船上仁範: 日本薬理学会 学術評議員
2008年4月1日～

医薬品化学研究室

職・氏名・学位

教授・前川 智弘・博士(薬学)

Tomohiro Maegawa

担当科目：基礎ゼミ(1)、基礎有機化学(創1)、医薬品化学(医3)、有機反応化学(創3)、薬学概論(創1分担)、キャリアデザイン(創1分担)、創薬科学演習(創3分担)、基礎薬科学実習(1分担)、有機・生薬学実習(医2分担、創2分担)

所属学会：日本薬学会、有機合成化学協会、プロセス化学会、アメリカ化学会、国際複素環化学会、ヨウ素学会

講師・中村 光・博士(薬学)

Akira Nakamura

担当科目：基礎ゼミ(1)、基礎薬科学実習(医1、創1分担)、有機化学・生薬学実習(医2分担・創2分担)、基礎化学英語(創2)、合成化学(医3)メディシナルケミストリー(創3)

所属学会：日本薬学会、有機合成化学協会、プロセス化学会、ヨウ素学会

助教・松岡 純平・博士(薬学)

Junpei Matsuoka

担当科目：基礎ゼミ(1)、基礎薬科学実習(医1、創1分担)、有機化学・生薬学実習(医2分担・創2分担)

所属学会：日本薬学会、有機合成化学協会、プロセス化学会

現在行われている主な研究テーマ

1. メチレンアセタールの新規変換法の開発
2. 超原子価ヨウ素試薬を用いた転位反応
3. ハロゲン化合物の新規合成法の開発
4. 新しい保護基の開発
5. インドール誘導体合成法の開発
6. テトラゾール誘導体合成法の開発
7. イソオキサゾール誘導体合成法の開発
8. ベンゾフラン誘導体合成法の開発
9. ヘミチオインディゴ類合成法の開発
10. アルカリ金属と環状エーテルを用いたアミド活性化法の開発

研究業績

[原著論文]

1. Yamamoto Y, Baba H, Toriyama M, Matsuoka J, Miyawaki A, Tomioka K : Regioselective Synthesis of 3,4-Disubstituted Isoxazoles by Using a Chalcone-Rearrangement Strategy
Tetrahedron, **151**, 133788, 2024年1月
2. Matsuoka J, Yano Y, Hirose Y, Mashiba K, Sawada N, Nakamura A, Maegawa T : Elemental Sulfur-mediated Aromatic Halogenation
J. Org. Chem., **89**, 770-777, 2023年12月

3. Nakamura A, Morimoto J, Taniguchi M, Aoyama H, He J, Maegawa T : *n*-Bu₄Ni/H₂O₂-catalyzed Mild Conversion of Hydroxamic Acids to Carboxylic Acids
Tetrahedron Lett, **126**, 154656, 2023 年 8 月

[学会・シンポジウム]

1. 中村 光、亀井結斗、東 祐輔、松岡純平、前川智弘: アミノ酸誘導体を配位子とするボロン酸触媒による N-アシルイミニウムイオンの aza-Friedel-Crafts 反応の開発
日本薬学会第 144 年会 (横浜)、2024 年 3 月 30 日
2. Seiya Higashioka, Yugo Kotera, Akira Nakamura, Junpei Matsuoka, Shinya Nakamura, Isao Nakanishi, Tomohiro Maegawa: Development of New p-Methoxybenzyl (PMB)-type Protective Group
The 15th International Kyoto Conference on New Aspects of Organic Chemistry (IKCOC-15)
(Kyoto)、2023 年 11 月 22 日
3. Shin-ichiro Ohira, Fei Rao, Mio Kashiwagi, Junpei Matsuoka, Akira Nakamura, Tomohiro Maegawa: A Concise Synthesis of Thio- and Seleno-aurones via NBS-induced Cyclization of MOM-protected 2'-Chalcogenochalcones
The 15th International Kyoto Conference on New Aspects of Organic Chemistry (IKCOC-15)
(Kyoto)、2023 年 11 月 22 日
4. Haruka Aoyama, Jyunya Morimoto, Maho Taniguchi, Junpei Matsuoka, Akira Nakamura, Tomohiro Maegawa: *n*-Bu₄Ni/H₂O₂-catalyzed Hydrolysis of Hydroxamic Acids
The 15th International Kyoto Conference on New Aspects of Organic Chemistry (IKCOC-15)
(Kyoto)、2023 年 11 月 22 日
5. 前川智弘、廣瀬優香、矢野結菜、野方美沙、松岡純平、中村 光: 硫黄化合物による N-halosuccinimide の活性化—電子密度の低い芳香環のハロゲン化反応—
第 49 回反応と合成の進歩シンポジウム (岐阜)、2023 年 11 月 6 日
6. 松岡純平、矢野結菜、澤田菜々子、真柴考志、中村 光、前川智弘: Elemental sulfur による N-ハロスクシンイミドの活性化を利用した芳香族ハロゲン化反応の開発
第 49 回反応と合成の進歩シンポジウム (岐阜)、2023 年 11 月 6 日
7. 中村 光、林 真由、中谷彩乃、松岡純平、前川智弘: NaOCl · 5H₂O 結晶を用いた N-S 結合形成による benzisothiazolinone 類の合成研究
第 73 回日本薬学会関西支部大会 (兵庫)、2023 年 10 月 14 日
8. 中村 光、林 真由、中谷彩乃、松岡純平、前川智弘: 次亜塩素酸ナトリウム後水和物を利用したイソチアゾリノン環の合成研究
第 52 回複素環化学討論会 (宮城)、2023 年 10 月 13 日
9. 中村 光、大平慎一郎、饒 非、本若恭詩、柏木美緒、松岡純平、前川智弘: MOM 保護メルカプト基を利用した含硫黄複素環合成法の開発 Hemithioindigo 類および BTBT の合成
日本プロセス化学会 2023 サマーシンポジウム (東京)、2023 年 8 月 4 日

[外部助成]

前川智弘(代表): 単体硫黄を活性化剤として用いるハロゲン化反応の開発と新規ラジカル反応への展開

令和 5 年～令和 8 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C)

松岡純平(代表): ポルフィリン-ジヒドロニコチンアミド共役型光レドックス触媒の開発

令和 3 年～令和 5 年度 文部科学省科学研究費補助金 若手研究

[教育・社会活動]

1. 前川智弘: 薬学教育協議会有機化学系教科担当教員会議委員
2014年4月～現在
2. 前川智弘: 日本薬学会化学系薬学部会役員
2023年4月～現在
3. 前川智弘: 日本薬学会代議員
2023年4月～現在
4. 前川智弘: 日本薬学会関西支部委員
2023年4月～現在

創薬分子設計学研究室

職・氏名・学位

教授・仲西 功・博士(薬学)

Isao Nakanishi

担当科目：基礎ゼミ(1)、薬学概論(創1分担)、情報科学実習(1分担)、オープンラボ1(創1分担)、新創薬科学研究コース2(創2分担)、物理化学(創2)、物理化学(医2)、医薬品物性・製剤学実習(医2分担)、創薬物理化学(創2)、キャリアデザインI(創2分担)、インターンシップ(創3分担)、物理学実習(3)、創薬インフォマティクス演習(創3分担)、化粧品学(創3分担)、総合演習1(医4分担)、医薬品開発産学連携講座(創4)、総合薬学演習(医6分担)、総合演習2(医6分担)、治験(医6分担)

所属学会：日本薬学会、日本薬学会構造活性相関部会、日本薬学会医薬化学部会、情報計算化学生物学会、日本ケミカルバイオロジー学会

講師・西脇 敬二・博士(薬学)

Keiji Nishiwaki

担当科目：基礎ゼミ(1)、基礎化学(創1分担)、化学入門(創1分担)、化学熱力学(創1)、化学演習(創1分担)、オープンラボ1(創1)、新創薬科学研究コース2(創2)、医薬品物性・製剤学実習(医2分担)、創薬インフォマティクス演習(創2分担)、構造活性相関(創3分担)、総合演習1(医4分担)、総合薬学演習2(医6)、総合演習2(医6)

所属学会：日本薬学会、日本薬学会医薬化学部会、日本薬学会構造活性相関部会、アメリカ化学会、日本化学会、有機合成化学協会

講師・中村 真也・博士(薬学)

Shinya Nakamura

担当科目：基礎ゼミ(1)、基礎物理化学(医1)、情報科学実習(1分担)、医薬品物性・製剤学実習(医2分担)、情報科学(創2分担)、創薬科学実習3(創3分担)、構造活性相関(創3分担)

所属学会：日本薬学会、日本薬学会構造活性相関部会、日本化学会情報化学部会、情報計算化学生物学会

現在行われている主な研究テーマ

1. 新規 Protein kinase CK2 阻害剤の創出研究
2. 新規 α -Glucosidase 阻害剤の創出研究
3. β -Cyclodextrin とバルビタール類との包接化合物の構造解析・熱力学的研究
4. Solvent dipole ordering virtual screening 法の改良研究
5. Fragment Molecular Orbital 法を用いたリガンド結合エネルギーの計算法の改良研究
6. MM-PBSA 法を用いたリガンドの活性予測法の改良研究
7. ドッキング計算と分子動力学法を用いたリガンド結合様式の予測法の開発研究

研究業績

[原著論文]

1. Akaki T, Nakamura S, Nishiwaki K, Nakanishi I : Fragment Molecular Orbital Based Affinity Prediction toward Pyruvate Dehydrogenase Kinases: Insights into the Charge Transfer in Hydrogen Bond Networks.
Chemical and Pharmaceutical Bulletin, **71**, 299-306, 2023 年 4 月
2. Nishiwaki K, Morikawa Y, Suzuki S, Shiomi K, Nakanishi I : Spectral and Theoretical Analysis of Derivatives of 1,2,3,3-Tetramethyl-3H-indolium iodide (TMI), a Highly Selective Derivatization Reagent of Cyanide, and Their Utility for the Analysis of Cyanide Concentrations in Beverages.
Analytical Sciences, **39**, 1763-1770, 2023 年 6 月
3. Sato M, Matsuo K, Susami Y, Yamashita A, Hayasaka H, Hara Y, Nishiwaki K, Oiso N, Kawada A, Otsuka A, Nakayama T : A CCR4 Antagonist Attenuates Atopic Dermatitis-like Skin Inflammation by Inhibiting the Recruitment and Expansion of Th2 Cells and Th17 Cells.
International Immunology, **35**, 437-446, 2023 年 6 月
4. Nishiwaki K, Nakamura S, Yoshioka K, Nakagawa E, Nakatani S, Tsuyuguchi M, Kinoshita T, Nakanishi I : Design, Synthesis and Structure–Activity Relationship Studies of Protein Kinase CK2 Inhibitors Containing a Purine Scaffold.
Chemical and Pharmaceutical Bulletin, **71**, 558-565, 2023 年 7 月
5. Ogata F, Sugimura K, Nagai N, Saenjum C, Nishiwaki K, Kawasaki N : Adsorption Efficiency of Crystal Violet from the Aqueous Phase onto a Carbonaceous Material Prepared from Waste Cotton and Polyester.
RSC Sustainability, **2**, 179-186, 2023 年 12 月
6. Takashima K., Nakamura S., Nagayama M., Marumoto S, Ishikawa F., Xie W., Nakanishi I., Muraoka O., Morikawa T., Tanabe G : Role of the Thiosugar Ring in the Inhibitory Activity of Salacinol, a Potent Natural α -Glucosidase Inhibitor.
RSC Advances, **14**, 4471-4481, 2024 年 1 月
7. Nishiwaki K, Nakatani S, Nakamura S, Yoshioka K, Nakagawa E, Tsuyuguchi M, Kinoshita T, Nakanishi I : Enhanced Inhibitory Activity of Compounds Containing Purine Scaffolds Compared to Protein Kinase CK2 α Considering Crystalline Water.
RSC Medicinal Chemistry, **15**, 1274-1282, 2024 年 2 月

[総説]

1. Ishikawa F, Nakamura S, Nakanishi I, Tanabe G : Recent progress in the reprogramming of nonribosomal peptide synthetases.
J. Pept. Sci., 2023, e3545, 2023 年 9 月

[著書]

1. 中村真也、仲西 功 : タンパク質の構造解析手法と In silico スクリーニングへの応用事例
pp.353-359、技術情報協会 2023 年 7 月

[学会・シンポジウム]

1. 西脇敬二、中谷汐里、中村真也、吉岡賢司、中川愛理、露口正人、木下誉富、仲西功: プロテインキナーゼ CK2 α の結晶水を考慮した阻害剤の設計と合成および活性評価
第 40 回メディシナルケミストリーシンポジウム、名古屋、2023 年 11 月 13 日 (ポスター)
2. 中村真也、赤木辰央、西脇敬二、中谷 翠、川瀬裕二、高橋悠希、仲西 功: 相互作用を効率よく FMO 法で算出するための最適な切り出しモデルの検討
第 51 回構造活性相関シンポジウム、東京、2023 年 11 月 20 日 (ポスター)
3. 石川文洋、正林直人、秋永修佑、中村真也、仲西 功、田邊元三: 原核生物のタンパク質分解酵素 ClpP の誤作動を誘起するアシルデブシペプチドの構造活性相関研究
第 51 回構造活性相関シンポジウム、東京、2023 年 11 月 21 日
4. 森川泰裕、西脇敬二、仲西 功、荒木直樹、八坂直幸、塩見和孝、岡田悠登: 薬毒物試験法と注解改訂に向けた検討 – II-2 シアン化物・アジ化物試験法 (2・2 シアン化物) の改訂 (新規試験法: ガスクロマトグラフィー/質量分析)
日本薬学会第 144 年会 (横浜)、2024 年 3 月 30 日 (ポスター)
5. 西脇敬二、森川泰裕: 新規 Cu²⁺ イオン蛍光プローブの開発
日本薬学会第 144 年会 (横浜)、2024 年 3 月 31 日 (ポスター)
6. 中谷汐里、中川愛理、吉岡賢司、西脇敬二、中村真也、露口正人、木下誉富、仲西 功: Protein kinase CK2 阻害活性を有するプリン誘導体の構造活性相関研究 – プリン環 2 位への種々の飽和炭化水素置換基の導入 –
日本薬学会第 144 年会 (横浜)、2024 年 3 月 31 日 (口頭)

[教育・社会活動]

1. 仲西 功: 第 108 回薬剤師国家試験問題検討委員会「物理・化学・生物」部会 委員
オンライン 2023 年 5 月 13 日
2. 仲西 功: バイオインフォマティクス講義 「インシリコ技術を活用したシード化合物探索」
名古屋市立大学薬学部 (名古屋) 2023 年 12 月 4 日
3. 仲西 功: 薬学教育支援システム 国試教材 (第 108 回薬剤師国家試験問題 (物理化学分野) 解説作成)
エスエイティーティー株式会社 2023 年 4 月
4. 仲西 功: 日本薬学会 構造活性相関部会 常任幹事
～2024 年 3 月
5. 仲西 功: 奈良県立奈良高等学校 SSH 運営委員
～2024 年 3 月
6. 仲西 功: FMO 創薬コンソーシアム アドバイザー
～2024 年 3 月
7. 中村真也: ケモインフォマティクス若手の会 コアメンバー
～2024 年 3 月
8. 中村真也: 科学技術・学術政策研究所 (NISTEP) 専門調査員
～2024 年 3 月

分子医療・ゲノム創薬学研究室

職・氏名・学位

教 授・杉浦 麗子・博
士 (医学)
Sugiura Reiko

担当科目：基礎ゼミ(1)、薬学概論(創1 分担)、オープンラボ 1(創1 分担)、オープンラボ 2 (創 2 分担)、分子ゲノム薬科学(医 2 分担)、バイオ・ゲノム薬科学(創 2 分担)、ゲノム創薬と再生医療 (創 2 分担)、免疫・分子生物学実習(医 2 分担)、創薬科学実習 2(創 2 分担)、先端ゲノム医療 (医 3 分担)、グローバル創薬科学演習(創 3 分担)、創薬プレゼン実践演習初級(創 3 分担)、専門科学英語演習(創 4 分担)、創薬プレゼン実践演習上級(創 4 分担)、実践科学英語演習 (創 4 分担)、総合演習 2 (医 6 分担)

所属学会：日本薬学会、日本薬理学会、日本生化学会、日本分子生物学会、日本癌学会、酵母遺伝学フォーラム、日本 RNA 学会、日本プロテインホスファターゼ研究会、日本がん分子標的治療学会

講 師・高崎 輝恒・博士
(理学)
Takasaki Teruaki

担当科目：基礎ゼミ(1)、生物学演習(創1 分担)、オープンラボ 1(創 1 分担)、基礎生物学(1 分担)、生物学入門(1 分担)、分子ゲノム薬科学(医 2 分担)、バイオ・ゲノム薬科学(創 2 分担)、オープンラボ 2 (創 2 分担)、免疫・分子生物学実習(医 2 分担)、創薬科学実習 2(創 2 分担)、専門科学英語演習(創 4 分担)、創薬プレゼン実践演習初級(創 3 分担)、グローバル創薬科学演習(創 3 分担)、創薬プレゼン実践演習上級(創 4 分担)、総合薬学演習 (医 6 分担)

所属学会：日本薬学会、日本分子生物学会、酵母遺伝学フォーラム、日本プロテインホスファターゼ研究会

講 師・佐藤 亮介・博
士 (薬学)
Satoh Ryosuke

担当科目：基礎ゼミ(1)、オープンラボ 1(創 1 分担)、ゲノム創薬と再生医療 (創 2 分担)、オープンラボ 2 (創 2 分担)、創薬プレゼン実践演習初級(創 3 分担)、先端ゲノム医療 (医 3 分担)、グローバル創薬科学演習(創 3 分担)、専門科学英語演習(創 4 分担)、創薬プレゼン実践演習上級(創 4 分担)、総合演習 1 (医 4 分担)、総合演習 2 (医 6 分担)

所属学会：日本薬学会、日本薬理学会、日本生化学会、酵母遺伝学フォーラム、日本分子生物学会、日本 RNA 学会、日本プロテインホスファターゼ研究会

現在行われている主な研究テーマ

1. ゲノム薬理学の手法を用いた MAP キナーゼシグナル制御因子の同定とがん化のメカニズムの解明
2. がん化シグナルを活性化させることによるがん細胞選択的細胞死誘導法の開発
3. がん細胞の酸化ストレス脆弱性を標的としたがん治療戦略の開発
4. MAPK シグナルと mRNA 結合タンパク質制御の関わり
5. ケミカルバイオロジーの手法を用いた抗がん薬探索と革新的抗がん剤開発
6. 免疫抑制薬 FTY720 の抗腫瘍活性発現に関わる細胞内シグナル伝達機構の解析
7. 癌や中枢神経疾患の病態に関わる細胞内凝集体調節機構の解明
8. 細胞内輸送システムのゲノム薬理学的研究

研究業績

[原著論文]

1. Takasaki T, Hamabe Y, Touchi K, Khandakar GI, Ueda T, Okada H, Sakai K, Nishio K, Tanabe G, Sugiura R : ACA-28, an ERK MAPK Signaling Modulator, Exerts Anticancer Activity through ROS Induction in Melanoma and Pancreatic Cancer Cells.
Oxidative medicine and cellular longevity., 7683793-7683793, 2024 年 3 月
2. Takasaki T, Obana R, Fujiwara D, Tomimoto N, Khandakar GI, Satoh R, Sugiura R : ACA-28, an Anticancer Compound, Induces Pap1 Nuclear Accumulation via ROS-dependent and -Independent Mechanisms in Fission Yeast
microPublication Biology., 2023 年 8 月
3. Takasaki T, Utsumi R, Shimada E, Bamba A, Hagihara K, Satoh R, Sugiura R : Atg1, a Key Regulator of Autophagy, Functions to Promote MAPK Activation and Cell Death upon Calcium Overload in Fission Yeast.
Microbial cell (Graz, Austria)., **10**(6) 133-140, 2023 年 5 月

[総説]

1. Sugiura R, Satoh R, Tomimoto N, Takasaki T : Phase Separation Orchestrates Cancer Signaling: Stress Granules as a Promising Target for Cancer Therapy
pp209-252, Springer Singapore, 2023 年 9 月

[学会・シンポジウム]

1. 田中達也、佐藤亮介、高崎輝恒、杉浦麗子: Role of DNA damage response protein BRAT1 in the mechanisms of cell death induced by a novel anticancer compound ACAGT-007a
第 97 回 日本薬理学会年会 (神戸・口頭)、2023 年 12 月 14 日
2. 田中達也、佐藤亮介、高崎輝恒、杉浦麗子、杉浦麗子: 新規抗がん剤候補化合物 ACAGT-007a による ROS を介した細胞死誘導における DNA 損傷応答タンパク質 BRAT1 の役割
第 46 回日本分子生物学会年会 (神戸・ポスター)、2023 年 12 月 6 日
3. 吉田展康、川崎有紀、原 信樹、佐藤亮介、高崎輝恒、杉浦麗子: RNA 結合タンパク Rnc1 のストレス顆粒移行とリン酸化の関係
第 46 回日本分子生物学会年会 (神戸・ポスター)、2023 年 12 月 6 日
4. 山田 南、杉本恵崇、黒崎 亮、高崎輝恒、佐藤亮介、杉浦麗子: バルプロ酸による α -シヌクレインの毒性と凝集体形成への影響~ α -シヌクレインと細胞内輸送機構・糖鎖修飾の関わり~
第 46 回日本分子生物学会年会 (神戸・ポスター)、2023 年 12 月 6 日
5. 壽 美月、富本尚史、高崎輝恒、佐藤亮介、杉浦麗子: 熱ストレス応答タンパク質 Hsp90 は酸化ストレス条件下で凝集体を形成する —Hsp90 と MAPK シグナル伝達経路の機能的関わりへの解明に向けて—
第 73 回薬学会関西支部総会・大会 (神戸・口頭)、2023 年 10 月 14 日
6. 田中達也、佐藤亮介、高崎輝恒、杉浦麗子: 新規抗がん剤候補化合物 ACAGT-007a による細胞死誘導への BRAT1 の関与
第 73 回薬学会関西支部総会・大会 (神戸・口頭)、2023 年 10 月 14 日
7. 尾花玲緒、高崎輝恒、富本尚史、佐藤亮介、杉浦麗子: 新規抗がん剤シース ACA-28 の ERK 依存的細胞死誘導機構の解析 —CRMI 依存的核外輸送レポーターPap1 を用いた核外輸送阻害活性の評価—
第 73 回薬学会関西支部総会・大会 (神戸・口頭)、2023 年 10 月 14 日

8. 河合瑛美、高崎輝恒、上山紗依、上野七海、佐藤亮介、杉浦麗子: 抗がん剤候補化合物 ACA-28 による細胞死誘導機構と小胞体ストレス応答経路の関わり —骨肉腫由来細胞株を用いて—
第 73 回薬学会関西支部総会・大会 (神戸・口頭)、2023 年 10 月 14 日
9. 萩原加奈子、佐藤亮介、前田拓也、杉浦麗子: 免疫調節剤 FTY720 (フィンゴリモド) が分裂酵母の増殖シグナル伝達経路に与える影響
フォーラム 2023 : 衛生薬学・環境トキシコロジー (広島・口頭)、2023 年 9 月 13 日
10. Reiko Sugiura: The mechanism of α -Synuclein aggregation and toxicity revealed by the fission yeast model system ~The role of calcineurin signaling and its relevance to Parkinson's disease~
The 11th International Fission Yeast Meeting (広島・口頭)
2023 年 5 月 28 日~6 月 2 日

[外部助成]

1. 佐藤亮介(代表): RNA 相分離によるシグナル伝達スイッチを介した細胞運命制御機構
令和 5 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C)

[教育・社会活動]

1. 杉浦麗子: 日本学術振興会 科学研究費補助金審査委員
2023 年 4 月~2024 年 3 月
2. 杉浦麗子: 日本学術振興会 博士研究員審査委員
2023 年 4 月~2024 年 3 月
3. 杉浦麗子: 薬理学会 評議員
2023 年 4 月~2024 年 3 月
4. 杉浦麗子: PLoS Journal Editor
2023 年 4 月~2024 年 3 月
5. 杉浦麗子: Microbial Cell Editor
2023 年 4 月~2024 年 3 月

薬品分析学研究室

職・氏名・学位

教授・木下 充弘・博士(薬学)

Mitsuhiro Kinoshita

担当科目：基礎ゼミ(1)、分析化学 1(医・創 1 分担)、分析化学 2(医・創 2)、情報科学入門(共通 1) キャリアデザイン(創 2 分担)、医薬品物性・製剤学実習(医 2 分担)、分析化学・製剤学実習(創 2 分担)

所属学会：日本薬学会、日本分析化学会、日本糖質学会、日本生化学会

講師・山本 佐知雄・博士(薬学)

Sachio Yamamoto

担当科目：基礎ゼミ(1)、分析化学 1(医・創 1 分担)、化学演習(創 1 分担)、キャリアデザイン(創 2 分担)、医薬品物性・製剤学実習(医 2 分担)、分析化学・製剤学実習(創 2 分担)

所属学会：日本薬学会、クロマトグラフィー科学会、日本分析化学会、化学とマイクロ・ナノシステム学会

現在行われている主な研究テーマ

1. 糖タンパク質糖鎖の完全自動化解析
2. 細胞増殖シグナル依存的なタンパク質糖鎖変化の解析
3. グライコムアプローチによる糖鎖バイオマーカーの探索
4. マイクロチップ電気泳動法のための高度濃縮法の開発
5. キャピラリー電気泳動における新規分離モードと分離技術の開発
6. アフィニティーキャピラリー電気泳動を使った糖タンパク質性医薬品の品質管理

研究業績

[原著論文]

1. 山本佐知雄、矢野祥子、木下充弘、鈴木茂生：光重合性 Phos-tag 含有アクリルアミドゲルを用いるリン酸化化合物の高感度検出システムの開発

電気泳動, *in press*

2. Yamamoto S, Kato N, Wada M, Kinoshita M : A Rapid and Convenient Enzyme Digestion Method for the Analysis of *N*-Glycans using Exoglycosidase-Impregnated Polyacrylamide Gels Fabricated in an Automatic Pipette Tip

Anal. Sci., **39**, 1041-1046 2023 年 7 月

[学会・シンポジウム]

1. 山本佐知雄、鮎川立希、木下充弘: レクチン固定化アクリルアミドゲルを用いる糖鎖のアフィニティーマイクロチップ電気泳動法の開発
第 43 回キャピラリー電気泳動シンポジウム (名古屋)、2023 年 11 月
2. 山本佐知雄、鮎川立希、木下充弘: レクチン固定化アクリルアミドゲルを用いる糖鎖のアフィニティーマイクロチップ電気泳動法の開発
第 34 回クロマトグラフィー科学会議 (名古屋)、2023 年 10 月

3. 山本佐知雄、吉岡真依、鮎川立希、木下充弘: レクチン固定化アクリルアミドゲルを用いる糖鎖のアフィニティーマイクロチップ電気泳動法の開発
日本分析化学会第71年会(熊本)、2023年9月
4. 御子柴柚子、栗須理沙、山本佐知雄、木下充弘: マイクロチップ電気泳動を用いる高スループット糖鎖プロファイリング技術開発と臨床・バイオ分析への応用
第35回バイオメディカル分析科学シンポジウム(北海道)、2023年7月
5. 山本佐知雄、吉岡真依、鮎川立希、木下充弘: 多分岐流路に作製したレクチン固定化アクリルアミドゲルによる糖鎖のアフィニティーマイクロチップ電気泳動法
第35回バイオメディカル分析科学シンポジウム(北海道)、2023年7月
6. 梶本美樹、山本佐知雄、木下充弘: シアル酸結合様式特異的アミド化による糖鎖の分析能向上に関する研究
第17回近畿支部夏季セミナー(大阪)、2023年8月
7. 西村美呂琉、山本佐知雄、木下充弘: 2検出器併用による脱硫酸化ヘパリンの分析
第17回近畿支部夏季セミナー(大阪)、2023年8月
8. 清水聖也、山本佐知雄、木下充弘: Large-volume dual preconcentration by isotachopheresis and stacking—部分導入アフィニティーキャピラリー電気泳動による糖鎖の高感度構造解析
第17回近畿支部夏季セミナー(大阪)、2023年8月
9. 渡部和馬、山本佐知雄、木下充弘: プロパルギル化シリカを用いる細胞膜糖タンパク質の特異的回収
近畿支部創設70周年記念式典プレ企画学生ポスター発表(大阪)、2023年6月
10. 山本佐知雄、吉岡真依、鮎川立希、木下充弘: 多分岐マイクロチップとレクチン固定化アクリルアミドゲルを用いる糖鎖のアフィニティーマイクロチップ電気泳動法
第30回クロマトグラフィーシンポジウム(岐阜)、2023年6月

[外部助成]

1. 木下充弘: 時間軸上で変化する代謝と糖鎖の関係解明に向けた高スループット糖鎖解析システム開発
令和3~5年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)
2. 山本佐知雄: タンパク質翻訳後修飾の in situ 全自動高速解析用マイクロチップ電気泳動法
令和5~7年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)
3. 山本佐知雄(分担): 超高感度キャピラリー電気泳動技術を基盤とした次世代グライコシーケンサーの開発
令和5~8年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(B)
4. 山本佐知雄: 高速全自動マイクロチップ電気泳動システムによる糖タンパク質糖鎖を指標とした新規臨床検査法の開発
令和5年~6年度 黒住医学研究振興財団 第31回研究助成金
5. 山本佐知雄: 糖鎖解析に関する研究
令和5年~6年度 シーエステック株式会社

[教育・社会活動]

1. 木下充弘: 日本分析化学会電気泳動分析研究懇談会 委員
2017年4月～
2. 木下充弘: 医薬品医療機器総合機構 (PMDA) 生物薬品委員会委員
2020年12月～
3. 山本佐知雄: タンパク質科学会アーカイブ編集委員
2021年4月～
4. 山本佐知雄: 日本分析化学会電気泳動分析研究懇談会 委員
2019年4月～
5. 山本佐知雄: 第17回近畿支部若手夏季セミナー 実行委員長
2023年4月～
6. 山本佐知雄: 第84回分析化学討論会 実行委員
2023年4月～
7. 山本佐知雄: 日本分析化学会近畿支部 常任幹事
2020年4月～
8. 山本佐知雄: クロマトグラフィー科学会 評議員
2022年1月～

薬用資源学研究室

職・氏名・学位

教授・遠藤 雄一・博士(薬学)
Yuichi Endo

担当科目：基礎ゼミ(1)、薬用資源学(1 分担)、薬学概論(創1 分担)、基礎薬科学実習(1 分担)、キャリアデザイン(創2 分担)、医薬品開発論(創2 分担)、有機化学・生薬学実習(2 分担)、漢方薬学(3)、インターンシップ(創3 分担)

所属学会：日本薬学会、日本生薬学会、和漢医薬学会、日本東洋医学会、薬用植物栽培研究会、日本癌学会

准教授・村田 和也・博士(農学)
Kazuya Murata

担当科目：基礎ゼミ(1)、基礎薬科学実習(1 分担)、天然物薬化学(2)、医薬品開発論(創2 分担)、有機化学・生薬学実習(2 分担)

所属学会：日本薬学会、日本化学会、日本生薬学会、アメリカ化学会、日本農芸化学会

講師・高浦 佳代子・博士(薬学)
Kayoko Takaura

担当科目：基礎ゼミ(1)、薬用資源学(1 分担)、基礎薬科学実習(1 分担)、有機化学・生薬学実習(2 分担)、グローバル創薬科学演習(創3 分担)

所属学会：日本薬学会、日本生薬学会、和漢医薬学会、日本東洋医学会、薬用植物栽培研究会、日本薬史学会、文化財保存修復学会、国際園芸学会

現在行われている主な研究テーマ

1. 未利用農産資源からの機能性素材開発
2. 薬用人参、インド産薬用植物の機能性探索
3. 独居性カリバチ毒液成分の構造解析
4. 柿蒂の品質研究
5. 芍薬の品質研究
6. 漢方処方における生薬配合意義の化学的解明

研究業績

[原著論文]

1. 伊藤仁久、大西雄己、三澤 紅、藤阪芽以、友廣教道、松川哲也、遠藤雄一、梶山慎一郎、重岡成：精油 30 種の終末糖化産物 (AGEs) 産生抑制およびチロシナーゼ阻害効果
アロマセラピー学雑誌, **24**(2), 14-20, 2023 年 7 月
2. 高橋京子、高浦(島田)佳代子、矢野孝喜、川嶋浩樹、吉越 恆、福田浩三：芍薬(PAEONIAE RADIX)の篤農技術検証：伝統的加工環境の数値化
日東医誌, **74**(2), 188-205, 2023 年 4 月

[著書]

1. 村田和也: コンパス天然物化学、永津明人・森永紀編
pp. 127-152、南江堂 2023年12月
2. 高浦佳代子: 緒方洪庵全集第三巻(中) 著作(その三)、適塾記念会緒方洪庵全集編集委員会編
pp. 730-749, 754-760、大阪大学出版会 2024年3月

[その他の刊行物]

1. 高浦佳代子: 黒焼の話
2024年3月 薬史レター92号

[学会・シンポジウム]

1. YAN SHIYUAN、深川昌美、和田佑哉、高浦佳代子、遠藤雄一: 漢方処方における生薬配合意義の化学的解明(1): 多変量解析による麻黄湯配合生薬の相互作用検証
第40回和漢医薬学会学術大会(富山)、2023年8月26日
2. 盛大翔、高浦佳代子、佐藤希美、福田浩三、遠藤雄一: 当帰の香気成分プロファイルの産地特性に関する研究
第73回日本薬学会関西支部総会(神戸)、2023年10月14日
3. 村井亮祐、村田和也、遠藤雄一: オオモンツチバチ毒液中に含有する新規ペプチド成分のアミノ酸配列解析
第73回日本薬学会関西支部総会(神戸)、2023年10月14日
4. 吉富文治、出口粧央里、大竹祐子、遠藤雄一、小竹武、長井紀章: 麻黄附子細辛湯懸濁時に生じる分散系の評価—主要成分含有量の分布とその小腸膜透過性—
第73回日本薬学会関西支部総会(神戸)、2023年10月14日
5. 高浦(島田)佳代子、高橋京子、遠藤雄一: 緒方洪庵著「適々齋薬室膠柱方」の写本間比較とその意義・特徴
日本薬史学会2023年会(岡山)、2023年10月28日
6. Kazuya Murata, Yuichi Endo: Synthetic study of photo-affinity derivative of pectenotoxin
International Symposium in Okinawa, 2023, on Ciguatera and Related Marine Biotoxins、2023年11月13日
7. 大野莉穂、高浦佳代子、神崎真哉、遠藤雄一: SSR マーカーを用いた柿蒂(KAKI CALYX)市場品の遺伝的解析: 同一ロット内での比較
日本薬学会第144年会(横浜)、2024年3月29日
8. 佐藤希美、高浦(島田)佳代子、前川歩、松村晋一、福田浩三、矢野孝喜、川嶋浩樹、高橋京子、遠藤雄一: SPME-GC/MS法を用いた芍薬の揮発成分分析と品種間比較
日本薬学会第144年会(横浜)、2024年3月29日
9. 村田和也、垂水琴葉、河村友一、遠藤雄一: スズバチ (*Oreumenes decoratus*) 毒液に含まれる decoralin-2 の抗菌作用に関する研究
日本薬学会第144年会(横浜)、2024年3月30日
10. 出口貴浩、井崎隆斗、石田裕美、森澤義人、遠藤雄一: ハッサク果実含有フラボノイドと L-ascorbic acid 併用によるラジカル捕捉作用の併用効果
日本薬学会第144年会(横浜)、2024年3月31日
11. 長井紀章、吉富文治、北庄司椋平、大竹裕子、遠藤雄一、小竹武: 麻黄附子細辛湯懸濁液中における粗大・コロイド・分子分散体の同定とその小腸膜透過性の評価。
日本薬学会第144年会(横浜)、2024年3月31日

[外部助成]

1. 遠藤雄一(代表): 民間企業からの受託研究 3 件、寄附研究 1 件
2. 高浦佳代子(代表): 実験薬史学的手法と新規非破壊分析法による蘭方医薬学の実態解明
令和 5 年度 文部科学省科学研究費補助金 挑戦的研究(萌芽)
3. 高浦佳代子(代表): The exploration of the suites of crude drug specimens collected around early 20th century reflecting the region specific 'medicinal culture'.
International Society for the Hisotry of Pharmacy Research Grant 2023/24

[報償等]

1. 高浦佳代子: 日本薬史学会 2023 年会 優秀発表賞
日本薬史学会 2023 年会 (岡山) 2023 年 10 月 28 日

[教育・社会活動]

1. 遠藤雄一: 薬学教育協議会生薬学・天然物化学関連教科担当教員
2023 年 4 月～2024 年 3 月
2. 遠藤雄一: 日本生薬学会漢方薬・生薬認定薬剤師研修委員会委員
2023 年 4 月～2024 年 3 月
3. 遠藤雄一: 日本薬学会関西支部委員
2023 年 4 月～2024 年 3 月
4. 遠藤雄一: 日本私立薬科大学協会学生部長会委員
2023 年 4 月～2024 年 3 月
5. 遠藤雄一: 近畿大学薬学部薬用植物園園長
2023 年 4 月～2024 年 3 月
6. 遠藤雄一: 株式会社ア・ファーマ近大取締役
2023 年 4 月～2024 年 3 月
7. 遠藤雄一: 令和 5 年度第 67 回農業実験実習講習会講義「薬用資源としての果物」
2023 年 7 月 26 日
8. 遠藤雄一: 第 1 回全国夢健研究会全国大会講演「サンシチニンジンの研究に携わって」
2023 年 10 月 8 日
9. 遠藤雄一: 大阪府薬剤師会漢方研修会講演「漢方薬の副作用と服薬指導」
2024 年 2 月 3 日
10. 村田和也: 日本生薬学会関西支部委員
2023 年 4 月～2024 年 3 月
11. 村田和也: 生薬分析シンポジウム事務局
2023 年 9 月～2024 年 8 月
12. 高浦佳代子: 日本薬史学会企画委員
2023 年 4 月～2024 年 3 月
13. 高浦佳代子: 日本東洋医学会生薬原料委員
2023 年 4 月～2024 年 3 月

14. 高浦佳代子: 大阪大学適塾記念センター招へい教員
2023年4月～2024年3月
15. 遠藤雄一、村田和也、高浦佳代子: 日本薬学会第70回年会実行委員
2023年12月～
16. 遠藤雄一、高浦佳代子: 近畿大学アカデミックシアターACTプロジェクト「生薬の図書館プロジェクト」
2023年4月～2024年3月

機能性植物工学研究室

職・氏名・学位

教授・角谷晃司・農学博士 担当科目：基礎ゼミ(1)、基礎生物学英語(医1)、創薬科学
Koji Kakutani 実習2(創2分担)、細胞生物学((医2、創2)、生命の科学
(KICS オンデマンド)

所属学会：日本薬学会、日本生薬学会、日本植物細胞分子生物学会、日本農芸化学学会、
薬用植物栽培研究会

講師・中村恭子・生命科学 担当科目：基礎ゼミ(1)、生命の科学 (KICS オンデマンド)
博士

Kyoko Nakamura

所属学会：日本分子生物学会、日本糖尿病学会、日本薬理学会、高血圧関連疾患モデル
学会、日本生薬学会

現在行われている主な研究テーマ

1. 薬用植物の優良系統の大量増殖に関する研究
2. アンチエイジング作用を有する機能性成分の開発研究
3. 国内虫草菌の培養と有効成分の探索に関する研究
4. 静電場スクリーンを用いた花粉およびウイルス粒子捕捉効果に関する研究
5. 植物廃棄物の利活用に関する研究

研究業績

[原著論文]

1. Matsuda Y, Kakutani K, Toyoda H : A Simple Electrostatic Apparatus for Controlling Weeds on Slopes without Causing Soil Erosion.
American Journal of Civil Engineering and Architecture, **12**(1) 1-7, 2024年1月4日
2. Kakutani K, Matsuda Y, Takikawa Y., Toyoda H : Electrostatic Strategies in Public Health: Current Uses and Future Innovations for Controlling Biological and Environmental Threat.
American Journal of Public Health Research, **11**(6) 211-218, 2023年12月5日
3. Matsuda Y, Kakutani K, Toyoda H : Unattended Electric Weeder (UEW) : A Novel Approach to Control Floor Weeds in Orchard Nurseries
Agronomy **13**(7) 1954-1954, 2023年7月24日
4. Kimura Y, Németh MZ, Numano K, Mitao A, Shirakawa T, Seress D, Takikawa Y, Kakutani K., Matsuda Y, Kiss L : Hyperparasitic Fungi against Melon Powdery Mildew Pathogens: Quantitative Analysis of Conidia Released from Single Colonies of *Podosphaera xanthii* Parasitised by *Ampelomyces*
Agronomy **13**(5) 1204-1204, 2023年4月24日
5. Kakutani K, Matsuda Y, Toyoda H : A Simple and Safe Electrostatic Method for Managing Houseflies Emerging from Underground Pupae
Agronomy **13**(2) 310-310, 2023年1月

[学会・シンポジウム]

1. 角谷晃司、松田克礼、野々村照雄、瀧川義浩、豊田秀吉: 浮遊ウイルス粒子を捕捉する水電極型静電集塵機の開発
日本農芸化学会 2023 年度大会 (オンライン) 3 月
2. 角谷晃司、仲下英輝、森川敏生、川村展之、新居慶二、杉本一郎: 日本アカネの組織培養による繁殖技術と DNA 鑑定による分子系統解析
日本植物園協会第 58 回大会 (高知) 5 月
3. 角谷晃司、宮本将行、神保有亮: トマチジンがヒト骨格筋筋芽細胞に与える影響
第 69 回日本生薬学会年会 (宮城) 9 月
4. 中垣内美里、走 優名、角谷晃司: サフラン花弁抽出物の抗糖化作用
日本農芸化学学会 2024 年度大会 (東京) 3 月
5. 窪田愛華、西光由真、赤井美帆、神保有亮、角谷晃司: リコテトラオースリコテトラオース処理における正常ヒト皮膚線維芽細胞の遺伝子発現の解析
日本農芸化学学会 2024 年度大会 (東京) 3 月
6. 角谷晃司: 「サフランの魅力」～薬用・食用・染料への利用～
第 17 回薬用植物園見学会 2023 年 9 月

[研究報告書]

1. 角谷晃司(代表): 『金賞健康米』のアンチエイジング弁当への活用と体質改善調査 (一般社団法人機能性健康米協会 研究助成金)

[外部助成]

1. 角谷晃司(代表): トマト茎葉廃棄物の利活用に関する研究
クレハ
2. 角谷晃司(代表): 高付加価値植物の組織培養生産技術の確立による新たな有用物質の探索
ファルマクリエ神戸
3. 角谷晃司(代表): 日本茜の栽培に関する生産効率向上と染色用途での確保と高度化に関する研究
日本茜再生機構
4. 角谷晃司(代表): 『金賞健康米』のアンチエイジング弁当への活用と体質改善調査
一般社団法人 機能性健康米協会
5. 中村恭子(代表): 食餌の性状が糖尿病発症に及ぼす影響
平成 30 年度～令和 5 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C)

6. 中村恭子(代表): 高血糖状態が新型コロナウイルス感染に及ぼす影響

令和4年度～令和6年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C)

[特許]

1. 微小粒子状物質補足装置 (特許第 7146186 号)

学校法人近畿大学、地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所、アース環境サービス株式会社、株式会社園田製作所

2. α -トマチンの製造方法 (特願 2021-098718)

学校法人近畿大学、株式会社クレハ環境、株式会社クレハ (2021年6月10日出願)

3. 空気処理装置及びその処理方法捕捉装置 (特願 2021-195456)

学校法人近畿大学、地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所、株式会社園田製作所、トワロン株式会社 (2021年12月1日出願)

[教育・社会活動]

1. 静電場スクリーン研究会 幹事

2016年4月～

2. アンエイジングセンター 副センター長

2023年4月～

3. ACT プロジェクト (日本茜魅力発見プロジェクト)

2023年4月～

食品薬学研究室

職・氏名・学位

教授・森川 敏生・博士(薬学) 担当科目：基礎ゼミ(1)、分析化学 3(医 2 分担)、分析化学 3(創 2)、食品薬学(創 3)、基礎薬科学実習(1 分担)、有機化学・生薬学実習(2 分担)
Toshio Morikawa

所属学会：日本薬学会、日本生薬学会、和漢医薬学会、有機合成化学協会、日本農芸化学会、日本栄養・食糧学会、日本油化学学会、日本薬史学会、アメリカ化学会、アジア植物化学協会、日本食品化学学会、日本女性医学学会、日本抗加齢医学会、日本香粧品学会、日本杜仲研究会、セラミド研究会、天然香気研究会

講師・萬瀬 貴昭・博士(薬学) 担当科目：基礎ゼミ(1)、化学英語(医 2 分担)、基礎薬科学実習(1 分担)、有機化学・生薬学実習(2 分担)
Yoshiaki Manse

所属学会：日本薬学会、日本生薬学会、和漢医薬学会、日本栄養・食糧学会、日本香粧品学会

現在行われている主な研究テーマ

1. 世界各地の伝統・伝承薬物の伝承薬効の科学的解明および新規機能開拓
2. 機能性食品素材からの生物活性成分の探索研究
3. 補完代替医療素材の科学的評価とその機能性成分をシーズとする食品薬学研究
4. 天然由来化合物の作用メカニズムおよび構造活性相関の解明と分子プローブの創製

研究業績

[原著論文]

1. Matsuda H, Nagatomo A, Hatakeyama M, Manse Y, Yoshikawa M, Morikawa T : Suppressive Effects of *Bombycis Feces* (bombyx feces) and *Bombyx Batryticatus* (stiff silkworm) Extracts on Blood Glucose Level Elevation in Disaccharides-loaded Rats
Tradit. Kampo Med., **10**, 132–141, 2023 年 3 月
2. 山口朋子、羅 鳳琳、橋本統星、赤木淳二、萬瀬貴昭、二宮清文、森川敏生：肥満症に用いられる 3 種の漢方薬の女性ホルモン様作用と脂肪蓄積抑制効果
診療と新薬, **60**, 179–187, 2023 年 3 月
3. Sakamoto Y, Inoue N, Nakanishi Y, Ninomiya K, Yoshikawa M, Muraoka O, Manse Y, Morikawa T : Hepatoprotective Principles from the Rhizomes of *Picrorhiza kurroa*
Biol. Pharm. Bull., **46**, 848–855, 2023 年 6 月
4. Shimoda H, Takeda S, Miyasaka K, Yoneda A, Manse Y, Morikawa T : Diverse Effects of Single Molecules of Rice-derived Functional Lipids, Glucosylceramides, Ceramides, and β -Sitosterol Glucoside, on Epidermal and Lung Functions
Glycative Stress Res., **10**, 94–109, 2023 年 9 月
5. Takashima K, Asai A, Ashidate M, Suzuki R, Marumoto S, Ishikawa F, Morikawa T, Tanabe G : Total Synthesis of Calanthoside, a Potential Hair Growth Stimulant: a Facile Synthetic Approach via One-pot *S*- and *O*-Glucosidic Bond Formation
J. Nat. Prod., **86**, 2672–2684, 2023 年 12 月

6. Nagatomo A, Kohno M, Kawakami H, Manse Y, Morikawa T : Inhibitory Effect of *trans*-Tiliroside on Very Low-Density Lipoprotein Secretion in HepG2 Cells and Mouse Liver
J. Nat. Med., **78**, 181–190, 2024 年 1 月
7. Takashima K, Nakamura S, Nagayama M, Marumoto S, Ishikawa F, Xie W, Nakanishi I, Muraoka O, Morikawa T, Tanabe G : Role of the Thiosugar Ring in the Inhibitory Activity of Salacinol, a Potent α -Glucosidase Inhibitor
RSC Adv., **14**, 4471–4481, 2024 年 2 月

[総説]

1. Matsuda H, Morikawa T, Nakamura S, Muraoka O, Yoshikawa M : New Biofunctional Effects of Oleanane-type Triterpene Saponins
J. Nat. Med., **77**, 644–664, 2023 年 9 月
2. Morikawa T : Pharmaceutical Food Science: Search for Bio-functional Molecules Obtained from Natural Resources to Prevent and Ameliorate Lifestyle Disease
Chem. Pharm. Bull., **71**, 756–765, 2023 年 10 月
表紙に選出

[その他の刊行物]

1. (Special Report) Yoshino T, Yokogawa T, Nakamichi K, Manse Y, Yoshikawa H, Sasaki H, Ando H, Nakashima S : Conference report: Third annual young researcher forum of the Japan Society of Medical and Pharmaceutical Sciences for Traditional Medicine
Tradit. Kampo Med., **10**, 78–81, 2023 年 3 月
2. (Foreword) 森川 敏生、久保田 高明、荒井 雅吉 : モノトリサイエンズ アップトゥデイト
YAKUGAKU ZASSHI, **144**, 19, 2024 年 1 月

[学会・シンポジウム]

1. 萬瀬貴昭、山田さくら、隅田昂太、坂本裕介、森川敏生: 延命草米由来 *ent*-kaurane 型ジテルペノイドの抗炎症作用およびその作用機序解析
第 77 回日本栄養・食糧学会大会 (札幌)、2023 年 5 月 12-14 日
(国内・ポスター)
2. 長友暁史、森川敏生、坂本裕介、武田匠平、萬瀬貴昭、中嶋聡一、中村誠宏、二宮清文、吉川雅之、松田久司: セリ科植物ヒュウガトウキ (*Angelica furcijuga*) 由来ケラクトン型クマリン類の生体機能性の解明
第 77 回日本栄養・食糧学会大会 (札幌)、2023 年 5 月 12-14 日
(国内・ポスター)
3. 角谷晃司、仲下英輝、森川敏生、川村展之、新居慶二、杉本一郎: 日本アカネの組織培養による繁殖技術と DNA 鑑定による分子系統解析
日本植物園協会第 58 回大会 (高知)、2023 年 5 月 29-31 日
(国内・ポスター)
4. 森川敏生: 生活習慣病予防に資する食品素材からの(機能性)関与成分の探索
日本食品化学学会第 29 回総会・学術大会 (富山)、2023 年 6 月 8-9 日
(国内・口頭)
招待講演
5. 萬瀬貴昭、羅 鳳琳、加藤和寛、岡崎 茜、岡田(西田)枝里子、柳田満廣、中村 翔、森川敏生 : 延命草由来 *ent*-kaurane 型ジテルペノイドの毛乳頭細胞増殖促進作用およびその作用機序解析
第 48 回日本化粧品学会 (東京)、2023 年 6 月 23-24 日
(国内・ポスター)

6. 中嶋聡一、諸頭佑香、田中舞子、松田久司、森川敏生、尾田好美: 糖化タンパク質による PC-12 細胞神経様突起伸張抑制に対するオオバゲッキツ葉部中の p-CREB1 結合性成分による軽減作用
第 40 回和漢医薬学会学術大会 (富山)、2023 年 8 月 26-27 日
(国内・ポスター)
7. 高山 真、山田麻未、森川敏生: TRADITIONAL & KAMPO MEDICINE, インパクトファクター獲得! ~学術誌発展へ向けた情報共有とお願い~
第 40 回和漢医薬学会学術大会 (富山)、2023 年 8 月 26-27 日
(国内・口頭)
招待講演
8. 高田隆矢、長友暁史、萬瀬貴昭、米田朱里、下田博司、森川敏生: 地膚子 (*Kochia scoparia*, 果実) の高脂肪食飼育マウスを用いた脂質吸収抑制作用
日本生薬学会第 69 回年会 (仙台)、2023 年 9 月 9-10 日
(国内・口頭)
優秀発表賞 (口頭発表の部) に選出
9. 中嶋聡一、田中舞子、諸頭佑香、松田久司、森川敏生、尾田好美: p-CREB1, ERF および E2F1 結合性オオバゲッキツ葉部成分が糖化タンパクによる PC-12 細胞神経様突起伸張抑制に与える影響
日本生薬学会第 69 回年会 (仙台)、2023 年 9 月 9-10 日
(国内・ポスター)
10. 上林将人、松田久司、中西郁夫、荘司好美、萬瀬貴昭、森川敏生: Berberine の放射線障害緩和作用における REDOX の関与について(第 2 報)
日本生薬学会第 69 回年会 (仙台)、2023 年 9 月 9-10 日
(国内・ポスター)
11. 長友暁史、河野麻実子、川上宏智、萬瀬貴昭、森川敏生 : アシル化フラボノール配糖体 *trans-tiliroside* の肝臓からの VLDL 分泌に及ぼす影響
日本生薬学会第 69 回年会 (仙台)、2023 年 9 月 9-10 日
(国内・ポスター)
12. 渡邊秀太、萬瀬貴昭、長友暁史、森川敏生: Gedunin 型リモノイドのメラニン産生抑制作用およびその構造活性相関
日本生薬学会第 69 回年会 (仙台)、2023 年 9 月 9-10 日
(国内・ポスター)
13. 萬瀬貴昭、徐 尹、森川敏生 : ヒロハセネガ根部の配糖体成分に関する研究
日本生薬学会第 69 回年会 (仙台)、2023 年 9 月 9-10 日
(国内・ポスター)
14. 佐々木将太郎、藤本社史、熊内雅人、福田陽一、森川敏生、赤井周司: 水耕栽培によるヒロハセネガの成長推移観察
日本生薬学会第 69 回年会 (仙台)、2023 年 9 月 9-10 日
(国内・ポスター)
15. 萬瀬貴昭、山田さくら、隅田昂太、坂本裕介、森川敏生: 延命草由来ジテルペノイドの NO 産生抑制活性における標的分子の同定
第 65 回天然有機化合物討論会 (東京)、2023 年 9 月 13-15 日
(国内・ポスター)
16. 山田さくら、萬瀬貴昭、隅田昂太、坂本裕介、森川敏生: *ent*-Kaurane 型ジテルペノイド *enmein* の NO 産生抑制活性における作用機序の解明および標的分子の同定
第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会 (神戸)、2023 年 10 月 14 日
(国内・口頭)
優秀口頭発表賞に選出

17. 渡邊秀太、萬瀬貴昭、長友暁史、森川敏生：ブラジル天然薬物 andiroba (*Carapa guianensis*) 由来リモノイドのメラニン産生抑制作用およびその構造活性相関
第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会（神戸）、2023 年 10 月 14 日
（国内・口頭）
18. 萬瀬貴昭、Raouf Fard Fatemeh、関戸楓華、中井夏花、村岡 修、森川敏生：イラン天然薬物 *Ferula ammoniacum* の新規セスキテルペンクマリンの化学構造
第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会（神戸）、2023 年 10 月 14 日
（国内・口頭）
19. 鈴木璃子、高島克輝、丸本真輔、石川文洋、萬瀬貴昭、森川敏生、田邊元三：ワンポット *S,O*-グリコシド結合形成反応を鍵とした calanthoside 誘導体の合成およびその HFDPC 増殖促進作用評価
第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会（神戸）、2023 年 10 月 14 日
（国内・ポスター）
20. 西川勝悟、萬瀬貴昭、楡 光世、中村萌笑、森川敏生：苦参 (*Sophora flavescens* Aiton, 根) 含有プレニルフラボノイドのヒアルロニダーゼ阻害活性
第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会（神戸）、2023 年 10 月 14 日
（国内・ポスター）
21. 西村 晴、萬瀬貴昭、西 さくら、羅 鳳琳、森川敏生：植物染料素材 "藤黄" 由来プレニルキサントンのコラゲナーゼ阻害活性
第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会（神戸）、2023 年 10 月 14 日
（国内・ポスター）
22. 石川和奏、長友暁史、神田愛華、萬瀬貴昭、森川敏生：タイ天然薬物 Phayom (*Shorea roxburghii*) 由来オリゴスチルベノイドの PTP1B 阻害活性
第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会（神戸）、2023 年 10 月 14 日
（国内・ポスター）
23. 長友暁史、渡邊秀太、石川和奏、萬瀬貴昭、森川敏生：アンディローバ含有リモノイド 7-deacetoxy-7-oxogedunin のオートファジーを介する肝細胞内中性脂肪低減作用
第 24 回天然薬物の開発と応用シンポジウム（広島）、2023 年 10 月 14-15 日
（国内・口頭）
24. 高田隆矢、長友暁史、萬瀬貴昭、米田朱里、竹田翔伍、下田博司、森川敏生：マウンテンキャピア抽出物および主要サポニン momordin Ic の脂肪吸収抑制作用
第 24 回天然薬物の開発と応用シンポジウム（広島）、2023 年 10 月 14-15 日
（国内・口頭）
25. 竹田翔伍、萬瀬貴昭、下田博司、森川敏生：米由来新規アシル化グルコシルセラミドの化学構造および表皮保湿作用
第 16 回セラミド研究会学術集会・第 17 回スフィンゴセラピー研究会合同年会（石川）、2023 年 11 月 15-17 日
（国内・口頭）
- 2023 年度 Young Investigator Award に選出**
26. Manse Y, Luo F, Kato K, Okazaki A, Okada E, Yanagida M, Nakamura S, Morikawa T: Effect of enmein from *Isodonis Herba* on Proliferation-promoting activity in human hair follicle dermal papilla cells: structural requirements and mode of action
The 15th International Kyoto Conference on New Aspects of Organic Chemistry (IKCOC-15, Kyoto, Japan)、2023 年 11 月 20-23 日
（国際・ポスター）

27. 田上貴臣、石田晃太、石原理恵、岡坂 衛、河端昭子、谷出沙也香、西尾雅世、山本 豊、横倉胤夫、吉川 舜、酒井英二、森川敏生、松田久司: 生薬品質集談会報告第 55 報-インヨウカクについて-TLC によるイカリイン分析法の検討
第 51 回生薬分析シンポジウム (オンライン)、2023 年 12 月 8 日
(国内・口頭)
28. 竹田翔伍、下田博司、萬瀬貴昭、森川敏生: マウンテンキャビア由来新規アシル化フラボノイド配糖体の化学構造および DPP-IV 阻害活性
日本農芸化学会 2024 年度大会 (東京)、2024 年 3 月 23-28 日
(国内・口頭)
29. 米田朱里、竹田翔伍、下田博司、萬瀬貴昭、森川敏生: 米由来新規アシル化グルコシルセラミドの化学構造および表皮保湿作用
日本農芸化学会 2024 年度大会 (東京)、2024 年 3 月 23-28 日
(国内・口頭)
30. 佐々木将太郎、藤野直也、熊内雅人、藤本祉史、福田陽一、森川敏生、赤井周司: ヒロハセネガの室内での育苗条件の探索検討
日本薬学会第 144 年会 (横浜)、2024 年 3 月 28-31 日
(国内・ポスター)
31. 宮坂賢知、Ong Guang、萬瀬貴昭、森川敏生、宮崎和雄、下田博司: 米由来グルコシルセラミドによる樹状細胞活性化の構造活性相関とその作用メカニズム
日本薬学会第 144 年会 (横浜)、2024 年 3 月 28-31 日
(国内・ポスター)
32. 西川勝悟、萬瀬貴昭、楡 光世、中村萌笑、森川敏生: 生薬クジン (苦参, SOPHORAE RADIX) 由来プレニルフラボノイドの抗アレルギー活性
日本薬学会第 144 年会 (横浜)、2024 年 3 月 28-31 日
(国内・ポスター)
33. 大津行延、高田隆矢、坂本裕介、萬瀬貴昭、眞岡孝至、松田久司、森川敏生: ヒュウガトウキ (*Angelica furcijuga*) に含有されるケラクトン型クマリンの抗アレルギー作用
日本薬学会第 144 年会 (横浜)、2024 年 3 月 28-31 日
(国内・ポスター)
34. 石川和奏、長友暁史、神田愛華、萬瀬貴昭、森川敏生: タイ天然薬物 *Shorea roxburghii* 樹皮由来オリゴスチルベノイドの PTP1B 阻害活性
日本薬学会第 144 年会 (横浜)、2024 年 3 月 28-31 日
(国内・ポスター)
35. 萬瀬貴昭、長友暁史、渡邊秀太、森川敏生: ブラジル生薬アンディローバ (*Carapa guianensis*) 由来リモノイド成分のメラニン産生抑制作用
日本薬学会第 144 年会 (横浜)、2024 年 3 月 28-31 日
(国内・ポスター)
36. 上林将人、中西郁夫、松田久司、萬瀬貴昭、森川敏生: Ca 拮抗薬開発における日本の貢献とレドックス制御からみた新展開
日本薬学会第 144 年会 (横浜)、2024 年 3 月 28-31 日
(国内・ポスター)
37. 長友暁史、河野麻実子、川上宏智、萬瀬貴昭、森川敏生: ローズヒップ由来 *trans*-tiliroside の肝臓からの VLDL 分泌抑制作用
日本薬学会第 144 年会 (横浜)、2024 年 3 月 28-31 日
(国内・ポスター)

38. 下田博司、萬瀬貴昭、竹田翔伍、宮坂賢知、米田朱里、森川敏生: 米油副産物「ガム質」に含まれるスフィンゴ脂質および糖脂質由来成分の単離・構造決定
日本薬学会第144年会(横浜)、2024年3月28-31日
(国内・ポスター)
39. 森川敏生、高田隆矢、大津行延、吉川真以、萬瀬貴昭: ツバキ種子に含まれるアシル化トリテルペンサポニン camelliasaponin B₂ の中性脂肪上昇抑制作用
日本薬学会第144年会(横浜)、2024年3月28-31日
(国内・ポスター)
40. 高田隆矢、長友暁史、萬瀬貴昭、米田朱里、竹田翔伍、下田博司、松田久司、森川敏生: オレアナン型トリテルペンサポニン momordin Ic の高脂肪食飼育マウスを用いた脂肪吸収抑制作用
日本薬学会第144年会(横浜)、2024年3月28-31日
(国内・ポスター)
41. 荒井雅吉、久保田高明、森川敏生: モノトリサイエンス アップトゥデート
日本薬学会第144年会(横浜)、2024年3月28-31日
(国内・口頭)
一般シンポジウム・オーガナイザー

[研究報告書]

1. 森川敏生(代表): 伝統・伝承薬物資源からの内臓脂肪蓄積低減物質の探索とその科学的評価
2023年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C) 実績報告書
2. 松田久司(代表)、森川敏生(分担)、萬瀬貴昭(分担): メタボリックシンドロームに有用な総エネルギー消費促進素材の探索
2023年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C) 実績報告書
3. 森川敏生(分担): 小松菜由来 GIPC の商品化を目指した研究開発
2023年度 あいち中小企業応援ファンド新事業展開応援助成金 実績報告書

[外部助成]

1. 森川敏生(代表)、萬瀬貴昭(分担): 伝統・伝承薬物資源からの内臓脂肪蓄積低減物質の探索とその科学的評価
2022-2024年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)
2. 松田久司(代表)、森川敏生(分担)、萬瀬貴昭(分担): メタボリックシンドロームに有用な総エネルギー消費促進素材の探索
2023-2025年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)
3. 森川敏生(代表): 杜仲葉の食材利用をめざしたアレンジレシピ・ドリンクの開発
日本杜仲研究会 第17回 研究助成(日本杜仲研究会)
4. 角谷晃司(代表)、森川敏生(分担): 健康長寿・未病効果が期待できる新たな機能性食品の開発をめざした実践研究
機能性健康米協会 第3回研究助成(機能性健康米協会)
5. 森川敏生(分担): 免疫強化作用を訴求した3種の機能性コメセラミド食品原料の研究開発および事業化
令和5年度成長型中小企業研究開発支援事業(Go-Tech事業)
6. 森川敏生(分担): 小松菜由来 GIPC の商品化を目指した研究開発
2023年度 あいち中小企業応援ファンド新事業展開応援助成金

7. 森川敏生(分担): 和歌山県産農産物の抗老化活性と有効成分の探索
令和5年度 大学等地域貢献推進事業 高等教育機関コンソーシアム和歌山

[特許]

1. 森川敏生、宮坂賢知、竹田翔伍、下田博司、村井弘道: メラニン生成抑制剤
特開2023-53550、オリザ油化株式会社、学校法人近畿大学 (2023年4月13日 公開)
2. 森川敏生、宮坂賢知、竹田翔伍、下田博司、村井弘道: 水分蒸散量抑制剤
特開2023-53551、オリザ油化株式会社、学校法人近畿大学 (2023年4月13日 公開)
3. 森川敏生、竹田翔伍、山田和佳奈、宮坂賢知、下田博司、村井弘道: メラニン生成抑制剤
特開2023-78057、オリザ油化株式会社、学校法人近畿大学 (2023年6月6日 公開)
4. 森川敏生: ミョウガの葉部を用いた中性脂質吸収抑制剤
特願2023-093183、株式会社サンライト・リング・ブレス、学校法人近畿大学 (2023年6月6日 出願)
5. 森川敏生、下田博司、米田朱里、村井弘道: 血小板凝集抑制剤
特願2023-148766、オリザ油化株式会社、学校法人近畿大学 (2023年9月13日 出願)
6. 森川敏生、萬瀬貴昭、竹田翔伍、宮坂賢知、下田博司、米田朱里、村井弘道: 新規化合物及びその用途
特願2023-148557、オリザ油化株式会社、学校法人近畿大学 (2023年9月13日 出願)
7. 森川敏生、竹田翔伍、米田朱里、下田博司、村井弘道: 経皮水分蒸散量低下剤
特願2023-149050、オリザ油化株式会社、学校法人近畿大学 (2023年9月14日 出願)
8. 森川敏生、米田朱里、宮坂賢知、下田博司、村井弘道: 血管透過性抑制剤及びそれを用いた冷え性改善剤
特願2023-151560、オリザ油化株式会社、学校法人近畿大学 (2023年9月19日 出願)
9. 森川敏生、萬瀬貴昭、竹田翔伍、宮坂賢知、下田博司、米田朱里、村井弘道: 新規化合物及びその用途
特願2023-198871、オリザ油化株式会社、学校法人近畿大学 (2023年11月24日 出願)
10. 西田升三、椿 正寛、武田朋也、田邊元三、高島克輝、森川敏生: Pharmaceutical composition for preventing cytokine storm
EP4292593 A1、学校法人近畿大学 (2023年12月20日 公開)
11. 西田升三、椿 正寛、武田朋也、田邊元三、高島克輝、森川敏生: Pharmaceutical composition for ameliorating allergic diseases
WO/2024/029528 A1、学校法人近畿大学 (2024年2月8日 公開)
12. 宮坂賢知、米田朱里、竹田翔伍、下田博司、森川敏生、村井弘道: 免疫抑制剤
特開2024-19367、オリザ油化株式会社、学校法人近畿大学 (2024年2月9日 公開)
13. 森川敏生、萬瀬貴昭、竹田翔伍、下田博司、村井弘道: 新規化合物、その用途、及び新規化合物の製造方法
特願2024-038051、オリザ油化株式会社、学校法人近畿大学 (2024年3月12日 出願)
14. 西田升三、椿 正寛、武田朋也、森川敏生、梶山翔太、石川 悟: Agent for preventing peripheral neuropathy
US2024/009989 A1、小林製薬株式会社、学校法人近畿大学 (2024年3月28日 公開)

[報償等]

1. Morikawa T: Pharmaceutical food science: search for bio-functional molecules obtained from natural resources to prevent and ameliorate lifestyle disease
Chem. Pharm. Bull., **71**, 756–765, 2023 年 10 月
表紙に選出
2. 高田隆矢、長友暁史、萬瀬貴昭、米田朱里、下田博司、森川敏生: 地膚子 (*Kochia scoparia*, 果実) の高脂肪食飼育マウスを用いた脂質吸収抑制作用
日本生薬学会第 69 回年会 (仙台)、2023 年 9 月 9-10 日
(国内・口頭)
優秀発表賞 (口頭発表の部) に選出
3. 山田さくら、萬瀬貴昭、隅田昂太、坂本裕介、森川敏生: *ent*-Kaurane 型ジテルペノイド enmein の NO 産生抑制活性における作用機序の解明および標的分子の同定
第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会 (神戸)、2023 年 10 月 14 日
(国内・口頭)
優秀口頭発表賞に選出
4. 竹田翔伍、萬瀬貴昭、下田博司、森川敏生: 米由来新規アシル化グルコシルセラミドの化学構造および表皮保湿作用
第 16 回セラミド研究会学術集会・第 17 回スフィンゴテラピィ研究会合同年会 (石川)、2023 年 11 月 15-17 日
(国内・口頭)
2023 年度 Young Investigator Award に選出

[教育・社会活動]

1. 森川敏生: 講演 薬用・食用資源からの活性天然物とその開発・応用に関する食品薬学研究
第 295 回大阪生薬協会・技術部会 特別講演 (大阪, 一般社団法人大阪薬業クラブ)、2024 年 2 月 22 日
2. 森川敏生: アンエイジングセンター センター長
2023 年 4 月～
3. 森川敏生: アンエイジングセンター 所員
2007 年 6 月～
4. 森川敏生: 神戸常盤大学 医療検査学科 非常勤講師「化学Ⅱ (有機化学)」
2022 年 4 月～
5. 森川敏生: 大阪大学薬学部 非常勤講師、委託講師「漢方薬学」
2020 年 4 月～
6. 森川敏生: 日本生薬学会 代議員
2017 年 9 月～
7. 森川敏生: 日本生薬学会 学会誌編集委員
2014 年 4 月～
8. 森川敏生: 日本生薬学会 学会誌副編集委員長
2022 年 4 月～
9. 森川敏生: 京都漢方研究会 理事
2014 年 4 月～
10. 森川敏生: 和漢医薬学会 理事
2020 年 9 月～2024 年 8 月

11. 森川敏生: 和漢医薬学会 評議員・代議員
2014年9月～
12. 森川敏生: 天然香気研究会 監事
2023年4月～
13. 森川敏生: 日本抗加齢医学会 評議員
2023年6月～
14. 森川敏生: 日本薬系学会連合 総務委員会委員
2023年7月～
15. Morikawa T: Editorial Board Member of *Traditional & Kampo Medicine* (Wiley) Editor-in-Chief (Basic Research)
2020年9月～
16. Morikawa T: Editorial Board Member of *Traditional & Kampo Medicine* (Wiley) Associate Editor (Basic Research)
2017年9月～
17. 森川敏生: 日本食品化学学会 編集委員
2016年1月～
18. Morikawa T: Editorial Board Member of *Molecules* (MDPI)
2019年7月～
19. Morikawa T: Editorial Board Member of *Acupuncture and Herbal Medicine* (Wolters Kluwer)
2021年9月～
20. Morikawa T: Associate Editor for Organic Chemistry of *Frontiers in Chemistry* (Frontiers)
2022年10月～
21. Morikawa T: [Topics] Topic Editor “Purification of Plant Extracts”
2023年5月～2024年6月
22. 森川敏生: 生薬品質集談会 会員
2019年1月～
23. 森川敏生: NPO 法人 発達はじめの一步 理事
2020年2月～
24. 森川敏生: 日本薬史学会 2023 年会（岡山）実行委員会 アドバイザー
2022年11月～2023年10月
25. 森川敏生: 日本生薬学会第70回年会 年会会長, 実行委員会 委員長
2023年12月～2024年11月
26. 森川敏生: 第8回京都生体質量分析研究会国際シンポジウム (8th KBMSS) 大会副実行委員長
2024年3月～2025年2月
27. 森川敏生: 第3回天然香気研究会講演会 実行委員長
2024年3月～2025年2月
28. 森川敏生: 独立行政法人日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員
2022年11月～2024年10月

29. 森川敏生: 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 生物系特定産業技術研究支援センター オープンイノベーション研究・実用化推進事業 評議委員
2023年3月～2025年3月
30. 萬瀬貴昭: 日本薬学会 代議員
2023年2月～
31. 萬瀬貴昭: 日本生薬学会第70回年会 実行委員会 委員
2023年12月～2024年11月

薬学総合研究所 先端バイオ医薬研究室

職・氏名・学位

准教授・森山 博由・博士(理学) 担当科目：基礎ゼミ(1)、生物学演習(創1 併担)、基礎生物学英語(創2)、創薬科学実習Ⅱ(創2 分担)、創薬科学演習(創

Hiroyuki Moriyama 3 分担)

所属学会：国際幹細胞学会 (ISSCR)、国際脂肪組織治療科学会 (IFATS)、日本再生医療学会、日本分子生物学会、日本皮膚科学会、日本形成外科学会、日本研究皮膚科学会、細胞再生医療学会

現在行われている主な研究テーマ

1. 脂肪組織を用いた新規間葉幹細胞の開発
2. 幹細胞を用いた細胞・臓器再生を介する再生医療への橋渡し研究
3. 幹細胞の維持・多分化能のメカニズムの解明とその可塑性の研究
4. 皮膚組織の恒常性維持機構の解明と皮下組織を含む皮膚組織構の人工構築
5. 機能性化粧品およびスキンケア用品の開発と美容医療基盤技術の開発
6. 悪性黒色腫の発症メカニズムの解明と新規増悪性抑制法の開発
7. ヒト幹細胞の造腫瘍性における病態解明とその克服に関する研究
8. 再生医療に資する幹細胞を用いた製品開発等のレギュラトリーサイエンス
9. 再生医療実用化加速のための幹細胞等由来製品評価に最低限必須・共通の技術要件・基準に関する研究

研究業績

[原著論文]

1. Moriyama M, Miyake Y, Degawa T, Okumura N, Moriyama H (corresponding author) : Royal Jelly Maintains Epidermal Stem Cell Properties by Repressing Senescence.
Journal of Food Biochemistry e-open access, 2023 年 10 月
2. 森山博由 (責任著者)、森山麻里子 : ヒト三次元モデル作製製の留意点と展望.
THE CHEMICAL TIMES (266) 2-8, 2022 年 10 月

[その他の刊行物]

2. S. Goto, M. Moriyama, M. Wakatake, Y. Miyake, H. Moriyama. FoxO3a-regulating mitochondrial dynamics affects wound healing through regulating fibroblast migration. *Dermatology Meeting 2023, Young Researcher Oral Presentation Award Manuscript (Control ID 3887127)*
International Societies for Investigative Dermatology Meeting 2023 Reports, 27th March 2023 issue.
3. M. Wakatake, M. Moriyama, Y. Miyake, H. Moriyama. Epidermal expression of Hes1 controls immune response. *Dermatology Meeting 2023, Young Researcher Oral Presentation Award Manuscript (Control ID 3887127)*
International Societies for Investigative Dermatology Meeting 2023 Reports, 27th March 2023 issue.
4. 森山麻里子、森山博由 (責任著者) : オートファジーのある暮らし「特集：オートファジーを知る～美容×オートファジー～」：第1項 表皮の機能維持に関わるオートファジー誘導因子 BNIP3 とは.
オートファジーコンソーシアム配信会誌 (<https://autophagylife.evodevodesign.net/special02/>) 2023 年 7 月 11 日

5. 森山麻里子、森山博由（責任著者）：オートファジーのある暮らし特集：オートファジーを知る～美容×オートファジー～」：第2項 美容領域における具体的なオートファジーの活用。
オートファジーコンソーシアム配信会誌 (<https://autophagylife.evodevodesign.net/special02/>) 2023年7月11日
6. 森山麻里子、森山博由（責任著者）：特集：オートファジーを知る～美容×オートファジー～」：第3項 皮膚への物理的な刺激がオートファジーを活性化させる可能性。
オートファジーコンソーシアム配信会誌 (<https://autophagylife.evodevodesign.net/special02/>) 2023年7月14日
7. 特集：最新の研究で判明！ シミも白髪も消せる時代はすぐそこに～奇跡の現象を謎解くリアル「神ワザ科学-サイエンス-」トピック2：シミを阻止する新成分の発見。
雑誌『からだにいいこと』12月号, p45. 2023年12月1日発刊【査読なし】

[学会・シンポジウム]

1. S. Goto, M. Moriyama, M. Wakatake, Y. Miyake, H. Moriyama : FoxO3a-regulating mitochondrial dynamics affects wound healing through regulating fibroblast migration. **Young Researcher Oral Presentation Award.** (口頭発表)
International Societies for Investigative Dermatology Meeting 2023. 22th March 2023.
2. S. Goto, M. Moriyama, M. Wakatake, Y. Miyake, H. Moriyama : FoxO3a-regulating mitochondrial dynamics affects wound healing through regulating fibroblast migration. **Young Researcher Oral Presentation Award.** (ポスター発表 on web-based broadcasting)
International Societies for Investigative Dermatology Meeting 2023. 22th March 2023.
3. M. Wakatake, M. Moriyama, Y. Miyake, H. Moriyama : Epidermal expression of Hes1 controls immune response. **Young Researcher Oral Presentation Award.** (口頭発表)
International Societies for Investigative Dermatology Meeting 2023. 22th March 2023.
4. M. Wakatake, M. Moriyama, Y. Miyake, H. Moriyama : Epidermal expression of Hes1 controls immune response. **Young Researcher Oral Presentation Award.** (ポスター発表 on web-based broadcasting)
International Societies for Investigative Dermatology Meeting 2023. 22th March 2023.
5. 和木田夏輝、今村 翼、佐原俊矢、仲尾次浩一、濱田和彦、水谷健一、森山麻里子、森山博由：表皮構造における細胞内アクチン線維束の役割とアサイー/クプアスエキスの効果. Role of intracellular actin stress fibers in epidermal structure and effects of acai/cupuacu extract. (口頭発表)
第48回 日本化粧品学会 (ハイブリッド開催, 有楽町朝日ホール) 2023年6月23日.
6. 和木田夏輝、今村 翼、佐原俊矢、仲尾次浩一、濱田和彦、水谷健一、森山麻里子、森山博由：表皮構造における細胞内アクチン線維束の役割とアサイー/クプアスエキスの効果. Role of intracellular actin stress fibers in epidermal structure and effects of acai/cupuacu extract. (Webポスター発表)
第48回 日本化粧品学会 (ハイブリッド開催, 有楽町朝日ホール) 2023年6月23日.
7. 萬 未帆、森山麻里子、早川堯夫、森山博由：膚創傷の治癒に FoxO3a は重要な役割を担う. (ポスター発表)
第73回日本薬学会関西支部総会・大会、2023年10月14日
8. 和木田夏輝、今村 翼、佐原俊矢、仲尾次浩一、藤原茂久、濱田和彦、水谷健一、森山麻里子、森山博由：アサイー/クプアスエキスのハリ・弾力改善効果とその作用機序の解明..(ポスター発表)
第1回 日本化粧品技術者会学術大会 2023年12月6日
9. 三宅佑有子、森山麻里子、八木正敏、谷口義隆、森山博由：表皮での Hes1 の働きについて. The functions of Hes1 in the epidermis (ポスター発表)
第46回日本分子生物学会年会、2023年12月6日

10. 萬 未帆、森山麻里子、若竹茉夏、後藤彩文、三宅佑有子、森山博由： FoxO3a はミトコンドリアダイナミクスを制御することで皮膚の恒常性維持に寄与する. FoxO3a contributes to maintain skin homeostasis by regulating mitochondrial dynamics. (ポスター発表)
第 46 回日本分子生物学会年会、2023 年 12 月 6 日
11. 萬 未帆、森山麻里子、若竹茉夏、後藤彩文、三宅佑有子、森山博由： FoxO3a はミトコンドリアダイナミクスを制御することで皮膚の恒常性維持に寄与する. FoxO3a contributes to maintain skin homeostasis by regulating mitochondrial dynamics. (口頭発表)
関西 5 私大合同リトリート、2024 年 3 月 12 日
12. 後藤彩文、森山麻里子、若竹茉夏、萬 未帆、三宅佑有子、森山博由： FoxO3a は創傷治癒時の整容性に寄与する. FoxO3a regulates a fine cosmeticity (healthy skin repair) during wound healing. (口頭発表)
関西 5 私大合同リトリート、2024 年 3 月 12 日
13. 森山博由： 皮膚が司るヒト恒常性の創護を解明. Elucidating the skin's role in creating and protecting human homeostasis. (基調講演)
関西 5 私大合同リトリート、2024 年 3 月 12 日

[研究報告書]

1. 森山博由(代表): 再生医療に資する質と量を担保できる真のヒト脂肪由来幹細胞の探求
科学研究費助成事業 基盤研究 C
2. 森山博由(分担): Notch シグナルによるオートファジーとストレス応答機能の役割解明
科学研究費助成事業 基盤研究 C
3. 森山博由(分担): ヒト iPS 細胞等由来分化細胞の臨床応用に資するレシピエントの免疫状態の影響評価
AMED 委託研究費 再生医療実用化研究事業
4. 森山博由(分担): 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に対する治療薬開発
AMED 委託研究費 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) (3 次公募) 研究事業
5. 森山博由(分担): 医薬品等審査迅速化事業費補助金 (革新的医療機器等国際標準獲得推進事業 : 大阪大学医学部/同大学院主管校 (特別分担研究 : 外部参加機関 [脂肪由来間葉系幹細胞班・近畿大学薬学総合研究所先端バイオ医薬研究室])
AMED 委託研究費 再生医療実用化研究事業
6. 森山博由(協力分担): その他 AMED 受託研究等協力研究機関 (分担・協力研究フォーム) 報告書 : 7 件

[外部助成]

1. 森山博由(代表): 再生医療に資する質と量を担保できる真のヒト脂肪由来幹細胞の探求
令和 5 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C)
2. 森山博由(分担): Notch シグナルによるオートファジーとストレス応答機能の役割解明
令和 5 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C)
3. 森山博由(代表): (研究テーマ概要) ヒト表皮構造および恒常性等に関する研究、他 3 課題 [3 件]
国内化粧品企業 受託研究費及び寄付研究費

4. 森山博由(代表): (研究テーマ概要) 皮膚保湿維持効果に関する生薬由来抽出物等の in vitro ヒト皮膚評価と機能解析に関する研究、他 4 課題 [5 件]
海外化粧品企業 受託研究費及び寄付研究費
5. 森山博由(代表): (研究テーマ概要) ヒト皮膚の恒常性維持等に関する根本的基礎研究～臨床橋渡し研究～・他 1 課題 [2 件]
海外製薬企業 受託研究費及び寄付研究費
6. 森山博由(代表): (研究テーマ概要) 再生医療用の新規バイオマテリアルや化学素材の開発[5 件]
工業系企業 受託研究費及び寄付研究費
7. 森山博由(代表): (研究テーマ概要) 再生医療 (臨床) 再生医療 (臨床) 用の間葉系幹細胞作製・保管技術の開発
ケミカル系企業 受託研究費及び寄付研究費
8. 森山博由(代表): (研究テーマ概要) 間葉系幹細胞を用いた急性期もしくは慢性期神経系疾患における新規再生医療法の開発
神戸市および医薬ベンチャー系企業 受託 (共同) 研究費
9. 森山博由(代表): (研究テーマ概要) 次世代化粧品性医薬品開発に係る課題 (名称非公開)
外資系製薬企業・米国大学-コンソーシアム 委託国際研究支援費
10. 森山博由(分担): (研究テーマ概要) パンデミック感染症対策に係る課題 (名称非公開)
革新的幹細胞基礎研究支援事業 (国際コンソーシアム): 招聘国際研究グラント
11. 森山博由(分担): (研究テーマ概要) コロナウイルス:ワクチン開発支援 (Dry 研究) 国際支援事業: 継続課題
(本年度より) 内閣府直轄事業研究費 (前臨床研究: 感染対策班: 研究代表一括)
12. 森山博由(分担): (研究テーマ概要) コロナウイルス:ワクチン開発支援 (wet 研究) 国際支援事業: 継続課題
(本年度より) 内閣府直轄事業研究費 (前臨床研究: 亜急性救命対策班: 研究代表一括)
13. 森山博由(分担): (研究テーマ概要) 脂肪由来間葉系間質/幹細胞とマラリア治療のさきがけ; 国際支援事業
日本-タイ国 ODA 支援研究費 (班研究: 研究代表一括)
14. 森山博由(分担): (研究テーマ概要) アジア-アフリカ水資源枯渇に係る未来予想; 国際支援事業 (AI 開発)
Asia-Africa OECD 事業 (班研究: 研究代表一括)

[教育・社会活動]

1. 森山博由: 「皮膚組織の科学～未知の幹細胞の役割～」第 2 回日本若手皮膚科学シンポジウム【Online 教育講演: オンライン配信】
第 2 回日本若手皮膚科学シンポジウム (web)、2023 年 8 月 25 日
2. 森山博由: 再生医療推進に資する幹細胞の製作に関する留意点. 【基調講演】
第 3 回健康長寿再生医療委員会教育研修会, 2023 年 9 月 1 日
3. 森山博由: 皮膚が司るヒト恒常性の創護を解明. Elucidating the skin's role in creating and protecting human homeostasis. (基調講演)
関西 5 私大合同リトリート、2024 年 3 月 12 日
4. 森山博由、森山麻里子: 再生医療、大手企業の美容医療研究部門、ならびに化粧品や美容医療系企業 (含: ベンチャー企業) 等への研究開発・特許対策等の相談支援【相談件数の平均 3 件/月】

5. 森山博由: 産官学における間葉系幹細胞の培養技術の開発支援や技術指導【12回/年】
6. 森山博由: 官における再生医療法案(草案)の草稿支援および新規パンデミック感染対策スキーム構築支援などの公的な活動支援【2回/月】
7. 森山博由: 再生医療や皮膚科学系の若手研究者の産学融合コンソーシアムによる研究教育支援のサポートなど【2回/年】

(講義・研究会講演等)

1. 今年度は研究室単位での小規模研究教育支援セミナー(web開催)を3件開催した。その開催先の機関を以下に示す。神戸理化学研究所(理研BDR)、東京医科歯科大学 医学研究科, 釧路市立大学、甲南大学。

(会議・会合参加等)

1. 以下の(公職・学外役員等)の項に挙げる学外役職について、各々につき平均2回/年のペースにて諸会議および関連する招集会議にweb参加した。

(公職・学外役員等)

1. 森山博由: Frontiers Group [Nature Publishing Group] (Biological Science), Editorial board ASIA member
2013年8月～
2. 森山博由: 大阪府バイオヘッドクウォーター
2011年4月～
3. 森山博由: 生命機能研究会 組織運営委員
2012年4月～
4. 森山博由: 細胞再生医療研究会 組織運営委員
2014年4月～
5. 森山博由: Notch シグナル研究班 班員
2011年4月～
6. 森山博由: 皮膚の会 執行委員
2016年11月～
7. 森山博由: 国内IT企業 技術顧問/社外監査
2017年3月～
8. 森山博由: 国内企業・再生医療部門 顧問
2018年4月～
9. 森山博由: 再生医療系ベンチャー企業 顧問
2018年4月～
10. 森山博由: 再生医療臨床診査議会 責任審査員
2019年10月～
11. 森山博由: ハーバード医科大学 皮膚科学研究所 客員教授
2020年9月～
12. 森山博由: 健康長寿再生医療委員会 細胞加工領域主席審査委員
2021年4月～
13. 森山博由: スタンフォード大学 再生医学研究領域 在外協力研究者
2019年10月～

14. 森山博由: 神戸理化学研究所 特任 (所外共同研究) 非常勤研究員
2010年4月～
15. 森山博由: 再生医療系ベンチャー企業 アドバイザー: 2件
2021年4月～
16. 森山博由: グローバル環境保全事業 (未来の食の在り方) 技術顧問
2022年10月～

教養・基礎教育部門研究室

職・氏名・学位

教授・武富 利亜・博士(比較社会文化)

Taketomi Ria

担当科目：英語演習 3、英語演習 4、英語演習 1 再履修、英語演習 2 再履修、近大ゼミ、国際化と異文化理解、科学英語コミュニケーション演習 2、科学英語コミュニケーション先進演習 1、科学英語コミュニケーション先進演習 2、実践科学英語演習

所属学会：日本英語英文学会、日本比較文化学会、新英米文学会

准教授・ウイリアム・チャールズ・フィゴーニ・修士(教育学)
William Charles FIGONI

担当科目：オーラルイングリッシュ 1、オーラルイングリッシュ 2、オーラルイングリッシュ 3、オーラルイングリッシュ 4、プレゼンテーション英語、国際化と異文化理解、科学英語コミュニケーション演習 2、科学英語コミュニケーション先進演習 1、科学英語コミュニケーション先進演習 2

所属学会：全国語学教育学会、映画英語教育学会

准教授・田中 博晃・博士(教育学)

Tanaka Hiroaki

担当科目：英語演習 1、英語演習 2、英語演習 2 再、国際化と異文化理解、科学英語コミュニケーション演習 1、科学英語コミュニケーション演習 2、科学英語コミュニケーション先進演習 1、科学英語コミュニケーション先進演習 2、近大ゼミ

所属学会：全国英語教育学会、外国語教育メディア学会、日本教育心理学会、日本発達心理学会、日本教科教育学会

現在行われている主な研究テーマ

1. 人間とロボット：科学と文学の視点からの考察
2. カズオ・イシグロの作品を中心テーマに据えた英米日文学及び文化研究
3. Understanding international communication
4. Presentation skills and public speaking
5. 第2言語習得に関する研究
6. 学習意欲を高める方法に関する研究
7. 映像メディアの学習効果に関する研究

研究業績

[原著論文]

1. 武富利亜：「カズオ・イシグロと父親——石黒鎮雄のエッセイから『わたしたちが孤児だったころ』の「孤児」を考察して」
比較文化研究, pp. 219-232, 2023 年 4 月
2. Taketomi R : Osamu Tezuka's Astro Boy and Kazuo Ishiguro's Klara and the Sun, "*Japanese Perspectives on Kazuo Ishiguro*"
Palgrave McMillan, Jan. 2024. (ISBN: 3031249976)
3. 田中博晃：内発的動機づけを高めるオンラインアクティブラーニング型授業—知的的好奇心・実用価値の内在化・満足感の観点からの効果の検証—
LET 関西支部研究集録, 22, 47-64, 2024 年 3 月
4. 田中博晃：我が国の Motivational Strategies に関する研究動向の概観：CiNii データベースを用いたシステムティックレビュー.
LET 関西支部研究メソドロジー研究会報告論集, 16, 34-50, 2024 年 3 月

[著書]

1. Taketomi R : *Japanese Perspectives on Kazuo Ishiguro*
Palgrave McMillan, Jan. 2024.

[その他の刊行物]

1. カズオ・イシグロ『わたしたちが孤児だったころ』父との確執解消、作品に変化
2023 年 9 月 5 日 神戸新聞（文化）
2. イシグロ作品に“境” 父と確執、浄化か
2023 年 8 月 21 日 長崎新聞
3. 父の愛憎浄化した一作——イシグロの作品の謎
2023 年 7 月 23 日 日本海新聞
4. 父子の愛憎浄化した一冊論文で「転換」の謎探究
2023 年 7 月 19 日 宮崎新聞
5. 父への愛憎を浄化か カズオ・イシグロ『わたしたちが孤児だったころ』
2023 年 7 月 18 日 岩手日報
6. カズオ・イシグロ父への愛憎の謎探る
2023 年 7 月 21 日 東奥新聞

[学会・シンポジウム]

1. 武富利亜：「映画等で描かれる人間と AI（人工知能を含む）ロボットの変遷」
第 36 回比較文化学会九州支部大会、2024 年 3 月 2 日
2. 武富利亜：『クララとお日さま』に描かれる AI ロボットと人間の共生関係
日本英語英文学会（千葉工業大学於）、2024 年 2 月 17 日
3. 田中博晃：オンデマンド配信型英語プレゼンテーション活動の実践。
第 54 回中国地区英語教育学会（広島）2023 年 6 月
4. 田中博晃：学習意欲を高めるアクティブラーニング型の英語授業。
日本発達心理学会第 35 回大会（大阪）2024 年 3 月

5. 田中博晃: 内発的動機づけを高めるアクティブラーニング型授業.
LET 関西メソドロジー研究部会 2023 年度第 3 回研究会 (北海道) 2024 年 3 月

[教育・社会活動]

1. 武富利亜: 日本英語英文学会 東海支部長

2023 年 2 月～現在

令和 6 年 7 月 29 日 発行

近畿大学薬学部活動報告集（令和 5 年度）

編集・発行

近畿大学薬学部 自己点検評価委員会・薬学部学生センター



近畿大学

KINDAI UNIVERSITY